

基本情報

学科名	生物	分野	基礎分野 [科学的思考の基礎] 自然科学			講師名	江頭 恒	
履修学年・学期	1年 前期	授業方式	講義/演習	単位数	2単位	30時間	授業回数	15
教員の 実務経験	博士（医学）。現在は熊本大学大学院先端科学研究部准教授。研究専門分野は分子細胞生物学。							
授業との 関連性	本務先の大学での研究、教育を踏まえ、生物学の基礎を講義・演習する。							

詳細情報

授業目標	1) 生物を構成する細胞の構造と機能、2) 細胞の一生と組織、個体の成り立ち、3) 生命の連続と発生、4) 動物の反応とホメオスタシスについて学修し、専門科目を学ぶための基礎を修得する。									
成績評価 方法	定期試験	100点	小テスト レポート	点	実技・発表 ワーク(演習) など	点	受講態度	点	合計	100点
	<b>(学則)</b> <b>合格点</b> ；60点以上とし、不合格の学科目は1回限り <b>再試験</b> を受けることができる。 <b>追試験</b> ；学期試験を欠席した場合は1回限り <b>追試験</b> を受けることができる。 <b>欠課</b> ；①開始20分以降の遅刻 ②終了20分以前の早退 ③同一学科目で遅刻及び早退を4回した者 <b>受験を認めない要件</b> ；各学科目の授業時間数が3分の2に満たない者									
教科書名	歯科衛生学シリーズ「生物学」 川合進二郎著 他 医歯薬出版KK									
参考文献	授業中に随時、紹介する。									
使用設備・備品・ 準備物	プロジェクター（HDMIの接続ケーブル）									
履修上の 注意	教科書を使用しますが、講義資料（A3用紙）もほぼ毎時間、配布するので、そのファイルを用意すること。前回の講義資料も併せて持参すること。ノートを用意して授業中の要点などを記すこと。									
回	授業計画				到達目標			準備学習		
1	授業への導入 授業方法、注意点などを説明する。 生命とは何か、生物の特徴や生体を構成する物質について説明する。また、生命の誕生や変遷について学習する。				生物は何で作られ、何をできるのか、またどのように誕生し、変遷してきたかを知る。			予習：教科書の最初～p14を読ん でくること。 復習：教科書p2～p13を理解 できるよう学習すること。		
2	細胞の構造と機能（1） 生体、細胞を構成するタンパク質や核酸などについて説明する。				生体、細胞を構成する物質を理解する。			予習：前回の教科書、ノート、 講義資料をよく見直して来ること。 復習：教科書p16～p21を理解 できるよう学習すること。		
3	細胞の構造と機能（2） 細胞の構造や、細胞小器官の構造と機能について説明する。				細胞の構造、細胞小器官の構造と機能を理解する。			予習：前回の教科書、ノート、 講義資料をよく見直して来ること。 復習：教科書p22～p28を理解 できるよう学習すること。		
4	細胞の構造と機能（3） 細胞の機能について説明する。				細胞の機能、活動を理解する。			予習：前回の教科書、ノート、 講義資料をよく見直して来ること。 復習：教科書p28～p35を理解 できるよう学習すること。		
5	細胞の一生と組織、個体の成り立ち（1） 動物細胞の分裂、死、分化について説明する。				1個の細胞が分裂、死、分化する運命を選び、一生を送ることを理解する。			予習：前回の教科書、ノート、 講義資料をよく見直して来ること。 復習：教科書p36～p40を理解 できるよう学習すること。		

回	授業計画	到達目標	準備学習
6	細胞の一生と組織、個体の成り立ち（2） ヒトの組織、器官について説明する。	個体を成り立たせる組織、器官の構造と機能を理解する。	予習：前回の教科書、ノート、講義資料をよく見直して来ること。 復習：教科書p40～p47を理解できるよう学習すること。
7	これまでの補習・まとめと解説（1）	1回目～6回目までの授業内容に関して、小テストを行った後に、解説する。	予習：1回目～6回目までの授業内容をすべて学習しておくこと。 復習：小テストの内容や十分に理解できていなかった内容を再度学習すること。
8	生命の連続と発生（1） 動物の生殖や、配偶子形成、減数分裂について説明する。	生命の連続性を担う生殖、配偶子形成、減数分裂を理解する。	予習：前回の教科書、ノート、講義資料をよく見直して来ること。 復習：教科書p50～p54を理解できるよう学習すること。
9	生命の連続と発生（2） 生殖に伴う遺伝を司る遺伝子について説明する。	遺伝子の構造や働きを理解する。	予習：前回の教科書、ノート、講義資料をよく見直して来ること。 復習：教科書p55～p68を理解できるよう学習すること。
10	生命の連続と発生（3） 動物の受精や、胚発生、器官形成などについて説明する。	生殖によって動物個体を生み出す受精や、胚発生、器官形成などを理解する。	予習：前回の教科書、ノート、講義資料をよく見直して来ること。 復習：教科書p69～p72を理解できるよう学習すること。
11	動物の反応とホメオスタシス（1） 外部刺激の受容とヒトの感覚器について説明する。また、神経系による刺激の伝達から効果器による反応までについて説明する。	外部刺激の受容とその役割を果たす感覚器を理解する。また、神経系による刺激の伝達から効果器による反応までを理解する。	予習：前回の教科書、ノート、講義資料をよく見直して来ること。 復習：教科書p74～p83を理解できるよう学習すること。
12	動物の反応とホメオスタシス（2） 中枢神経系と末梢神経系について説明する。ホメオスタシスに関わる体液や、浸透圧、ホルモンについて説明する。	中枢神経系と末梢神経系を理解する。体液や、浸透圧、ホルモンを介したホメオスタシスを理解する。	予習：前回の教科書、ノート、講義資料をよく見直して来ること。 復習：教科書p84～p92を理解できるよう学習すること。
13	動物の反応とホメオスタシス（3） ホメオスタシスに関わる生体防御、免疫系、アレルギーについて説明する。	生体防御、免疫系を介したホメオスタシスを理解する。	予習：前回の教科書、ノート、講義資料をよく見直して来ること。 復習：教科書p92～p96を理解できるよう学習すること。
14	これまでの補習・まとめと解説（2）	8回目～13回目までの授業内容に関して、小テストを行った後に、解説する。	予習：8回目～13回目までの授業内容をすべて学習しておくこと。 復習：小テストの内容や十分に理解できていなかった内容を再度学習すること。
15	全体のまとめ	これまでの授業内容に関して、テストを行い、確認する。	予習：これまでの授業内容をすべて学習しておくこと。また、2回の小テストを学習しておくこと。 復習：テストも含めて授業内容を学習すること。

基本情報

学科名	化学		分野	基礎分野 [科学的思考の基礎] 自然科学			講師名	澤村精昭	
履修学年・学期	1年	前期	授業方式	講義/演習	単位数	2単位	30時間	授業回数	15
教員の 実務経験	熊本学園大学付属高等学校理科(化学)教諭。								
授業との 関連性	化学の教諭として長年の経験をとおり、科学的思考の基盤となる物質の性質や構造、変化を知り、歯科医療に用いる関連物質の組成構造や使用時の注意点について講義・演習する。								

詳細情報

授業目標	化学は、物質の性質・構造、変化に関する学問である。本学院の学生が志す歯科衛生士は、医療の現場で、種々雑多な歯科材料などの物質に日常的に接する立場にあり、化学の基礎知識が必要不可欠である。高等学校で化学を履修した学生も履修しなかった学生もいるであろう。講義時間が限られている中、学生に理解できるよう、平易に効率よく授業に取り組む予定である。医療関係に登場する専門的な語句が理解でき、いろんな本を読めるようにしたい。									
成績評価 方法	定期試験	70点	小テスト レポート 授業ノート提出	10点	実技・発表 ワーク(演習) など	10点	受講態度	10点	合計	100点
教科書名	歯科衛生学「化学」 鶴房繁和著 他 医歯薬出版KK (学則) 合格点；60点以上とし、不合格の学科目は1回限り再試験を受けることができる。 追試験；学期試験を欠席した場合は1回限り追試験を受けることができる。 欠課；①開始20分以降の遅刻 ②終了20分以前の早退 ③同一学科目で遅刻及び早退を4回した者 受験を認めない要件；各科目の授業時間数が3分の2に満たない者									
参考文献	講談社ブルーバックスシリーズ(化学、医療関係)平易にわかりやすく解説した本が多い。※『歯科医療最前線 自分の歯を守るための最新情報』下野真基著 ※歯を守る歯の病気の仕組みとその予防 覚道幸男著など 高校在籍時の化学基礎教科書									
使用設備・備 品・準備物	PC, プロジェクター, 分子模型など									
履修上の 注意	本講義では、教科書を基にできるだけ分かりやすく解説し、化学の基礎を重点的に授業で取り組みます。授業時間に制約がありますので、授業で理解できないことはどんな些細なことでも、授業中あるいは、授業時間外に気軽にどンドン質問して下さい。また、化学専門の授業内容のプリントを配布します。その内容を自分でまとめ、自分の授業ノートをつくってください。テスト時の見返して役に立つと思います。定期的にノートもチェックします。どうしても理解できないときは補講をしますので、遠慮なく申し出て下さい。									
回	授業計画			到達目標			準備学習			
1	化学(chemistry)とはどのような学問か。 物質の基礎(その1) 物質の分類 物質を構成する基本粒子 物質を表す化学式			①化学で取り扱う内容について理解すること。 ②元素と原子の概念を説明し、主な元素記号を書く。 ③具体例から、混合物と純物質の違いを理解する。 ④純物質には化合物と単体があることを理解する。 ⑤元素記号や物質の化学式(電子式・構造式を含め)が書ける。			・教科書p0~p24を 読んでおく ・プリント配布 ・小テスト			
2	物質の基礎(その2) 物質を構成する原子 原子番号と質量数 原子の電子配置 原子と分子・イオン 同位体 元素の周期律と周期表			①原子を構成している基本粒子である陽子、中性子、電子を説明し、それらの概念を理解する。 ②原子番号、質量数を説明し、元素記号とともにそれらを表示する。 ③電子殻における電子配置を軌道のエネルギー順位から説明する。 ④分子のでき方、イオンのでき方を理解する。 ⑤周期律発見の歴史を理解し、周期表の概略を理解する。			・教科書p0~p24を 読んでおく ・プリント配布 ・小テスト			
3	物質の基礎(その3) 原子量と分子量・式量 物質量(mol)について モルの応用 化学結合の種類と結晶			①化学で用いる相対質量概念を理解し、説明する。そして原子量と分子量・式量について習熟する。 ②アボガドロ数とモルの概念について理解する。 ③モルを使った計算について習熟する。 ④物質を構成する粒子の結合であるイオン結合、共有結合、金属結合について理解する。結晶が分類できる。			・教科書p0~p24を 読んでおく ・プリント配布 ・小テスト			
4	気体(その1) アボガドロの法則やボイルの法則 とシャルルの法則 理想気体の状態方程式 ヘンリーの法則と気体の溶解			①アボガドロの法則、ボイルの法則とシャルルの法則、ボイル・シャルルの法則について理解する。 ②気体の状態方程式や分圧の法則について理解する。 ③ヘンリーの法則とは何か。水への気体の溶解について理解する。			・教科書p26~p30 を読んでおく ・プリント配布 ・小テスト			

回	授業計画	到達目標	準備学習
5	気体（その2） さまざまな気体とその性質 空気、二酸化炭素、酸素、オゾンについて 気体を使う（医療・生活への応用）	①身近な気体（ガス）についての知識を身につける。 ②大気成分と地球環境について理解する。 ③二酸化炭素の性質・特徴と温室効果について理解する。 ④発生源の酸素、オゾンの殺菌作用を説明する。	・教科書p31～p40 を読んでおく ・プリント配布 ・小テスト
6	物質の水への溶解（その1） 液体としての水 質量パーセント濃度 モル濃度・ppm 希釈液の作り方について	①砂糖水を例に、溶質・溶媒・溶体を説明し、理解する。 ②水の特異な性質（物理・化学的性質）を理解する。 ③質量パーセント濃度を理解し、計算ができるようになる。 ④モル濃度やppmを理解し、計算ができるようになる。 ⑤希釈液の作り方について理解を深める。	・教科書p41～p52 を読んでおく ・プリント配布 ・小テスト
7	物質の水への溶解（その2） 希薄水溶液の性質 気体・液体・固体の溶解 浸透圧について コロイドについて	①水に気体、液体、固体が溶けるとい現象を、身近な例を通して理解する。 ②蒸気圧低下、沸点上昇・凝固点低下について理解する。 ③気体、液体、固体の溶解度の計算法を習得する。 ④浸透圧について理解する。 ⑤身の回りのコロイドとその性質について理解する。	・教科書p53～p66 を読んでおく ・プリント配布 ・小テスト
8	物質の水への溶解（その3） 酸とアルカリの反応 水素イオン濃度とPH 中和反応	①酸とアルカリの性質を比較し、アレニウスの定義が理解できる。 ②主な酸とアルカリ、その強弱について理解する。 ③水素イオン濃度とPHについて理解する。 ④中和反応の化学反応式の表し方ができる。	・教科書p67～p78 を読んでおく ・プリント配布 ・小テスト
9	酸化と還元（その1） 酸化還元 酸化還元反応の例 酸化剤と還元剤 酸化還元反応について 金属のイオン化傾向	①酸化・還元反応の定義を理解する。 ②酸化数の表記、酸化数の計算ができる。 ③酸化剤と還元剤の定義を理解する。 ④酸化還元反応の化学反応式が理解できる。 ⑤金属のイオン化傾向と金属の反応について理解する。	・教科書p79～p86 を読んでおく ・プリント配布 ・小テスト
10	化学反応（その1） 物理変化と化学変化 化学反応式とは 反応速度と触媒 化学反応と熱	①物質の状態変化と化学反応との違いを理解する。 ②水ができる変化など化学反応式の表し方が理解できる。 ③化学反応の速さを変える要因（触媒等）が理解できる。 ④身近な発熱反応の例と吸熱反応の例に関する知識。 ⑤活性化エネルギーの意義について学ぶ。	・教科書p87～p92 を読んでおく ・プリント配布 ・小テスト
11	化学反応（その2） 化学反応と化学平衡 化学平衡の法則 ルシャトリエの原理	①化学平衡とは何かを理解する。 ②化学平衡の法則が理解できる。 ③ルシャトリエの原理の一般則を理解する。 ④身近な化学反応について考える。	・教科書p93～p96 を読んでおく ・プリント配布 ・小テスト
12	有機化合物（その1） 有機化合物の成り立ち 有機化合物の名前の付け方 異性体について	①有機化合物の特徴を理解する。 ②単結合、二重結合、ベンゼン環の構造を理解する。 ③官能基の特徴を説明し、化学式（示性式）を書く。 ④構造異性体、立体異性体、光学異性体について理解する。	・教科書p97～p107 を読んでおく ・プリント配布 ・小テスト
13	有機化合物（その2） 有機化合物の反応 炭化水素の分類 代表的な化合物とその性質 高分子化合物	①イオン反応とラジカル反応の反応機構の違いを理解する。 ②置換反応、付加反応、脱離反応、転移反応を説明する。 ③飽和炭化水素と不飽和炭化水素の違いについての知識。 ④代表的な有機化合物とその性質を知る。 ⑤高分子化合物とは何か。また、その生成反応について理解する。	・教科書p108～p128 を読んでおく ・プリント配布 ・小テスト
14	物質と人間 糖質 アミノ酸とタンパク質 脂質 核酸と核酸関連物質 医療と人間	①ヒトにおける水の重要性、ヒトを形づくる元素を理解する。 ②具体的な単糖類、二糖類、多糖類を理解する。 ③タンパク質合成に関わるアミノ酸と構造、その性質を理解する。 ④脂肪酸と脂質について理解する。 ⑤核酸（ヌクレオシドとヌクレオチド）やDNA・RNAについて理解する。 ⑥医療技術の進歩についての基礎知識を学ぶ。	・教科書p130～p164 を読んでおく ・プリント配布 ・小テスト
15	まとめ この講義の総集編と化学実験	①重要な事項の再確認と期末試験への対策 ②簡単な化学実験の実習	・実験プリント配布



基本情報

学科名	心理学	分野	基礎分野 [人間と生活] 人文科学・社会学			講師名	高木ひろみ		
履修学年・学期	1年 前期	授業方式	講義	単位数	2単位	30時間	授業回数	15	
教員の 実務経験	熊本医療センター附属看護学校、熊本中央高等学校看護専攻科にて、「人間関係論」「行動科学」を講義。臨床心理士として精神科病院、小児科クリニック、学校等で相談業務(カウンセリング)や心理検査、集団心理療法を行う。								
授業との 関連性	病院等、実際の臨床現場での心理支援の経験と看護学校での講義経験を踏まえ、患者の心理や患者との良好なコミュニケーションを築くための技法について講義する。								

詳細情報

授業目標	この講義は、対人援助職である歯科衛生士を養成することを目的とする。対人援助職である治療者はすべての患者の苦しみに共感し、その持てる職能を活かして患者の問題解決を支援していくことになる。その際に最も大切なことは、患者を病をもつ一人の人間として尊重し理解することである。この講義では、人の心理的理解に焦点を当て、実際の歯科衛生の現場で患者の相談や心理的支援を実践していくための基本姿勢を学ぶとともに、将来、活用できる心理学の理論と技法を含む心理学の基礎知識を習得することを到達点としたい。また、心理臨床の場で活用されている援助法を学び、良好な患者-治療者関係を構築するために必要となるコミュニケーションスキルや自身のストレスマネジメントについても取り上げる。									
成績評価 方法	定期試験	70点	小テスト レポート	20点	実技・発表 ワーク(演習) など	点	受講態度	10点	合計	100点
教科書名	(学則) 合格点：60点以上とし、不合格の学科目は1回限り再試験を受けることができる。 追試験：学期試験を欠席した場合は1回限り追試験を受けることができる。 欠課：①開始20分以降の遅刻 ②終了20分以前の早退 ③同一学科目で遅刻及び早退を4回した者 受験を認めない要件：各学科目の授業時間数が3分の2に満たない者									
参考文献	歯科衛生学シリーズ「心理学」二宮克美著 他 医歯薬出版KK									
使用設備・備 品・準備物	PC プロジェクター									
履修上の 注意	講義内容は、毎回プリントで配布する。回毎に配ったものは整理保存すること。受講に際しては、回毎の講義予定内容を前もってテキストで予習することが望ましい。また、信頼関係構築のためのコミュニケーションを身につけるために、ロールプレイを活用した講義もあるため、積極的に活動にも参加してほしい。									
回	授業計画				到達目標			準備学習		
1	自己紹介、オリエンテーション 心理学の歩みと研究方法 (テキスト15章、p200~208)				歯科衛生士が心理学を学ぶ意義を知る。また、この講義の進め方を説明する。心理学が何を、どのような方法で明らかにしようとしてきたかを知ることができる。			テキストP200~208を予習		
2	見る・聞く・感じるころ (テキスト1章 p2~14)				感覚と知覚にどんな特徴があるか、知覚はどのように成立しているかを知ることができる。			テキストP2~14を予習		
3	学ぶ・覚えるころ (テキスト2章 p16~26)				経験によって行動が変わる仕組みを知る。覚えること、忘れること、思い出すことの種類と仕組みを理解できる。			テキストP16~26を予習		
4	やる気の心理 (テキスト3章 p28~37)				人を動かしコントロールする動機づけの種類と仕組みにどのようなものがあるかを学ぶ。動機づけの基礎として働いている欲求の特徴を理解できる。			テキストP28~37を予習		
5	喜怒哀楽のころ (テキスト4章 p40~51)				情動の種類と仕組みを理解する。コンフリクトとは何か、フラストレーション、ストレスの対処について理解できる。			テキストP40~51を予習		
6	その人らしさの心理-パーソナリティ (テキスト5章 p54~66)				人間のパーソナリティを調べる試みにはどのようなアプローチや方法があるかを理解する。パーソナリティの不応とはどのようなものかを理解できる。			テキストP54~66を予習		

回	授業計画	到達目標	準備学習
7	かしこさの心理 (テキスト6章 p68~80)	人間の知能を測定する方法でどの程度のこと がわかるかを知り、今後の知能の捉え方で重 要と思われる課題について考察することがで きる。	テキストP68~80 を予習
8	考えるところ (テキスト7章 p82~91)	考えるとはどういうことか、問題解決にはど のような方法があるかを理解する。	テキストP82~91 を予習
9	発達するところ(1) (テキスト8章 p94~110)	発達に影響を及ぼす要因を理解する。生涯に わたる発達の段階(特に乳幼児期のところの 発達)で果たさなければならない課題につい て学ぶ。	テキストP94~ 110を予習
10	発達するところ(2) (テキスト9章 p112~124)	子どもから大人への成長していく思春期青年 期の過程を理解する。中年期また老年期のこ ころの特徴を理解する。	テキストP112~ 124を予習
11	人と関わる心理 (テキスト10章 p126~134)	他者の印象をどのように形成するか、行動の 原因をどのように捉えるか、人を好き嫌いにな ったりするかなど、対人関係の手掛かりの 要因を学ぶことができる。	テキストP126~ 134を予習
12	人と集うところ (テキスト11章 p136~148)	集団が人の行動に及ぼす影響を学ぶ。人の態 度が変わる要因を学ぶ。リーダーシップと、 効果的なリーダーシップについて理解でき る。	テキストP136~ 148を予習
13	健康なところ (テキスト12章 p150~164)	ところが健康な状態とは何か、どのように測 定されるのかを知る。ところの健康が損なわ れると、どのような状態が現れるのかを学び、 専門的な援助の方法について理解できる。	テキストP150~ 164を予習
14	カウンセリングのところ (テキスト13章 p166~182)	歯科医療におけるホスピタリティにとんだコ ミュニケーションの意義を理解し、患者さん への支援の意義を学ぶことができる。	テキストP166~ 182を予習
15	思いを伝え合うところ (テキスト13章 p184~198) 自分のストレスマネジメント	歯科医療におけるコミュニケーションの意義 を理解し、信頼関係の構築を身につける。傾 聴、共感の姿勢を身につける。また、職業人 としてのストレスマネジメントを身につけ る。	テキストP184~ 198を予習

基本情報

学科名	社会学	分野	基礎分野 [人間と生活] 人文科学・社会学			講師名	松田裕一郎		
履修学年・学期	1年 前期	授業方式	講義/演習	単位数	2単位	30時間	授業回数	15	
教員の 実務経験	(株)熊本放送報道制作局次長、(株)熊本放送キャリアスタッフ報道部デスクとして勤務。人権擁護委員（法務大臣委嘱、2024年まで）、熊本民事調停委員(2022年3月まで)								
授業との 関連性	報道制作での実績を活かし多様な現代社会について講義を行う。2016年より、本学で社会学講師を務める（2024年現在）								

詳細情報

授業目標	社会はどのような法則や仕組みで動いているのか。講師が解説するジャーナリズムの視点から地域社会の課題、震災からの復興等について学び、自立した歯科衛生士になることをめざす。									
成績評価 方法	定期試験	100点	小テスト レポート	点	実技・発表 ワーク(演習) など	点	受講態度	点	合計	100点
教科書名	講師資料									
参考文献										
使用設備・備 品・準備物										
履修上の 注意	報道資料を多用するので可能な限り、テレビニュース等報道系番組を視聴し、また新聞の解説記事、コラム等にも目を通す習慣をつけてください。									
回	授業計画				到達目標			準備学習		
1	オリエンテーション 自己紹介 地震アンケート作成				前期講義計画の概要について説明する。次回テーマの熊本地震についてアンケートを作成。					
2	熊本地震から8年、震災体験を踏まえ、防災への心構え、防災を踏まえた地域社会の在り方について考える。RKK制作のDVDを視聴する。				DVD視聴、学生アンケート結果などを踏まえ、改めて熊本地震について考える。			熊本地震について自身の体験を踏まえ、防災について自分の考えをまとめておく		
3	正月の能登半島地震をきっかけに改めて災害への備えを考える。今後予想される南海トラフ地震や熊本地震を起こした断層の一つ日奈久断層の実態など学ぶ。				災害における正常性バイアスについて熊本地震での具体例を学習するとともに、地震のメカニズムについて理解を深め、今後の防災に生かす。			前回の熊本地震のDVDを参考にしながら地震のメカニズムについて調べておく。		
4	「情報リテラシー」をテーマにSNSに関するDVDを使用しながら自身の日頃のSNSの利用状況とも比較しながら問題点等を学ぶ。				インターネットやSNSに溢れる様々な情報を的確に判断し、活用できる能力、加害者にも被害者にもならない知恵を身に付けることを目指す。			SNSについて自分の1日の使用状況を調べる		
5	LGBTについて考える。法務省人権擁護局作成の啓発DVDやRKK制作のニュースを視聴して正しい理解とあるべき姿を学ぶ。				ここ数十年のLGBTめぐる社会の変化について自治体のパートナーシップ制度の取り組み等学習しながら正しい理解をめざす。			LGBTをめぐるメディアの報道などチェックしておく		
6	人権と差別を考える ①ハンセン病問題から				ハンセン病に関する報道番組等を視聴、熊本の地域社会の大きな課題という視点からこの問題への理解を深め、人権について学ぶ。			菊池恵楓園について事前に調べる		
7	人権と差別を考える ②水俣病問題から				熊本県政の重要課題で、地域社会の課題でもある水俣病問題について報道番組の視聴等を通じて理解を深める。			高校までの学習について復習しておく		
8	危険から身を守るために～社会人としてのリスク管理を学ぶ～①				多発するストーカー犯罪、日常的に発生する交通事故等、現状について学び、自分の身を守るためどう行動すべきか等学ぶ。			危険から身を守るという視点から日常の行動を点検する		

回	授業計画	到達目標	準備学習
9	危険から身を守るために～社会人としてのリスク管理を学ぶ～②<デートDV、性暴力>	ドメスティックバイオレンスの中でも特に交際中の若者等にみられる。デートDVの実態を教材DVDなどで学習するとともに性暴力の現状、被害にあわない為の対策について学ぶ。	自身や周りに被害などないか確認する
10	多分化共生について（外国人の人権等）	法務省作成のDVDなどを視聴、技能実習生の問題等喫緊の課題について考える。	自身の外国人との交流体験、気付いた出来事は・・・
11	戦争と家族について考える	RKK制作のドキュメンタリー「祖父の日記」を視聴、戦争とは何か、戦争がもたらすものと平和について考察する。	祖父母や年長者などに戦争について話しをきく
12	熊本県民の行動 ① ～アンケート調査～テーマ設定	熊本県民はどんな時、いかなる行動を取るのか、学生自らテーマを設定し、次回まで調査する。	
13	熊本県民の行動 ② ～アンケート調査～結果を集計、分析	班ごとにアンケート結果を集計し、グラフや表を作成する	前回、班ごとに設定したテーマに基づき、アンケートを実施（余裕あれば集計も）
14	熊本県民アンケート調査から（最終回）と後期まとめ	前回作成した大判表をボードに掲示し、班のリーダーが発表する。 講義を復習する。	
15	社会学試験		



基本情報

学科目名	英語	分野	基礎分野 [人間と生活] 外国語			講師名	浦島有希		
履修学年・学期	1年 後期	授業方式	講義・演習	単位数	2単位	30時間	授業回数	15	
教員の 実務経験	歯科診療所勤務後、英会話指導、受験指導、英検やTOEICなどの資格試験指導に従事。								
授業との 関連性	英会話講師や歯科診療所での歯科助手の経験を活かし、英会話を用いた患者対応ができるよう講義する。								

詳細情報

授業目標	異文化間コミュニケーションを理解し、外国人の患者様に伝わる英語を身につけましょう。									
成績評価 方法	定期試験	70点	小テスト レポート	10点	実技・発表 ワーク(演習) など	10点	受講態度	10点	合計	100点
	(学則) 合格点；60点以上とし、不合格の学科目は1回限り再試験を受けることができる。 追試験；学期試験を欠席した場合は1回限り追試験を受けることができる。 欠課；①開始20分以降の遅刻 ②終了20分以前の早退 ③同一学科目で遅刻及び早退を4回した者 受験を認めない要件；各学科目の授業時間数が3分の2に満たない者									
教科書名	教科書はありません。毎時、プリントを使用します。									
参考文献	1か月で身につく!歯科医院での実用英会話、Beyond Boundaries Insights into Culture and Communication									
使用設備・備 品・準備物	PC・プロジェクター									
履修上の 注意	この授業では、コミュニケーションについて学んでいきます。みなさんが伝わる英語を話せるようになることが目標です。対話の機会をできるだけ多く持ちたいと考えていますので、以下のルールを守り、楽しい授業にしましょう。 ①私語や居眠りは慎みましょう ②許可なく携帯電話やスマートフォンを使用しないでください ③スライドや授業風景を無断で撮影しないでください 【注意】これらの禁止行為を行った場合には、評価から減点することがあります。 また、授業計画は変更することがありますのでご了承ください。									

回	授業計画	到達目標	準備学習	準備物
1	1. 自己紹介 2. 英語に関するアンケート記入 3. 英語で自己紹介	英語で自己紹介ができる	特にありません	PC、プロジェクター スマートフォン
2	受付での電話対応① Handling Calls at Reception	電話で患者様の症状を聞くことができる 具体的な日時で予約がとれる	事前に配られるプリント に目を通してください	PC、プロジェクター スマートフォン
3	受付での電話対応② Handling Calls at Reception	電話で患者様の名前と電話番号を 聞き取ることができる	事前に配られるプリント に目を通してください	PC、プロジェクター スマートフォン
4	異文化理解①	授業時にお知らせします	事前に配られるプリント に目を通してください	PC、プロジェクター スマートフォン
5	問診 Consultation	英語で問診をとることができる	事前に配られるプリント に目を通してください	PC、プロジェクター スマートフォン
6	異文化理解②	授業時にお知らせします	事前に配られるプリント に目を通してください	PC、プロジェクター スマートフォン
7	ブラッシング指導 Tooth Brushing Instructions	英語でブラッシング指導ができる	事前に配られるプリント に目を通してください	PC、プロジェクター スマートフォン
8	異文化理解③	授業時にお知らせします	事前に配られるプリント に目を通してください	PC、プロジェクター スマートフォン
9	口述試験 映画鑑賞	映画をとおして感じた 外国語に対する考えをまとめる		PC、プロジェクター
10	口述試験 映画鑑賞	映画をとおして感じた 外国語に対する考えをまとめる		PC、プロジェクター

回	授業計画	到達目標	準備学習	準備物
11	むし歯の説明 Explanations on Dental Cavities	英語でむし歯の説明ができる	事前に配られるプリントに目を通してください	PC、プロジェクター スマートフォン
12	スケーリング Scaling	スケーリングの流れを説明できる	事前に配られるプリントに目を通してください	PC、プロジェクター スマートフォン
13	歯周検査 Periodontal Examination	歯周検査での問診ができる	事前に配られるプリントに目を通してください	PC、プロジェクター スマートフォン
14	異文化理解④	授業時にお知らせします	事前に配られるプリントに目を通してください	PC、プロジェクター スマートフォン
15	授業のまとめ 前期期末試験に関する質問受け	これまでに学んだことを振り返る	質問事項を まとめてください	PC、プロジェクター 今までに配られた プリント、ノートなど

基本情報

学科名	解剖生理学	分野	専門基礎分野 [人体(歯・口腔を除く。)]の構造と機能]			講師名	八木俊晃		
履修学年・学期	1年 前後期	授業方式	講義	単位数	3単位	45時間	授業回数	23	
教員の 実務経験	歯科医師。愛知学院大学歯学部付属病院歯科口腔外科勤務。歯科診療所勤務。								
授業との 関連性	歯科診療所、大学病院勤務の歯科口腔外科医として手術等の経験を踏まえ、人体の構造や生体のメカニズムについて講義する。								

詳細情報

授業目標	医療を修める上で、最初に学ぶ学問が解剖と生理である。この教科の理解なくして他教科の正確な理解は困難であると思われる。歯科衛生士教育でも全身との関わりのなかで、医療を実践していく姿勢が求められる。さらに近年の高齢化の進展により全身疾患をもつ患者が増加し、全身の理解は不可欠であることをよく考え理解を深めてもらいたい。									
成績評価 方法	定期試験	90点	小テスト レポート	点	実技・発表 ワーク(演習) など	点	受講態度	10点	合計	100点
教科書名	(学則) 合格点；60点以上とし、不合格の学科目は1回限り再試験を受けることができる。 追試験；学期試験を欠席した場合は1回限り追試験を受けることができる。 欠課；①開始20分以降の遅刻 ②終了20分以前の早退 ③同一学科目で遅刻及び早退を4回した者 受験を認めない要件；各科目の授業時間数が3分の2に満たない者									
参考文献	○「解剖生理をおもしろく学ぶ」 増田敦子著 サイオ出版 ○「いちばんやさしい生理学」 南沢 享、加藤 尚志著 成美堂出版 ○「読んでわかる解剖生理学」 竹内修二著 医学教育出版社									
使用設備・備 品・準備物	パソコン、プロジェクター、配布プリント、スマホ									
履修上の 注意										
回	授業計画				到達目標			準備学習		
1	解剖・生理学概論 ・人体の区分 ・身体の方角用語 生理学概論 ・生理学とは何か				・身体の部位と方向用語・解剖学的名称を理解できる ・解剖学・生理学の基本的な学習を理解する ・生物が生命を維持するメカニズムの概要を知る			配布プリント、 moodleのスライド 画像復習		
2	〈骨格系〉				・骨の基本構造と骨の形態、連結様式、骨の改造について概説できる ・主な骨格と解剖学的名称を理解できる ・骨の成長のメカニズムを概説できる			配布プリント、 moodleのスライド 画像復習		
3	〈筋と運動〉				・筋の形状と分類、筋の構造を説明できる ・体の各部位の筋系について概説できる ・骨格筋の収縮の特徴と筋収縮の機序を概説できる ・骨格筋の収縮の特徴と筋収縮の機序を概説できる ・心筋の構造と収縮のメカニズムを説明できる			配布プリント、 moodleのスライド 画像復習		
4	〈消化・吸収〉 消化・吸収 1				・消化器のそれぞれの解剖的位置と基本構造を理解し説明できる ・小腸壁の組織学的な理解ができる ・それぞれの器官の分泌物の機能を理解できる			配布プリント、 moodleのスライド 画像復習		
5	〈消化・吸収〉 消化・吸収 2				・消化器運動とその調節機能を説明できる ・それぞれの消化器官・臓器の機能について説明できる ・それぞれの器官の消化酵素の働きと栄養素の吸収について理解し説明できる			配布プリント、 moodleのスライド 画像復習		

回	授業計画	到達目標	準備学習
6	〈循環〉 血液 1 血液 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動脈・静脈及び毛細血管の構造を理解し説明できる</li> <li>・肺循環・体循環における血管系を説明できる</li> <li>・血管の機能、血圧の調整を理解し説明できる</li> <li>・血液成分の組成とその機能を説明できる</li> <li>・血液の凝固の機序を理解し説明できる</li> </ul>	配布プリント、 moodleのスライド 画像復習
7	〈循環〉 血液 2 心臓の構造と機能 心臓の活動と心電図	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心臓の解剖学的構造について理解できる</li> <li>・心臓の血管について理解できる</li> <li>・心筋の拍動のコントロールを理解できる</li> <li>・心電図の波形の意味を理解できる</li> <li>・刺激伝導系と心電図、心臓の筋肉の活動について理解できる</li> </ul>	配布プリント、 moodleのスライド 画像復習
8	〈循環〉 動脈系・静脈系 胎児循環 リンパ系	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主な動脈・静脈の走行と解剖学的名称を理解し説明できる</li> <li>・門脈系とその機能が説明できる</li> <li>・リンパ系の概要とその機能を説明できる</li> <li>・胎児循環の特徴を理解できる</li> </ul>	配布プリント、 moodleのスライド 画像復習
9	〈感覚〉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感覚の基本的性質について理解できる</li> <li>・皮膚の感覚装置について概説できる</li> <li>・特殊感覚器（視覚器・平衡調節器、味覚器、嗅覚器）の構造を概説できる</li> </ul>	配布プリント、 moodleのスライド 画像復習
10	〈感覚〉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・皮膚の感覚装置について概説できる</li> <li>・特殊感覚器（視覚器・平衡調節器、味覚器、嗅覚器）の構造を概説できる</li> </ul>	配布プリント、 moodleのスライド 画像復習
11	〈神経系〉 神経系の構成と機能 脳と脊髄	<ul style="list-style-type: none"> <li>・神経系の構成を理解できる</li> <li>・神経系の基本的機能について理解し説明できる</li> <li>・神経細胞の興奮と伝導の仕組みを理解できる</li> <li>・脳（大脳、間脳、中脳、橋、延髄、小脳）と脊髄の解剖学的位置を理解し説明できる</li> </ul>	配布プリント、 moodleのスライド 画像復習
12	〈神経系〉 脳と脊髄 中枢神経系 末梢神経系	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大脳の機能局在について説明できる</li> <li>・それぞれの器官における中枢の機能を理解できる</li> <li>・脳脊髄膜の構造と機能について理解できる</li> <li>・脳の血管を理解できる</li> </ul>	配布プリント、 moodleのスライド 画像復習
13	〈神経系〉 末梢神経系 自律神経 求心性、遠心性伝導路	<ul style="list-style-type: none"> <li>・末梢神経系の分類と解剖学的分布を理解し説明できる</li> <li>・脳神経の種類、脊髄神経の走行分布を理解できる</li> <li>・自律神経の特徴を理解できる</li> <li>・上行性、下行性の伝導路の意味を理解できる</li> </ul>	配布プリント、 moodleのスライド 画像復習
14	〈神経系〉 求心性、遠心性伝導路 反射と随意運動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上行性、下行性の伝導路の意味を理解できる</li> <li>・運動ニューロンの構成、反射、姿勢調節について理解し概説できる</li> <li>・反射のメカニズムについて理解し概説できる</li> </ul>	配布プリント、 moodleのスライド 画像復習
15	〈呼吸〉 呼吸器系の解剖と構成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・呼吸器の構成と構造を理解できる</li> <li>・胸郭の構造を理解できる</li> <li>・呼吸の中枢と調節について理解し説明できる</li> </ul>	配布プリント、 moodleのスライド 画像復習
16	〈呼吸〉 呼吸器系の解剖と構成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・呼吸器系の生理学的意味について理解できる</li> <li>・血液中のO<sub>2</sub>とCO<sub>2</sub>の運搬について理解できる</li> <li>・呼吸の調節のしくみを理解し説明できる</li> </ul>	配布プリント、 moodleのスライド 画像復習

回	授業計画	到達目標	準備学習
17	〈腎機能と排尿〉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・汗腺、泌尿器、腎臓の解剖学的構造などについて理解し説明できる</li> <li>・尿生成のメカニズムについて理解し説明できる</li> <li>・排尿のしくみを理解できる</li> </ul>	配布プリント、moodleのスライド画像復習
18	〈臨床検査〉 <ul style="list-style-type: none"> <li>・肝機能検査</li> <li>・腎機能検査</li> <li>・糖尿病検査</li> <li>・代謝・内分泌疾患の検査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの臓器の構造を理解できる</li> <li>・糖代謝のメカニズムを説明できる</li> <li>・検査の種類を理解できる</li> <li>・検査の意義を理解できる</li> </ul>	配布プリント、moodleのスライド画像復習
19	〈内分泌〉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内分泌器官の名称と解剖学的位置について理解できる</li> <li>・内分泌器官から分泌されるホルモン、その作用機序について理解できる</li> <li>・血中カルシウムや血糖値を調節するしくみを理解できる</li> </ul>	配布プリント、moodleのスライド画像復習
20	〈生殖〉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・男性、女性 生殖器の構造と生殖に関わるホルモンについて理解できる</li> <li>・分娩と乳汁分泌に関わるホルモンについて理解できる</li> <li>・性周期と体温変化について説明できる</li> </ul>	配布プリント、moodleのスライド画像復習
21	〈体温〉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体熱の産生機序、体温放散などの調節メカニズムを理解できる</li> <li>・体温の調節を理解できる</li> <li>・体温の変動について理解できる</li> </ul>	配布プリント、moodleのスライド画像復習
22	解剖・生理学概論～〈循環〉 復習・後期試験対策 国家試験問題	・概論～循環まで要点を復習します	配布プリント、moodleのスライド画像復習
23	〈感覚〉～〈体温〉 復習・後期試験対策 国家試験問題	・感覚～体温まで要点を復習します	配布プリント、moodleのスライド画像復習



基本情報

学科目名	組織発生学	分野	専門基礎分野〔人体（歯・口腔を除く。）の構造と機能〕			講師名	関 祐紀	
履修学年・学期	1年 前期	授業方式	講義	単位数	1単位	15時間	授業回数	8
教員の 実務経験	歯科医師。熊本大学病院歯科口腔外科勤務。							
授業との 関連性	臨床における歯科口腔外科医として手術等の経験から細胞の性質や組織の機能について講義する。							

詳細情報

授業目標	組織・発生学を学ぶことにより、正常組織・構造を理解し、臨床の場で正常、異常を判断し患者様やスタッフに説明できるようにする。									
成績評価 方法	定期試験	100点	小テスト レポート	点	実技・発表 ワーク(演習) など	点	受講態度	点	合計	100点
	<b>(学則)</b> 合格点；60点以上とし、不合格の学科目は1回限り <b>再試験</b> を受けることができる。 追試験；学期試験を欠席した場合は1回限り <b>追試験</b> を受けることができる。 欠課；①開始20分以降の遅刻 ②終了20分以前の早退 ③同一学科目で遅刻及び早退を4回した者 <b>受験を認めない要件；</b> 各学科目の授業時間数が3分の2に満たない者									
教科書名	歯科衛生学シリーズ 「人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学」前田健康著 他 医歯薬出版株式会社									
参考文献	「解剖学・組織発生学・口腔解剖学」 井出吉信著 医歯薬出版KK									
使用設備・備 品・準備物	プロジェクター									
履修上の 注意	各授業の確認テスト（小テスト）を次週の授業中に行いますので、しっかりと復習して下さい。									
回	授業計画				到達目標			準備学習		
1	細胞①				①細胞の基本構造を説明することができる。 ②細胞の構成体の各機能を説明することができる。					
2	細胞②				細胞の増殖と寿命について理解し、説明することができる。			確認テスト（小テスト）を授業中に行いますので、しっかりと復習して下さい。		
3	組織①				組織を4つに分類し、それぞれの特徴を説明することができる。			確認テスト（小テスト）を授業中に行いますので、しっかりと復習して下さい。		
4	組織②				それぞれの組織の特徴を説明することができる。			確認テスト（小テスト）を授業中に行いますので、しっかりと復習して下さい。		
5	発生①				①染色体と減数分裂を説明することができる。 ②精子と卵子の発生を説明することができる。 ③受精と着床について説明することができる。			確認テスト（小テスト）を授業中に行いますので、しっかりと復習して下さい。		
6	発生②				胚葉の形成とそれぞれの胚葉から分化する主な器官と組織について、説明することができる。			確認テスト（小テスト）を授業中に行いますので、しっかりと復習して下さい。		
7	発生③				①歯の発生について説明することができる。 ②胎児の成長と発育について説明することができる。			確認テスト（小テスト）を授業中に行いますので、しっかりと復習して下さい。		
8	発生④ まとめ				①顎裂など先天性奇形について説明することができる。 ②鰓弓について説明することができる。 ③まとめ。			確認テスト（小テスト）を授業中に行いますので、しっかりと復習して下さい。		

基本情報

学科目名	口腔解剖口腔生理学	分野	専門基礎分野 [歯・口腔の構造と機能]			講師名	矢毛石 玲	
履修学年・学期	1年 前後期	授業方式	講義	単位数	3単位	45時間	授業回数	23
教員の 実務経歴	歯科医師。久留米大学医学部解剖学講座・肉眼・臨床解剖学部門入局、歯科診療所院長。							
授業との 関連性	大学医学部解剖学講座での研究や臨床歯科医としての経験を踏まえ、口腔の解剖やしくみについて講義する。							

詳細情報

授業目標	口腔とその周囲組織の基本的な構造と機能を理解し説明できる。 (行動目標)：口腔は全身の一部であることを忘れずに系統立てて理解する。									
成績評価 方法	定期試験	80点	小テスト レポート	10点	実技・発表 ワーク(演習) など	点	受講態度	10点	合計	100点
	<b>(学則)</b> 合格点：60点以上とし、不合格の学科目は1回限り再試験を受けることができる。 追試験：学期試験を欠席した場合は1回限り追試験を受けることができる。 欠課：①開始20分以降の遅刻 ②終了20分以前の早退 ③同一学科目で遅刻及び早退を4回した者 受験を認めない要件：各学科目の授業時間数が3分の2に満たない者									
教科書名	歯科衛生学シリーズ 「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」 天野修 著他 医歯薬出版Kk									
参考文献										
使用設備・備 品・準備物	プロジェクタ、スクリーン									
履修上の 注意										

必要な場合はご利用ください。

回	授業計画	到達目標	準備学習	準備物
1	口腔解剖学総論	消化器系の入り口としての口腔およびその周囲の解剖学的構造の概要を理解し説明できる。		骨格標本
2	口腔付近の解剖	口腔の範囲と機能および各部の名称を説明できる。	P3～P11の予習	
3	口腔を構成する骨	頭蓋を構成する骨を説明できる。	P11～P15の予習	頭蓋模型
4	口腔を構成する骨	口腔を構成する骨を説明できる。	P16～P26の予習	頭蓋模型
5	頭頸部の筋と作用	表情筋の働きと構成を説明できる。	P26～P28の予習	
6	頭頸部の筋と作用	咀嚼筋の働きと構成を説明できる。	P29～P30の予習	
7	頭頸部の筋と作用	頸部の筋について説明できる。 顎関節について説明できる。	P31～P37の予習	
8	口腔付近に分布する脈管系	口腔付近に分布する動脈系について説明できる。	P38～P44の予習	
9	口腔付近に分布する脈管系	口腔付近に分布する静脈系およびリンパ系について説明できる。	P44～P49の予習	
10	神経系	脳神経の働きと名称および分布について説明できる。 三叉神経の分布と機能について説明できる。	P49～P54の予習	頭蓋模型
11	神経系	顔面神経、舌咽神経、迷走神経、舌下神経の分布と働きについて説明できる。	P54～P59の予習	頭蓋模型
12	神経系	頭頸部に分布する脊髄神経について説明できる。 自律神経について説明できる。	P59～P61の予習	頭蓋模型

回	授業計画	到達目標	準備学習	準備物
13	歯と口腔の感覚	歯と口腔粘膜の感覚について説明できる。	P192～P199の予習	
14	味覚と嗅覚	味覚について説明できる。	P200～P212の予習	
15	味覚と嗅覚	嗅覚について説明できる。	P200～P212の予習	
16	咬合と咀嚼・吸啜	下顎位と下顎の運動について説明できる。	P213～P219の予習	頭蓋模型
17	咬合と咀嚼・吸啜	顎反射、摂食行動、咀嚼能力、吸啜について説明できる。	P219～P232の予習	頭蓋模型
18	嚥下と嘔吐	嚥下と嘔吐に関わる構造について説明できる。	P233～P247の予習	
19	嚥下と嘔吐	摂食嚥下の流れとその概要について説明できる。 嘔吐について説明できる	P233～P247の予習	
20	発声	発声と発声に関わる構造および仕組みについて説明できる。	P248～P259の予習	
21	唾液	唾液腺の種類と解剖学的な位置および機能について説明できる。	P260～P270の予習	
22	まとめ	口腔解剖生理学の理解を深めることができる。	確認テスト&解説	
23	まとめ	口腔解剖生理学の理解を深めることができる。	確認テスト&解説	

基本情報

学科目名	歯牙解剖学	分野	専門基礎分野 [歯・口腔の構造と機能]			講師名	河端憲彦	
履修学年・学期	1年 後期	授業方式	講義	単位数	1単位	15時間	授業回数	8
教員の 実務経験	歯科医師。福岡大学病院歯科口腔外科入局、歯科診療所院長。							
授業との 関連性	大学病院歯科口腔外科など臨床歯科医としての様々な経験を踏まえ、歯牙の構造や特徴、役割について講義する。							

詳細情報

授業目標	何が基礎なのかを理解し、応用力を身につける。									
成績評価 方法	定期試験	80点	小テスト レポート	20点	実技・発表 ワーク(演習) など	点	受講態度	点	合計	100点
	*小テスト[当日授業内容が対象の小テストを各回ごとに行う。6割[平均点による]以上で1回につき4点を定期試験に加算] (学則) 合格点：60点以上とし、不合格の学科目は1回限り再試験を受けることができる。 追試験：学期試験を欠席した場合は1回限り追試験を受けることができる。 欠課：①開始20分以降の遅刻 ②終了20分以前の早退 ③同一学科目で遅刻及び早退を4回した者 受験を認めない要件：各科目の授業時間数が3分の2に満たない者									
教科書名	歯科衛生学シリーズ 「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」 天野修 著他 医歯薬出版Kk									
参考文献										
使用設備・備 品・準備物	ipadにて講義。HDMIケーブルとプロジェクターを用意してください。									
履修上の 注意	授業中は私語を慎み、他人に迷惑をかけない。									
回	授業計画			到達目標			準備学習			
1	◆歯の各部の名称◆歯の表示法◆歯の用語 ◆根管の形態◆ミュルライターの三徴候			歯の表示法や記号について説明できる。 歯の専門用語が使える。 歯の左右、近遠心、頬舌の識別ができる。			該当項目の教本を読む でくる。			
2	◆永久歯との比較による乳歯の形態学的特徴 ◆乳歯の形態学的特徴 上下顎重中切歯・上下顎乳側切歯・上下顎乳犬 歯・上下顎第一乳臼歯・上下顎第二乳臼歯			乳歯と永久歯の違いを説明できる。 歯種の鑑別、歯の形態を歯種別に説明でき る。 歯の形態異常について説明できる。 図で示し、各部の名称が説明できる。			該当項目の教本を読む でくる。			
3	◆永久歯の形態学的特徴 上下顎中切歯・上下顎側切歯・上下顎犬歯 上下顎第一小臼歯・上下顎第二小臼歯			歯種を鑑別できる。 歯の形態を歯種別に説明できる。 歯の形態異常について説明できる。 図で示し、各部の名称が説明できる。			該当項目の教本を読む でくる。			
4	◆永久歯の形態学的特徴 上下顎第一大臼歯・上下顎第二大臼歯・上下顎第 三大臼歯			乳歯と永久歯の違いを説明できる。 歯種の鑑別、歯の形態を歯種別に説明でき る。 歯の形態異常について説明できる。 図で示し、各部の名称が説明できる。			該当項目の教本を読む でくる。			
5	◆特色ある歯の形態 ◆咬合と歯列			歯の形態を歯種別に説明できる。 歯の形態異常について説明できる。  歯列と咬合について説明できる。 歯の萌出と交換を説明できる。			該当項目の教本を読む でくる。			
6	◆歯と歯周組織の発生 ◆口腔内の加齢変化 ◆口腔粘膜の感覚			歯の発生の概要を概説できる。 口腔粘膜の感覚の変化を概説できる。 口腔・顎顔面の老化と歯の喪失に伴う変化を 説明できる。			該当項目の教本を読む でくる。			
7	◆歯の構造と機能 エナメル質・象牙質・歯髄			歯の構造と機能について説明ができる。			該当項目の教本を読む でくる。			
8	◆歯周組織の構造と機能 セメント質・歯根膜・歯槽骨・歯肉			歯周組織の構造と機能について説明ができ る。			該当項目の教本を読む でくる。			

基本情報

学科名目	生化学口腔生化学	分野	専門基礎分野 [歯・口腔の構造と機能]			講師名	諸富静香		
履修学年・学期	1年 後期	授業方式	講義	単位数	1単位	15時間	授業回数	8	
教員の実務経験	歯科医師。熊本大学病院歯科口腔外科勤務。								
授業との関連性	大学病院歯科口腔外科での様々な研究や治療を踏まえ、生体やう蝕、歯周病のしくみについて講義する。								

詳細情報

授業目標	口腔内を中心に生体内の生命現象を生化学的に理解する。									
成績評価方法	定期試験	100点	小テストレポート	点	実技・発表ワーク(演習)など	点	受講態度	点	合計	100点
	<p>(学則)  <b>合格点</b>；60点以上とし、不合格の学科目は1回限り<b>再試験</b>を受けることができる。  <b>追試験</b>；学期試験を欠席した場合は1回限り<b>追試験</b>を受けることができる。  <b>欠課</b>；①開始20分以降の遅刻 ②終了20分以前の早退 ③同一学科目で遅刻及び早退を4回した者  <b>受験を認めない要件</b>；各学科目の授業時間数が3分の2に満たない者</p>									
教科書名	歯科衛生学シリーズ 「人体の構造と機能2 栄養と代謝」高橋信博著 他 医歯薬出版株式会社									
参考文献										
使用設備・備品・準備物	プロジェクター、									
履修上の注意	各授業の確認テスト（小テスト）を次週の授業中に行いますので、しっかりと復習して下さい。									
回	授業計画				到達目標			準備学習		
1	生命活動の概要①				生体の構成要素を理解する。					
2	生命活動の概要②				生体内でおこる化学反応を理解する。			確認テスト（小テスト）を授業中に行いますので、しっかりと復習して下さい。		
3	口腔組織の生化学 ー歯周組織ー				歯周組織について生化学的に理解する。			確認テスト（小テスト）を授業中に行いますので、しっかりと復習して下さい。		
4	口腔組織の生化学 ー歯・骨ー				歯と骨について生化学的に理解する。			確認テスト（小テスト）を授業中に行いますので、しっかりと復習して下さい。		
5	口腔組織の生化学 ー唾液ー				唾液について生化学的に理解する。			確認テスト（小テスト）を授業中に行いますので、しっかりと復習して下さい。		
6	口腔組織の生化学 ーう蝕ー				う蝕について生化学的に理解する。			確認テスト（小テスト）を授業中に行いますので、しっかりと復習して下さい。		
7	口腔組織の生化学 ー歯周病ー				歯周病について生化学的に理解する。			確認テスト（小テスト）を授業中に行いますので、しっかりと復習して下さい。		
8	総復習				今まで学習したことを整理する。			確認テスト（小テスト）を授業中に行いますので、しっかりと復習して下さい。		



基本情報

学科名	病理学	分野	専門基礎分野 [疾病の成り立ち及び回復過程の促進]			講師名	古田 洋介		
履修学年・学期	1年 前期	授業方式	講義	単位数	1単位	15時間	授業回数	8	
教員の 実務経験	歯科医師。歯科診療所院長。								
授業との 関連性	臨床歯科医師としての様々な診察、治療の経験から病的な機能変化について講義する。								

詳細情報

授業目標	病理学の基本的な考え方や要点を国家試験及び実際の臨床現場に活かせることを目標とする。									
成績評価 方法	定期試験	100点	小テスト レポート	点	実技・発表 ワーク(演習) など	点	受講態度	点	合計	100点
	<p>(学則)  <b>合格点</b>：60点以上とし、不合格の学科目は1回限り<b>再試験</b>を受けることができる。  <b>追試験</b>：学期試験を欠席した場合は1回限り<b>追試験</b>を受けることができる。  <b>欠課</b>：①開始20分以降の遅刻 ②終了20分以前の早退 ③同一学科目で遅刻及び早退を4回した者  <b>受験を認めない要件</b>：各学科目の授業時間数が3分の2に満たない者</p>									
教科書名	歯科衛生学シリーズ「疾病の成り立ち及び回復過程の促進1 病理学・口腔病理学」仙波伊知郎著 他 医歯薬出版KK									
参考文献	新歯科衛生士教本（第2版）病理学（医歯薬出版）									
使用設備・備 品・準備物	プロジェクター									
履修上の 注意	授業に集中し、しっかりノートを取り、試験前に見てすぐ理解できるようにしておくこと。 専門用語は覚えるしかない。									
回	授業計画				到達目標			準備学習		
1	病理学序論と病因論				①疾病の経過について説明できる。 ②脳死について説明できる。 ③内分泌疾患の代表例について説明できる。			該当項目の教本を 読んでくる。		
2	遺伝性疾患と奇形				①染色体、テロメアについて概説できる。 ②遺伝性疾患の代表例について説明できる。 ③染色体異常の代表例について説明できる。 ④奇形の発症と原因について説明できる。			該当項目の教本を 読んでくる。		
3	循環障害				①循環障害についてその種類と各々の定義について概説できる。 ②血栓症、塞栓症について説明できる。 ③動脈硬化症について概説できる。 ④側副循環について説明できる。			該当項目の教本を 読んでくる。		
4	代謝障害と退行性病変				①細胞傷害の転帰とその種類について各々列記できる。 ②変性の各種について列記できる。 ③萎縮の各種について列記できる。 ④壊死とアポトーシスの違いを説明できる。			該当項目の教本を 読んでくる。		
5	増殖と修復				①肥大の種類について概説できる。 ②化生の定義と代表例について説明できる。 ③細胞の再生能について列記でき代表例について説明できる。 ④創傷治癒、異物処理について分類、説明できる。			該当項目の教本を 読んでくる。		
6	炎症				①炎症の定義について説明できる。 ②炎症の経過について説明できる。 ③炎症に関連する細胞を列記、各々を説明できる。 ④急性と慢性の炎症の経過について特徴を説明できる。 ⑤炎症の分類とそれぞれの状態について説明できる。			該当項目の教本を 読んでくる。		
7	免疫応答異常				①免疫応答について説明できる。 ②液性免疫と細胞性免疫について説明できる。 ③免疫応答の経時的変化について説明できる。 ④アレルギーの分類と各々について概説できその各々の代表例を列挙できる。			該当項目の教本を 読んでくる。		
8	腫瘍				①腫瘍の定義について説明できる。 ②腫瘍の原因、発生機序について説明できる。 ③腫瘍の種類とその代表例を列記できる。 ④良性と悪性の違いを列記できる。 ⑤前がん病変について説明できる。			該当項目の教本を 読んでくる。		

# 令和6年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

## 基本情報

学科名	口腔病理学	分野	専門基礎分野 [疾病の成り立ち及び回復過程の促進]			講師名	山下 真柚子	
履修学年・学期	1年 後期	授業方式	講義	単位数	1単位	15時間	授業回数	8
教員の実務経験	歯科医師。熊本大学病院歯科口腔外科勤務。							
授業との関連性	臨床における歯科口腔外科医として手術等の経験から、顎口腔領域疾患の原因、機能の変化などについて講義する。							

## 詳細情報

授業目標	口腔病理学を学び、病気のあり方を知る。									
成績評価方法	定期試験	60点	小テスト レポート	40点	実技・発表 ワーク(演習) など	点	受講態度	点	合計	100点
教科書名	(学則) 合格点；60点以上とし、不合格の学科目は1回限り再試験を受けることができる。 追試験；学期試験を欠席した場合は1回限り追試験を受けることができる。 欠課；①開始20分以降の遅刻 ②終了20分以前の早退 ③同一学科目で遅刻及び早退を4回した者 受験を認めない要件；各学科目の授業時間数が3分の2に満たない者									
参考文献	「新口腔病理学」医歯薬出版KK									
使用設備・備品・準備物	PC・プロジェクター									
履修上の注意	配布するプリントを参照しながら、重要な点を説明します。									
回	授業計画				到達目標			準備学習		
1	歯の発育異常、歯の損傷と着色・付着物について				歯の異常について説明できる			p70-87		
2	齲蝕と歯髄炎				齲蝕の分類、歯髄炎の分類ができる			p88-104		
3	歯周組織、歯根嚢胞や粘膜疾患				根尖性歯周炎の分類や歯根嚢胞を説明できる、粘膜疾患を理解する			p105-132		
4	嚢胞と腫瘍				嚢胞、腫瘍の代表的な疾患がわかる			p133-145		
5	口腔癌、顎骨病変について				口腔癌や顎骨病変を説明できる			p146-160		
6	唾液腺の疾患				唾液腺の疾患を説明できる			p161-167		
7	口腔領域の奇形について				先天性疾患の理解			p168-173		
8	口腔組織の加齢変化、まとめ				口腔組織の加齢変化を説明できる			p174-180		

基本情報

学科名	薬理入門	分野	専門基礎分野 [疾病の成り立ち及び回復過程の促進]			講師名	石塚 忠男	
履修学年・学期	2年 前期	授業方式	講義	単位数	1単位	15時間	授業回数	8
教員の 実務経験	薬学博士（東京大学）。熊本大学大学院生命科学研究部（薬学系）教授。							
授業との 関連性	薬学博士としての見識から疾病に対する各種薬物の作用機序について講義する。							

詳細情報

授業目標	薬物の作用を理解するための薬理学の基本概念を理解する。									
成績評価 方法	定期試験	100点	小テスト レポート	点	実技・発表 ワーク(演習) など	点	受講態度	点	合計	100点
	<b>(学則)</b> 合格点：60点以上とし、不合格の学科目は1回限り <b>再試験</b> を受けることができる。 追試験：学期試験を欠席した場合は1回限り <b>追試験</b> を受けることができる。 欠課：①開始20分以降の遅刻 ②終了20分以前の早退 ③同一学科目で遅刻及び早退を4回した者 <b>受験を認めない要件</b> ：各学科目の授業時間数が3分の2に満たない者									
教科書名	歯科衛生学シリーズ「疾病の成り立ち及び回復過程の促進3 薬理学」 王 宝禮著 医歯薬出版KK									
参考文献	授業用にプリントを配布しますので、利用して下さい。									
使用設備・備 品・準備物	液晶プロジェクター									
履修上の 注意	①予習・復習をきちんとして下さい。 ②医療用医薬品に関しては添付文書を調べる習慣をつけて下さい。									
回	授業計画				到達目標			準備学習		
1	総論1. 薬物の作用				薬物の基本的な作用形式について説明できるようにになる。			説明動画をMoodle上で視聴可能とするので復習して下さい。		
2	総論2. 薬物動態				薬物が体内でどのように吸収・分布し排泄されるかを説明できるようにになる。			説明動画をMoodle上で視聴可能とするので復習して下さい。		
3	総論3. 薬物の適用方法の種類と特徴				薬物の適用方法について学び、適用方法による違いを説明できるようにになる。			説明動画をMoodle上で視聴可能とするので復習して下さい。		
4	総論4. 薬物の作用に影響を与える要因				薬物の作用に影響する要因を知り、連用・併用による影響を説明できるようにになる。			説明動画をMoodle上で視聴可能とするので復習して下さい。		
5	総論5. 薬物の副作用、有害作用				薬物の副作用、有害作用の種類を知り、その原因を説明できるようにになる。			説明動画をMoodle上で視聴可能とするので復習して下さい。		
6	総論6. 医薬品を適用する際の注意				患者の状態による医薬品の適用法の違いを理解し、適切な服薬指導ができるようになる。			説明動画をMoodle上で視聴可能とするので復習して下さい。		
7	総論7. 薬物の取り扱い				医薬品の剤形、保存方法を理解し、薬物ごとの取扱い方法について説明できるようにになる。			説明動画をMoodle上で視聴可能とするので復習して下さい。		
8	総論8. 薬物と法律・薬物と医薬品				医薬品等に関わる法律について理解して、薬物を医薬品として用いるときの注意事項を説明できるようにになる。			説明動画をMoodle上で視聴可能とするので復習して下さい。		

基本情報

学科目名	薬理学		分野	専門基礎分野 [疾病の成り立ち及び回復過程の促進]			講師名	石塚 忠男	
履修学年・学期	2年	後期	授業方式	講義	単位数	2単位	30時間	授業回数	15
教員の 実務経験	薬学博士（東京大学）。熊本大学大学院生命科学研究部（薬学系）教授。								
授業との 関連性	薬学博士としての見識から疾病に対する各種薬物の作用機序について講義する。								

詳細情報

授業目標	①薬物の作用機序、効果、薬物動態、副作用などを勉強することにより、クスリを正しく使うことが出来るようになる。また、患者への、わかりやすい服薬指導が出来るようになる。 ②さまざまな疾病に対する治療薬とその作用機序が理解出来るようになる。									
成績評価 方法	定期試験	100点	小テスト レポート	点	実技・発表 ワーク(演習) など	点	受講態度	点	合計	100点
教科書名	(学則) 合格点：60点以上とし、不合格の学科目は1回限り再試験を受けることができる。 追試験：学期試験を欠席した場合は1回限り追試験を受けることができる。 欠課：①開始20分以降の遅刻 ②終了20分以前の早退 ③同一学科目で遅刻及び早退を4回した者 受験を認めない要件：各学科目の授業時間数が3分の2に満たない者									
参考文献	歯科衛生学シリーズ「疾病の成り立ち及び回復過程の促進3 薬理学」 王 宝禮著 医歯薬出版KK									
使用設備・備 品・準備物	液晶プロジェクター									
履修上の 注意	①予習・復習をきちんとして下さい。 ②医療用医薬品に関しては添付文書を調べる習慣をつけて下さい。 ③過去問と解説動画をMoodle上に掲載するので、授業の進度に合わせて視聴して下さい。									
回	授業計画			到達目標			準備学習			
1	総論の総復習			薬理入門、で学習した薬理学の概念・用語を思い出し、各論を理解する準備を行う。			授業動画をMoodle上で視聴可能にするので復習すること			
2	各論1. ビタミンとホルモン			ビタミン、ホルモンの種類、働き、欠乏症などについて説明できるようになる。			授業動画をネット上で視聴可能にするので復習すること			
3	各論2. 末梢神経系に作用する薬物			末梢神経系の受容体と神経伝達物質について理解し、それら受容体に関する説明できるようになる。			授業動画をMoodle上で視聴可能にするので復習すること			
4	各論3. 中枢神経系に作用する薬物			中枢神経系に作用する薬物として、全身麻酔薬、アルコール類、催眠薬・抗不安薬、抗痙攣薬、向精神薬などについて作用メカニズムや使用上の注意について説明できるようになる。			授業動画をMoodle上で視聴可能にするので復習すること			
5	各論4. 循環器系に作用する薬物			高血圧、不整脈、心不全、狭心症、脂質異常症の治療薬について、作用メカニズムや使用上の注意について説明できるようになる。			授業動画をMoodle上で視聴可能にするので復習すること			
6	各論5. 腎臓、呼吸器系、消化器系に作用する薬物			腎臓の機能と利尿薬について理解する。気管支喘息治療薬、鎮咳薬、去痰薬について、作用メカニズムや使用上の注意について説明できるようになる。消化性潰瘍治療薬について理解する。			授業動画をMoodle上で視聴可能にするので復習すること			
7	各論6. 血液に作用する薬物			止血機構について理解する。止血薬、抗血栓薬、抗貧血薬について作用メカニズムや使用上の注意について説明できるようになる。			授業動画をMoodle上で視聴可能にするので復習すること			
8	各論7. 免疫と薬			免疫応答について理解する。免疫抑制薬、免疫増強薬、抗アレルギー薬、ワクチンについて作用メカニズムや使用上の注意について説明できるようになる。			授業動画をMoodle上で視聴可能にするので復習すること			

回	授業計画	到達目標	準備学習
9	各論8. 抗悪性腫瘍薬、代謝性疾患治療薬	悪性腫瘍について知り、抗悪性腫瘍薬について作用メカニズムや使用上の注意について説明できるようになる。 糖尿病、骨粗鬆症治療薬について作用メカニズムや使用上の注意について説明できるようになる。	授業動画をMoodle上で視聴可能にするので復習すること
10	各論9. 炎症と薬	炎症について理解する。 抗炎症薬、解熱鎮痛薬について作用メカニズムや使用上の注意について説明できるようになる。	授業動画をMoodle上で視聴可能にするので復習すること
11	各論10. 痛みと薬	痛みの仕組みについて理解する。 鎮痛薬について作用メカニズムや使用上の注意について説明できるようになる。	授業動画をMoodle上で視聴可能にするので復習すること
12	各論11. 局所麻酔薬	局所麻酔薬について知り、作用メカニズムや使用上の注意について説明できるようになる。	授業動画をMoodle上で視聴可能にするので復習すること
13	各論12. 抗感染症薬1	抗感染症薬について作用メカニズムや使用上の注意について説明できるようになる。	授業動画をMoodle上で視聴可能にするので復習すること
14	各論13. 抗感染症薬2	抗感染症薬について作用メカニズムや使用上の注意について説明できるようになる。	授業動画をMoodle上で視聴可能にするので復習すること
15	各論14. 消毒に使用する薬	消毒薬の作用機序を知り、主な消毒薬について使用対象や使用上の注意を説明できるようにする。	授業動画をMoodle上で視聴可能にするので復習すること



基本情報

学科名	微生物学	分野	専門基礎分野 [疾病の成り立ち及び回復過程の促進]			講師名	山下 喜久	
履修学年・学期	1年 前期	授業方式	講義	単位数	2単位	30時間	授業回数	15
教員の 実務経験	歯科医師。九州大学名誉教授。九州歯科大学客員教授。日本口腔衛生学会 専門医・指導医・認定医。歯科基礎医学会会員。日本細菌学会会員。							
授業との 関連性	日本口腔衛生学会専門医・指導医・認定医としてのさまざまな研究やこれまでの大学での講義や見識を踏まえ、感染症の原因となる病原菌の性状やその発症について講義する。							

詳細情報

授業目標	微生物の一般性状を理解し、完成成立の機序や感染予防に関する知識を習得する。さらに口腔領域における疾患（主にう蝕と歯周病）と口腔微生物の関係、その病態や発症のメカニズムを理解し、予防や治療に応用できる基礎力を養う。									
成績評価 方法	定期試験	100点	小テスト レポート	点	実技・発表 ワーク(演習) など	点	受講態度	点	合計	100点
	<b>(学則)</b> 合格点；60点以上とし、不合格の学科目は1回限り <b>再試験</b> を受けることができる。 追試験；学期試験を欠席した場合は1回限り <b>追試験</b> を受けることができる。 欠課；①開始20分以降の遅刻 ②終了20分以前の早退 ③同一学科目で遅刻及び早退を4回した者 <b>受験を認めない要件；</b> 各学科目の授業時間数が3分の2に満たない者									
教科書名	歯科衛生学シリーズ「疾病の成り立ち及び回復過程の促進2 微生物学 第2版」 木村重信著 他 医歯薬出版KK									
参考文献	絵でわかる感染症 with もやしもん 岩田健太郎著 講談社									
使用設備・備 品・準備物	プロジェクター									
履修上の 注意	授業中の私語は固く禁じます。									
回	授業計画				到達目標			準備学習		
1	序論 ・疾病と微生物、免疫学				微生物とは何かを理解し、微生物が引き起こす疾病を学ぶ。また、微生物が原因となる感染症に対する宿主の反応としての免疫を理解する。			「予習(教科書P1～7)」を事前に読んでおく。		
2	序論 ・感染と感染症				微生物が宿主に寄生する感染と感染によって宿主の機能に異常をきたし、さまざまな症状を現す感染症の過程を理解する。			「予習(教科書P8～12)」を事前に読んでおく。		
3	総論 ・微生物の分類&細菌の病原性				細菌、真菌、ウイルスの違いを学び、それぞれの微生物の病原性の違いを理解する。			「予習(教科書P13～28)」を事前に読んでおく。		
4	各論 ・主な病原性細菌 (グラム陽性菌と陰性菌)				グラム陽性および陰性細菌の代表的な病原性細菌の種類を知る。			「予習(教科書P28～42)」を事前に読んでおく。		
5	各論 ・その他の病原性細菌 (マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア) 総論 ・ウイルスの性状と特徴				一般のグラム陽性細菌や陰性細菌に分類されない病原性細菌種を知る。  ウイルスの感染増殖の特徴を他の病原微生物と比較することで理解する。			「予習(教科書P43～54)」を事前に読んでおく。		
6	各論 病原性ウイルスの種類 ・その他の微生物 (真菌、原虫)				病原性を示す様々なウイルスの種類を知る。			「予習(教科書P54～73)」を事前に読んでおく。		
7	宿主防御機構と免疫 ・非特異的防御機構(自然免疫)と特異的防御機構				非特異的防御と特異的防御による免疫の違いを学ぶ。			「予習(教科書P74～81)」を事前に読んでおく。		

回	授業計画	到達目標	準備学習
8	宿主防御機構と免疫 ・免疫関連臓器と免疫担当細胞 ・免疫細胞の制御	免疫機能に関わる細胞と細胞が働く臓器を知る。さらに免疫細胞間の相互作用による免疫制御のメカニズムを学ぶ。	「予習(教科書P82～91)」を事前に読んでおく。
9	宿主防御機構と免疫 ・液性免疫と細胞性免疫	獲得免疫が液性免疫と細胞性免疫からなることを学び免疫応答を大きな視点で理解する。	「予習(教科書P92～102)」を事前に読んでおく。
10	宿主防御機構と免疫 ・アレルギー	免疫の負の作用であるアレルギーについて学び、I～VI型のアレルギーの違いを理解する。	「予習(教科書P103～109)」を事前に読んでおく。
11	口腔微生物 ・口腔細菌叢とデンタルプラーク	口腔細菌叢を構成する細菌種を学び、さらに歯面に形成されるデンタルプラークとその病原性を理解する。	「予習(教科書P110～122)」を事前に読んでおく。
12	口腔感染症 ・う蝕と歯周病 ・その他の口腔疾患	歯科の2大疾患であるう蝕と歯周病が口腔細菌が原因で生じることを学ぶ。また、その他の口腔疾患の中、口腔細菌が原因で発症する疾病についてもその原因菌を理解する。	「予習(教科書P123～143)」を事前に読んでおく。
13	化学療法 ・化学療法の分類とその作用機序 ・化学療法剤の使い方	感染症対策としての化学療法の意味と、化学療法薬の種類を学ぶ。	「予習(教科書P144～154)」を事前に読んでおく。
14	院内感染対策と微生物の取り扱い ・歯科診療における標準予防策 ・滅菌・消毒 ・細菌培養法と顕微鏡観察	感染症予防としての標準予防策と消毒・滅菌を理解するとともに微生物の取り扱い方法を学ぶ。	「予習(教科書P155～177)」を事前に読んでおく。
15	総まとめ (過去14回の講義の補足と試験対策)	講義全体を振り返り、重要なポイントを復習する。	

基本情報

学科名目	口腔衛生学	分野	専門基礎分野「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み」 保健生態学			講師名	新谷 泰之		
履修学年・学期	1年 前期	授業方式	講義	単位数	2単位	30時間	授業回数	15	
教員の 実務経験	歯科医師。麻生ビューティーカレッジ、九州医療スポーツ専門学校、九州医療専門学校非常勤講師。歯科診療所院長。								
授業との 関連性	臨床歯科医師、専門学校非常勤講師としての経験を踏まえ、歯・口腔の健康と予防の基礎、う蝕・歯周疾患の発生機序、予防手段について講義する。								

詳細情報

授業目標	国家試験に合格する学力を身につける。卒業後の臨床現場で戸惑わない基礎学力を修得する。									
成績評価 方法	定期試験	100点	小テスト レポート	点	実技・発表 ワーク(演習) など	点	受講態度	点	合計	100点
	<p>(学則) 合格点；60点以上とし、不合格の学科目は1回限り<b>再試験</b>を受けることができる。 追試験；学期試験を欠席した場合は1回限り<b>追試験</b>を受けることができる。 欠課；①開始20分以降の遅刻 ②終了20分以前の早退 ③同一学科目で遅刻及び早退を4回した者 <b>受験を認めない要件</b>；各学科目の授業時間数が3分の2に満たない者</p>									
教科書名	歯科衛生学シリーズ「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学」 可児徳子著他 医歯薬出版KK									
参考文献	「歯科衛生士国家試験問題集」									
使用設備・備 品・準備物	プロジェクター									
履修上の 注意	教科書をもとにプロジェクターを使用して講義を行います。教科書の範囲は先に読んでおくとよいでしょう。									
回	授業計画				到達目標			準備学習		
1	教科書P92-93 1章 総論 ①歯・口腔の健康				①健康の定義 ②予防の定義 について理解する			教科書予習してくだ さい。(一読してお いてください)		
2	教科書P93-99 ②歯・口腔の構造と機能 1. 歯口腔の構造				①歯・口腔組織の構造および名称を覚える ②だ液の機能を理解する			教科書予習してくだ さい。		
3	教科書P99-105 2. 歯・口腔の発生と成 長・発育				①歯の石灰化及び萌出時期を覚える。 ②五大栄養素やホルモンが口腔形成に及ぼす影響 を理解する。 ③口腔の形成異常について理解する。			教科書予習してくだ さい。		
4	教科書P105-110 3. 歯・口腔の機能				①咀嚼・嚥下について理解する。 ②誤嚥性肺炎について理解する。 ③口腔と全身の健康(歯周病と糖尿病、早産)に ついて理解する。			教科書予習してくだ さい。		
5	教科書P110-118 ③歯・口腔の付着物・ 沈着物				①プラークの生態について深く理解する。 ②ペリクルと細菌の付着機構について理解する。 ③バイオフィルムの概念を十分に理解する。 ④歯石について理解する。 ⑤S.mutansとGTFの関係を理解する。			教科書予習してくだ さい。		
6	教科書P119-125 2章 歯科疾患の疫学				①う蝕、歯周病等の疫学を概説する。 ②う蝕発生のメカニズムを脱灰のキーワードで理 解する。 ③う蝕発生要因の宿主と歯、口腔細菌、発酵性糖 質の関係性を理解する。			教科書予習してくだ さい。		
7	教科書P140-149 4章 う蝕の予防 ①~③				①う蝕感受性が高い年齢と性別、歯種と歯面、唾 液の緩衝能について理解する。 ②ミュータンスレンサ球菌のう蝕誘発性を3つ挙 げられる。 ③ステファンカーブを理解する。			教科書予習してくだ さい。		

回	授業計画	到達目標	準備学習
8	教科書P149-157 ④う蝕活動性試験 ⑤う蝕の予防方法	①各う蝕活動性試験の検体と評価内容を覚える。 ②う蝕発生の第1～3次予防を理解する。 ③発生意因に対する予防法を理解する。 ④MI (Minimal Intervention) について理解する。	教科書予習してください。
9	教科書P158-185 5章 フッ化物によるう蝕予防	①日本のフッ化物応用の歴史と現状を理解する。 ②フッ化物の摂取量とその基準をはっきりと覚える。 ③フッ素の代謝を理解する。	教科書予習してください。
10	教科書P158-185 5章 フッ化物によるう蝕予防	①急性毒性、致死量をはっきりと覚える。 ②慢性毒性を理解する。 ③ppmと%の関係、フッ素濃度に関する基礎を学ぶ。 ④フッ化物歯面塗布の手法と溶液の種類を理解する。 ⑤フッ化物洗口について習熟する。	教科書予習してください。
11	教科書P158-185 5章 フッ化物によるう蝕予防	①フッ化物の局所と全身応用の方法について理解する。 ②フッ化物のう蝕予防機序を理解する。 ③ライフステージ別の新しいフッ化物応用法を学ぶ。 ④フッ化物配合歯磨剤に対する新しい考え方を学習する。	教科書予習してください。
12	教科書P186-197 6章 歯周疾患の予防	①歯周組織の構造を覚える。 ②歯肉炎と歯周炎の定義と分類を覚える。 ③歯周疾患の症状を知る。 ④歯周疾患の発生机序を理解する。	教科書予習してください。
13	教科書P186-197 6章 歯周疾患の予防	①ペリオドンタルメディスンを理解する。 ②歯周疾患の予防手段と処置を理解する。 ③歯周疾患のリスクファクターについて理解する。 ④定期的予防処置の重要性について理解する。	教科書予習してください。
14	教科書P198-211 7章 その他の疾患・異常の予防①	口内炎、口腔癌、不正咬合、顎関節症、歯の形成不全、口臭、口腔乾燥症について分類、要因、予防について概説する。	教科書予習してください。
15	教科書P198-211 7章 その他の疾患・異常の予防②	口内炎、口腔癌、不正咬合、顎関節症、歯の形成不全、口臭、口腔乾燥症について分類、要因、予防について概説する。	教科書予習してください。

基本情報

学科目名	公衆歯科衛生学	分野	専門基礎分野「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み」 保健生態学			講師名	正清 義朗	
履修学年・学期	1年 後期	授業方式	講義	単位数	2単位 30時間	授業回数	15	
教員の 実務経験	歯学博士。口腔衛生学会認定予防歯科医。九州環境福祉医療専門学校歯科衛生士科非常勤講師。歯科診療所院長。							
授業との 関連性	口腔衛生学会認定予防歯科医師としての様々な研究や経験を踏まえ、地域歯科保健活動の枠組みや集団や行政レベルでの予防対策について講義する。							

詳細情報

授業目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域社会で集団歯科保健指導をするうえで対象集団の特性を把握する。</li> <li>2. 現在の日本と世界における地域歯科保健活動の枠組みと内容を知る。</li> <li>3. 地域社会で活躍、貢献できる歯科衛生士となる知識を習得する。</li> <li>4. 口腔の健康を損なわせる疾病について原因と病態を知り、集団や行政レベルでの予防について考え学ぶ。</li> <li>5. 国家試験に合格できるだけの知識を習得する。</li> </ol>								
------	---	--	--	--	--	--	--	--	--

成績評価 方法	定期試験	100点	小テスト レポート	点	実技・発表 ワーク(演習) など	点	受講態度	点	合計	100点
受験資格・単位認定は学則・細則に準じます。										

教科書名	歯科衛生学シリーズ「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学」 可児徳子著他 医歯薬出版KK									
------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

参考文献	厚生統計協会 編「国民衛生の動向」(厚生統計協会)									
------	---------------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

使用設備・ 備品・準備 物										
---------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

履修上の 注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞をよく読み、現在、身の回りや世界で起きている出来事が、自分や家族の生活と健康に与えている影響を考えること。</li> <li>・配布された資料はファイリングして、整理し、毎回持参すること。</li> </ul>									
------------	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--

回	授業計画	到達目標	準備学習	準備物
1	第1章：地域保健・公衆衛生	①地域保健	該当項目の教本を読んでくる。	保健生態学 教本
2	第1章：地域保健・公衆衛生	①ヘルスプロモーション ②ソーシャルキャピタル	該当項目の教本を読んでくる。	保健生態学 教本 配布プリン ト
3	第1章：地域保健・公衆衛生	①地域保健活動の進め方 ②ハイリスクアプローチとポピュレーションアプローチ	該当項目の教本を読んでくる。	保健生態学 教本 配布プリン ト
4	第1章：地域保健・公衆衛生	①地域歯科保健 ②保健福祉関係の施策 ③厚労省の健康づくり政策	該当項目の教本を読んでくる。	保健生態学 教本 配布プリン ト
5	第2章：母子保健	①母子保健の用語 ②母子保健の制度と政策 ③出生と死亡から考える母子保健の現状と課題	該当項目の教本を読んでくる。	保健生態学 教本 配布プリン ト
6	第2章：母子歯科保健	①妊娠期 ②幼児期 1歳6か月健診と3歳児健診	該当項目の教本を読んでくる。	保健生態学 教本 配布プリン ト
7	第3章：学校保健	①学校病と学校における感染症 ②学校保健の行政における位置づけを知る。 ③学校保健の活動を組織を理解する。 ④学校保健の疫学と意義を理解する。	該当項目の教本を読んでくる。	保健生態学 教本 配布プリン ト
8	第3章：学校歯科保健	①学校歯科健診	該当項目の教本を読んでくる。	保健生態学 教本 配布プリン ト

回	授業計画	到達目標	準備学習	準備物
9	第4章：成人保健 第4章：成人歯科保健	①生活習慣病 ②悪性新生物 ③成人保健対策 ④特定健康診査の項目と標準値 ⑤成人期の歯科保健の現状 ⑥8020運動 ⑦歯周疾患検診	該当項目の教本を 読んでくる。	保健生態学 教本 配布プリン ト
10	第5章：産業保健 第5章：産業歯科保健	①産業衛生法規 ②職業性疾病 ③産業保健活動 ④健康診断の実施 ⑤職業性歯科疾患 ⑥特殊健康診断	該当項目の教本を 読んでくる。	保健生態学 教本 配布プリン ト
11	第6章：老人保健	①老化とは ②老化に伴う病態 ③老人保健対策 ④介護保険 ⑤老人歯科保健	該当項目の教本を 読んでくる。	保健生態学 教本 配布プリン ト
12	第7章：精神保健	①精神保健とは ②精神障害者福祉	該当項目の教本を 読んでくる。	保健生態学 教本 配布プリン ト
13	第8章：国際保健	①世界における健康問題 ②国際協力 ③国際歯科保健	該当項目の教本を 読んでくる。	保健生態学 教本 配布プリン ト
14	復習	地域保健～学校保健		保健生態学 教本 配布プリン ト
15	復習	成人保健～国際保健		保健生態学 教本 配布プリン ト



基本情報

学科科目名	保健情報統計学	分野	専門基礎分野「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み」 保健生態学			講師名	齊藤 桐枝	
履修学年・学期	2年 後期	授業方式	講義	単位数	1 単位	15時間	授業回数	8
教員の 実務経験	歯科医師。九州歯科大学大学院歯学研究科。歯科診療所勤務。							
授業との 関連性	口腔衛生学に係る様々な研究を踏まえ、口腔健康管理に必要な評価の仕方と管理について講義する。							

詳細情報

授業目標	国家試験担当範囲の習熟を最優先に、近年の歯科衛生士に求められる業務範囲の広がりに対して、その意義等を伝える。統計の意義について学び、歯科衛生士の仕事が国家各種行政機関が行う統計調査とどのように関わっているのかを知る。								
------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

成績評価 方法	定期試験	100点	小テスト レポート	点	実技・発表 ワーク(演習) など	点	受講態度	点	合計	100点
	<b>(学則)</b> 合格点；60点以上とし、不合格の学科目は1回限り <b>再試験</b> を受けることができる。 追試験；学期試験を欠席した場合は1回限り <b>追試験</b> を受けることができる。 欠課；①開始20分以降の遅刻 ②終了20分以前の早退 ③同一学科目で遅刻及び早退を4回した者 <b>受験を認めない要件</b> ；各学科目の授業時間数が3分の2に満たない者									

教科書名	歯科衛生学シリーズ「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み3 保健情報統計学」 佐々木好幸著 医歯薬出版KK								
------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

参考文献	1. 歯科疾患実態調査 2. 地域保健事業、健康増進事業報告書 3. 各種統計報告書								
------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

使用設備・備 品・準備物	PC、プロジェクター、レーザーポインター、マジックペン（板書用）、ホワイトボード								
-----------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

履修上の 注意	事前に教科書や配布プリントを読んで予習をして来て下さい。歯周疾患の指数や代表値は理解して計算できる事を目標にしているので、講義中に質問をしたり小テストで復習することがあります。								
------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

必要な場合はご利用ください。

回	授業計画	到達目標	準備学習	準備物
1	保健情報と保健統計	EBMと口腔保健に関する主な国家統計について理解する事ができる。	予習(教科書P1～P17を読んでおく)	資料①(配布プリント)
2	保健情報と疫学	疫学の方法論とスクリーニングについて理解する事ができる。	予習(教科書P18～P35を読んでおく)	資料②
3	歯科疾患の指数①	う蝕、歯周疾患の指数について理解する事ができる。	予習(P36～P54、P151を読んでおく)	資料③
4	歯科疾患の指数②	口腔清掃状態、不正咬合、フッ素症の指数について理解する事ができる。	予習(教科書P54～P72を読んでおく)	資料④
5	保健情報の分析手順	母集団と標本、データの尺度、代表値、相関について理解する事ができる。	予習(教科書P73～P94を読んでおく)	資料⑤
6	検定	検定法の選択、多変量解析について理解する事ができる。	予習(教科書P94～P113を読んでおく)	資料⑥
7	保健情報の分析演習	t検定とカイ二乗検定について理解する事ができる。	予習(P114～P136を読んでおく)	資料⑦
8	情報の保護と倫理	個人情報の取り扱いについて理解する事ができる。	予習(P137～P150を読んでおく)	資料⑧

基本情報

学科目名	衛生公衆衛生学	分野	専門基礎分野「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み」 保健生態学			講師名	弘中 美貴子	
履修学年・学期	1年 前期	授業方式	講義	単位数	2単位	30時間	授業回数	15
教員の 実務経験	歯科医師。歯学博士。日本口腔衛生学会専門医。日本抗加齢医学会専門医。国立予防衛生研究所歯科衛生部元研究員、九州大学元共同研究員、熊本市役所元嘱託。熊本市医師会看護専門学校非常勤講師、歯科診療所副院長。							
授業との 関連性	行政機関での勤務、日本公衆衛生学会での学び、日本口腔衛生学会専門医、また日本抗加齢医学専門医としての様々な臨床経験を踏まえ、健康を守るための基礎的な知識や社会制度と社会の出来事が健康に与える影響について講義する。							

詳細情報

授業目標	1. 健康とは何か。日本人と世界の健康の現状を知る。 2. 健康を損なわせる疾病について原因と病態を知り、個人レベルでの予防と集団や行政レベルでの予防について考え学ぶ。 3. 将来、自分と家族の健康をまもっていくための基本的知識と社会制度を習得する。 4. 国家試験に合格できるだけの知識を習得する。									
成績評価 方法	定期試験	90点	小テスト レポート	3点	実技・発表 ワーク(演習) など	5点	受講態度	2点	合計	100点
	*Moodleの小テストの履修状況と評定、グループ発表の内容やパフォーマンスの評価。受講態度は全出席で加点する。									
	(学則) 合格点：60点以上とし、不合格の学科目は1回限り再試験を受けることができる。 追試験：学期試験を欠席した場合は1回限り追試験を受けることができる。追試験受験時にはMoodleのテストをすべて満点になるまで履修することを要件とする。 欠課：①開始20分以降の遅刻 ②終了20分以前の早退 ③同一学科目で遅刻及び早退を4回した者 受験を認めない要件：各科目の授業時間数が3分の2に満たない者									
教科書名	歯科衛生学シリーズ「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学」 可児徳子著他 医歯薬出版KK									
参考文献	厚生統計協会 編「国民衛生の動向」(厚生統計協会)									
使用設備・備 品・準備物	講師が資料や文献を置く長机、PC・プロジェクター									
履修上の 注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞やニュースをネット上でもいいのでチェックし、現在、身の回りや世界で起きている出来事が、自分や家族の生活と健康に与えている影響を考えること。</li> <li>・配布された資料はファイリングして、整理し、毎回持参すること。</li> <li>・Moodleを使用するのでネットにつながる端末を用意すること(スマートフォンでも可)</li> </ul>									
回	授業計画			到達目標			準備学習		準備物	
1	第1章：総論 Moodle導入 小テスト(1)を実施する 宿題：難病			①健康の概念を理解する。 ②プライマリーヘルスケアとヘルスプロモーションの概要を説明できる。 ③予防医学と予防の段階を説明できる。					端末を持参し、Moodleに入っておく(スマートフォンでも可)	
2	第2章：疫学			①疫学とは何か説明できる ②難病といわれる疾病の存在を覚える。			宿題：指定された難病について調べる。 みんなのを合わせて1冊にする  小テストを実施するので、前回の復習をしておく。			
3	第2章：疫学(2) 小テスト(2)			①罹患率と有病率を理解する ②疫学の方法と疫学研究における倫理的配慮がわかる						
4	第3章：人口(1)			①世界の人口を説明できる。 ②動態統計と静態統計が説明できる。 ③人口統計と統計用語を理解する。 ④出生・死亡の統計を理解する。			小テストの成績が全体的に悪い時は講義の最初に再び実施する		前回の小テストを復習しておく	
5	第3章：人口(2) 小テスト(3) グループ発表の準備をする			生命表を理解し平均寿命について説明できる。						
6	第4章：環境(1) 宿題：グループ学習(環境)			①概念 ②空気と水 ③放射線						
7	第4章：環境(2)グループ学習の発表			地球環境と公害			グループごとに学習したことをプレゼンテーションする			
8	第4章：環境(3)グループ学習の発表			①まとめ ②廃棄物処理						

回	授業計画	到達目標	準備学習	準備物
9	第5章：感染症（1）	①感染症の用語を覚える ②感染症の分類と分類された感染症を覚える。 ③感染症の予防と対策を知る。		
10	第5章：感染症（2） パワーポイント	①感染症に分類された病気について詳しく理解する。		
11	第5章：感染症（3） まとめ 小テスト（4）	①ニュースになった感染症を新聞記事で履修する ②予防接種 ③感染症についての理解を深める		
12	小テスト（5） 第6章：食品と健康（1）	①食品衛生 ②食中毒の疫学、分類、原因を理解する。 ③栄養素、薬との相互作用など効能を知る。 妊婦が注意しなければいけない食の安全について。		
13	第6章：食品と健康（2） Ⅲ. 第7章：精神保健（1） 宿題：精神保健	①食品の安全性確保のための方策を知る ②精神保健の概要を説明できる。 ③精神保健の動向を説明できる。 ④精神保健福祉に関わる ⑤虐待について知る。	精神保健に興味あることを選択する	
14	Ⅲ. 第7章：精神保健 学習の発表 全体の総括	①精神障害の分類と特性、病態を理解する。 ②発達障害の分類と特性を理解し、対応を考える。 ③最重要ポイントを再確認する。	選択した項目についてレポートを提出し、最も分かりやすいと思われるレポート提出者のプレゼン	
15	まとめ学習 わかりにくかったところを重点的に	①疫学 ②人口統計 ③感染症の分類などを予定		

基本情報

学科目名	衛生行政社会福祉	分野	専門基礎分野「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み」 衛生行政社会福祉			講師名	城戸 禎子	
履修学年・学期	2年 後期	授業方式	講義	単位数	1単位	15時間	授業回数	8
教員の 実務経験	社会福祉士。介護支援専門員。総合病院連携支援課勤務、九州医療専門学校社会福祉士通信学科非常勤講師、熊本総合医療リハビリテーション学院非常勤講師。							
授業との 関連性	病院に勤務し、患者さんやご家族を支援する社会福祉士として、衛生行政・社会福祉・社会保険について講義する。							

詳細情報

授業目標	衛生行政の分野においては、歯科衛生士の業務に関連する行政組織や関係法規について理解し、遵法精神の下で業務を行うことができるようにする。社会福祉の分野においては、社会保障の目的や機能を理解した上で、社会保険や福祉サービスを具体的に学び、患者や利用者を取り巻く社会制度を理解した専門職になることを目指す。									
成績評価 方法	定期試験	100点	小テスト レポート	点	実技・発表 ワーク(演習) など	点	受講態度	点	合計	100点
教科書名	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み2 「保健・医療・福祉の制度」 一般社団法人 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版株式会社									
使用設備・備 品・準備物	パソコン、パワーポイント、プロジェクター、スクリーン、授業資料、小テスト									
履修上の 注意	①聴く力、考える力、まとめる力の向上を目指して下さい。 ②適宜行う小テストで各授業のポイントを確認し、復習する際に利用して下さい。									
回	授業計画				到達目標			準備学習		
1	教科書 4章「社会保障」				①わが国の社会保障制度の役割や機能を理解する。 ②社会保障費の給付と国民の負担について理解する。			予習「教科書の該当部分を事前に読んでおく」		
2	教科書 4章「社会保険とは」 1. 医療保険				①社会保険とは何かを理解する。 ②医療保険制度の概要を理解し、給付や費用負担について述べる事ができる。			予習「教科書の該当部分を事前に読んでおく」		
3	教科書 4章「社会保険とは」 3. 年金保険 4. 労働法規と労働保険				①年金保険制度の概要を理解する。 ②労働基準法、雇用保険および労働者災害補償保険について理解する。			予習「教科書の該当部分を事前に読んでおく」		
4	教科書 4章「社会福祉」 1. 社会福祉行政 2. 生活保護と法規				①日本の社会福祉行政の仕組みを理解する。 ②公的扶助の意義や原理原則について理解する。 ③生活保護の種類や方法を述べる事ができる。			予習「教科書の該当部分を事前に読んでおく」		
5	教科書 4章「社会福祉」 3. 児童と家庭の福祉制度と法規 4. 障害者の福祉制度と法律 5. 高齢者の福祉制度と法律				①児童家庭福祉制度の概要を理解する。 ②障害者福祉制度の概要を理解し、障害者福祉サービスについて述べる事ができる。 ③高齢者福祉法に基づく、高齢者の福祉制度について理解する。			予習「教科書の該当部分を事前に読んでおく」		
6	教科書 1章「わが国の医療制度と歯科衛生士」 2. わが国の医療制度 3. 医療法 4. 歯科医師法 6. 歯科技工士法				①わが国の医療制度に関わる法律や制度について概要を理解する。 ②歯科医療とかかわる医療関係者に関する法律や制度について概要を理解する。			予習「教科書の該当部分を事前に読んでおく」		
7	教科書 2章「医療関係職種」 3章「その他の関係法規」 4. 薬事に関する法規 5. その他の衛生法規				①歯科医療とかかわる医療関係者に関する法律や制度について概要を理解する。 ②その他の関係法規について概要を理解する。			予習「教科書の該当部分を事前に読んでおく」		
8	教科書 5章「医療の動向」				①国民の健康状態について理解する。 ②医療施設や医療従事者の状況について、統計から読み取ることができる。 ③国民医療費について、統計から読み取ることができる。			予習「教科書の該当部分を事前に読んでおく」		

基本情報

学科目名	歯科衛生学 I	分野	専門分野 [歯科衛生士概論]					
履修学年・学期	1年 前後期	授業方式	講義/演習	単位数	1単位	30時間	授業回数	15

講師名	野中友紀子	教員の 実務経験	歯科衛生士。全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士。同教育委員。 本学院教務主任。					
授業との 関連性	歯科衛生士としての臨床経験や全国歯科衛生士教育協議会認定歯科衛生士専任教員、また教育委員としての指導経験をとおり、歯科衛生士活動を展開するための科学的思考能力を育成するために、講義、演習を行う。							

詳細情報

授業目標	歯科衛生士の体系的専門学問である歯科衛生学について理解を深め、医療専門職としての認識を持つ。また、歯科衛生士法における法的業務の解釈を理解し、国家資格である歯科衛生士の社会における役割を理解する。 さらに科学的根拠をもって歯科衛生士活動を展開するためのツールである歯科衛生過程の概要を理解することができる。							
------	--	--	--	--	--	--	--	--

定期試験	100点	小テスト レポート	点	実技・発表 ワーク(演習) など	点	受講態度	減点 対象	合計	100点
------	------	--------------	---	------------------------	---	------	----------	----	------

成績評価 方法	提出物厳守。減点対象になることもあります。 <b>(学則)</b> 合格点：60点以上とし、不合格の学科目は1回限り再試験を受けることができる。 追試験：学期試験を欠席した場合は1回限り追試験を受けることができる。 欠課：①開始20分以降の遅刻 ②終了20分以前の早退 ③同一科目で遅刻及び早退を4回した者 受験を認めない要件：各学科目の授業時間数が3分の2に満たない者 <b>(減点対象)</b> 事由のなき提出物遅れ、未提出の際は減点対象とします。								
------------	---	--	--	--	--	--	--	--	--

教科書名	①歯科衛生学シリーズ「歯科衛生学総論」 遠藤圭子著他 医歯薬出版KK ②歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論第2版」 遠藤圭子著他 医歯薬出版KK ③「よくわかる歯科衛生過程」 遠藤圭子著他 医歯薬出版KK								
------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

参考文献	1. 「歯科衛生士のための高齢者とのグッドコミュニケーション」 中村千賀子著 医歯薬出版 2. 「生活の医療」 大久保満男著 中央公論新社 3. 歯科衛生学シリーズ「心理学」 医歯薬出版								
------	---	--	--	--	--	--	--	--	--

使用設備・備 品・準備物	使用設備：PC、プロジェクター、付箋紙								
-----------------	---------------------	--	--	--	--	--	--	--	--

履修上の 注意	授業中は話している内容を聞きながら記録をとるようにしてください。 配布資料は毎回持参し綴じておくこと。 後期からの日程は変更になることもあります。								
------------	---	--	--	--	--	--	--	--	--

回	授業計画	到達目標	準備学習	準備物
1	医療専門職になるにあたって 入学前オリエンテーション内容を踏まえ 1章 「歯科衛生学」とは 歯科衛生と健康 健康と疾病、病気の捉え方 歯科衛生活動の領域 2章 「歯科衛生の歴史」 歯科衛生の誕生と経緯について 歯科衛生の業務の発展 歯科衛生業務の現状	1. 歯科衛生士になるための心構えが理解でき習慣的に実践することができる。 2. 「歯科衛生学」の定義を説明できる。 3. 「健康」とは何か、説明することができる。 4. 「疾病」と「病気」の違いを医療専門職の観点から説明できる。 5. 歯科衛生と健康とのかかわりを説明できる。 6. 歯科衛生士とはどのような医療専門職か説明できる。 7. 歯科衛生士の歴史を説明できる。 8. 歯科衛生士の役割と展望を説明できる。	教科書の講義に関連する章を読んでおいてください。	教科書
2	5章 「歯科衛生士法と歯科衛生業務」 歯科衛生業務の法的性格 (1) 歯科予防処置 (2) 歯科診療の補助 (3) 歯科保健指導 歯科衛生士の役割 職業としての専門職とは 安全管理 リスクマネジメント	1. 歯科衛生士の社会的責任について説明できる。 2. 歯科衛生士法の要点を説明できる。 3. 「歯科医師の指導の下に」の意味が説明できる。 4. 独占業務(第2条)について説明できる。 5. 歯科予防処置としての歯石除去と歯科診療補助業務としての歯石除去の違いが説明できる。 6. 歯科診療「補助」と「介助」の違いが説明できる。 7. 絶対的歯科医行為と相対的歯科医行為が説明できる。 8. 名称独占(第13条)について説明できる。 9. 歯科衛生士に必要な安全管理の考えを説明できる。 10. 自身の自己管理能力の必要性を説明できる。	教科書の講義に関連する章を読んでおいてください。	
3	歯科衛生士法の復習	1. 前回学んだ歯科衛生士法の重要な事項を再確認することができる。 2. 歯科衛生士の教育、発展について年次を追って簡単に説明できる。	教科書の講義に関連する章を読んでおいてください。	
4	7章 歯科衛生士の活動と組織 (1) 歯科衛生士の動向 (2) 歯科衛生活動の場 歯科医療保健に携わる人(マンパワー)と多職種連携 (3) 歯科衛生士と組織 8章 海外における歯科衛生士 これからの歯科衛生士	1. 歯科衛生士の活動の領域と就業の推移を説明できる。 2. 保健・医療・福祉に関わる歯科衛生士の業務の概要を説明できる。 3. 行政に関わる国民健康増進のための施策を列記し、簡単に説明することができる。 4. 歯科医療に関わる他職種を列記できる。 5. 多職種の名称と法的業務や役割を簡単に説明できる。 6. 歯科衛生士の能力向上のための組織や各種認定制度を知る。 7. 諸外国の歯科衛生士の業務について知る。	教科書の講義に関連する章を読んでおいてください。	※6章 医療倫理にて履修
5	付4 歯科衛生士の倫理綱領	1. 歯科衛生士と倫理について説明できる。 2. 専門職としての倫理 3. 歯科衛生士の倫理綱領(日本歯科衛生士会)	教科書の講義に関連する章を読んでおいてください。	



回	授業計画	到達目標	準備学習	準備物
6	4章 歯科衛生過程（教本①P32～41） 歯科衛生過程の概要 歯科衛生過程の必要性とは 3章 歯科衛生活動のための理論 （教本①P20～31） 資料 1. 歯科衛生過程の概要1要綱 2. スライド ※スライドと教本に沿って要綱にポイントを記入	1. 歯科衛生過程を活用する意義を説明することができる。 2. 歯科衛生過程の概要を説明できる。 3. 歯科衛生過程のプロセスと構成要素を列挙できる。 4. クリティカルシンキングについて説明できる。 5. ヒューマンニース理論について説明できる。 6. DarbyとWalshのヒューマンニース概念モデルについて説明できる。	教本の講義に関連する章を読んでおいてください。	Moodle活用状況に応じて、各自PCを持参し、資料を閲覧しながら聴講してください。
7	4章 歯科衛生過程（教本①） 歯科衛生過程の概要2 歯科衛生過程の構成 資料 1. 歯科衛生過程の概要2要綱 2. スライド ※スライドと教本に沿って要綱にポイントを記入	1. 歯科衛生アセスメントおよび歯科衛生診断の概要を説明できる。 2. 歯科衛生計画立案の概要を説明できる。 3. 歯科衛生介入の概要を説明できる。 4. 歯科衛生評価の概要を説明できる。	教本の講義に関連する章を読んでおいてください。	Moodle活用状況に応じて、各自PCを持参し、資料を閲覧しながら聴講してください。
8	4章 歯科衛生過程（教本①） 書面化の意義とは POS理論の概要 資料 1. 歯科衛生過程の概要2要綱 2. スライド ※スライドと教本に沿って要綱にポイントを記入	1. POS理論について概説できる。 2. SOAPについて概説できる。	主要三教科で今までに学んだ項目について理解しておくことが必須であるため復習しておく。	
9	4章 歯科衛生過程（教本①②③） 書面化の導入問題提示、説明	1. SOデータの基本的な分類法を説明できる。 2. 練習問題のSデータを抽出することができる。 3. 練習問題のOデータを抽出することができる。 4. 模擬症例の情報を読み込むことができる。	配布した症例について基本的内容を調べてください。	
10	情報収集と分析方法1（教本①②③） POS理論とその応用 模擬症例を用いSOAPを実施 症例：佐藤詩音 資料1～3 症例を読み込み個人ワーク	1. 模擬症例のSOデータを読み込むことができる。 2. 模擬症例のSデータを抽出することができる。 3. 模擬症例のOデータを抽出することができる。 4. 模擬症例のSOデータよりアセスメント内容を記録することができる。 5. 模擬症例の歯科衛生介入計画を立案することができる。	配布した症例について基本的内容を調べてください。	
11	情報収集と分析方法1（教本①②③） POS理論とその応用 SOAP内容の再計画 症例：佐藤詩音 資料1～3	1. SOAPに対する指導事項に沿って、情報を見直すことができる。 2. SOAPを再検討し書面化することができる。 3. 自身の考えを発表する準備ができる。	配布した症例について基本的内容を調べてください。	
12	ヒューマンニース分類とクリティカルシンキング 症例発表①	1. 模擬症例の情報と問題点、その原因を自身の考えで発表することができる。 2. 他者の発表を聞き、改善点を検討することができる。 3. 他者の発表を聞き自己のアセスメント内容の振り返りができる。	教本の講義に関連する章を読んでおいてください。	
13	情報収集と分析方法2 POS理論とその応用 相互演習	1. 学生相互のSOデータを読み込むことができる。 2. 学生相互のSデータを抽出することができる。 3. 学生相互のOデータを抽出することができる。 4. 学生相互のSOデータよりアセスメント内容を記録することができる。 5. 学生相互の歯科衛生介入計画を立案することができる。	配布した症例について基本的内容を調べてください。	
14	情報収集と分析方法2（教本①②③） POS理論とその応用 相互演習にてSOAP分類	1. SOAPに対する指導事項に沿って、情報を見直すことができる。 2. SOAPを再検討し書面化することができる。 3. 自身の考えを発表する準備ができる。	配布した症例について基本的内容を調べてください。	
15	ヒューマンニース分類とクリティカルシンキング 症例発表②	1. 学生相互の情報をもとに、SOデータ、問題点、その原因を自身の考えで発表することができる。 2. 他者の発表を聞き、改善点を検討することができる。 3. 他者の発表を聞き自己のアセスメント内容の振り返りができる。 4. 歯科衛生評価までの流れを説明することができる。	試験対策として配布した資料等はすべて準備しておいてください。	



基本情報

学科目名	歯科衛生学Ⅱ	分野	専門分野〔歯科衛生士概論〕			講師名	野中友紀子		
履修学年・学期	2年 後期	授業方式	講義	単位数	1単位	30時間	授業回数	15	
教員の実務経験	歯科衛生士。全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士。同教育委員。本学院教務主任。								
授業との関連性	歯科衛生士としての臨床経験や全国歯科衛生士教育協議会認定歯科衛生士専任教員、また教育委員としての指導経験をとおり、歯科衛生活動を展開するための歯科衛生過程の講義と演習を行う。								

詳細情報

授業目標	歯科衛生士として、生涯を通じた口腔保健管理を行う専門職となるために、科学的根拠に基づいた知識や技術を実践するために、情報の収集・分析を行い、問題を解決していく能力を「歯科衛生過程」の考えを基に身につける。また、書面化の意義を理解し、歯科衛生活動の記録法を演習を交え修得する。									
成績評価方法	定期試験	85点	小テストレポート	10点	実技・発表ワーク(演習)など	5点	受講態度	点	合計	100点
	定期試験(夏期休暇中の課題レポート10点、グループワーク時に活動貢献度5点を加算対象とします)提出物(記録方法)・出席状況・・・減点対象とすることもある。									
教科書名	<b>(学則)</b> 合格点; 60点以上とし、不合格の学科目は1回限り再試験を受けることができる。 追試験; 学期試験を欠席した場合は1回限り追試験を受けることができる。 欠課; ①開始20分以降の遅刻 ②終了20分以前の早退 ③同一学科目で遅刻及び早退を4回した者 受験を認めない要件; 各学科目の授業時間数が3分の2に満たない者 <b>(減点対象)</b> 事由のなき提出物遅れ、未提出の際は減点対象とします。									
	①最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論」遠藤圭子著他 医歯薬出版KK ②最新歯科衛生士教本「保健生態学第3版」可児徳子著他 医歯薬出版KK ③「よくわかる歯科衛生過程」遠藤圭子著他 医歯薬出版KK									
参考文献	医歯薬出版KK「口腔保健管理」「歯科衛生ケアプロセス実践ガイド」 日総研出版「ベストティーチャーが教える!看護過程目からウロコの教え方&学び方」 歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」遠藤圭子著他 医歯薬出版KK 歯科衛生学シリーズ「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学」 可児徳子著他 医歯薬出版KK									
使用設備・備品・準備物	PC, プロジェクター									
履修上の注意	1. 持参する教本などは、その都度指示をします。 2. 継続的指導管理を行うために、歯科予防処置法、保健指導法、歯科診療補助法、など今までに学んだ項目について理解しておくことが必須であるため復習しておく。 3. ライフステージ別のレポート課題 〆切9/21 4. 演習の前は、必ず各自で調べ提出する。(提出後に演習とする) 5. グループワークでは積極的に発言し協調を保つこと。 6. 学科目「地域歯科保健活動Ⅱ」と連携しながら進めます。時間割の確認を徹底してください。 7. スライド資料はMoodle上に資料をアップします。必要に応じPCにダウンロードし活用してください。また講義中に閲覧する際はスマホでの閲覧は不可とします。									
回	授業計画			到達目標			準備学習			
1	1章 歯科衛生過程の基礎 (教本②) 1年次流れ復習(スライド等)			1. 歯科衛生過程の概要を説明できる。 2. 歯科衛生アセスメントについて説明できる。 3. 歯科衛生診断について説明できる。			教科書 ①P100~120を読んでおく。 必要資料のダウンロード			
2	1章 歯科衛生過程の基礎(教本②) 歯科衛生過程の各構成要素			1. 歯科衛生計画立案について説明できる。 2. 歯科衛生介入について説明できる。 3. 歯科衛生評価について説明できる。 4. 歯科衛生過程における書面化の意義について説明できる。			前回配布資料の穴埋めをしておくこと。			
3	ライフステージ別の口腔保健管理1 (妊産婦・乳幼児期・学齢期) 教本③ 配布資料 レポート課題済			1. ライフステージ別の関連法規を説明できる。 2. ライフステージ別の口腔内の特徴を説明できる。 3. ライフステージ別の生活習慣・健康状態に応じた口腔保健管理の受け方のアドバイスができる。 4. 学校歯科保健法に基づく健診内容を説明できる。 5. COの定義を説明できる。 6. GOの定義を説明できる。			教科書①310~344を読んでおく。 教科書②Ⅲ編2章母子保健、3章学校保健を復習しておくこと			
4	ライフステージ別の口腔保健管理2 (思春期・成人期・老年期・特別に配慮が必要な方) 教本③ 配布資料 レポート課題済			1. ライフステージ別の関連法規を説明できる。 2. ライフステージ別の口腔内の特徴を説明できる。 3. ライフステージ別の生活習慣・健康状態に応じた口腔保健管理の受け方のアドバイスができる。 4. 歯周炎の原因菌を説明できる。 5. フレイル予防について説明できる。 6. 専門的口腔健康管理法について説明できる。			教科書①345~386を読んでおく。 教科書②Ⅲ編4章成人保健、6章高齢者保健を復習しておくこと			

回	授業計画	到達目標	準備学習
5	POS理論とその応用 歯科衛生過程を応用した学生相互演習① (口腔内精密検査表・カリオグラム・スタディモデル・口腔内写真)	1. 対象者の口腔保健管理を行うために役立つ情報を収集することができる。 2. 収集した情報を分析し、問題点を抽出できる。 3. POS理論の説明ができる。	相互演習で使用する資料をファイルにまとめておくこと。
6	POS理論とその応用 歯科衛生過程を応用した学生相互演習② 強み・データ不足→提出	1. 対象者の主観的情報と※客観的情報から問題点を抽出できる。 ※すでに履修済資料から読み取り(精密検査表、模型、臼歯部標準型、PCR結果、カリエスリスク検査表) 2. 指導計画を立て、目標設定ができる。	
7	POS理論とその応用 歯科衛生過程を応用した学生相互演習③ (発表・追加訂正指導後)	1. 歯科衛生計画を歯科衛生士業務記録に、SOAP形式で記録することができる。(SOAP記入練習) 口腔内観察・ミラー、エキスポローラー、ピンセットを紙バックにて滅菌、染め出しセット・対象者資料一式準備 服装: 制服+エプロン	
8	2章 歯科衛生過程の進めかた(教本①②) 吉田あきこ①症例検討 歯科衛生アセスメント(SO分類～解釈分析) 個人ワーク	1. 対象者の情報を収集し、自身の考えで主観的情報と客観的情報に分類することができる。 2. 問題点とその原因に分類することができる。 3. ヒューマンニーズ概念に基づき分類することができる。 (※1～3事前学習含む)	教科書③ 症例の確認
9	2章 歯科衛生過程の進めかた(教本①②) 吉田あきこ②症例検討 歯科衛生アセスメント(SO分類～解釈分析) グループワーク	1. 収集した情報をもとに、自身の考えで主観的情報と客観的情報に分類し、他者へ説明することができる。 2. 問題点とその原因を分類することができる。 3. ヒューマンニーズ概念に基づき分類することができる。 4. 発表に備え、配布資料を作成することができる。	
10	2章 歯科衛生過程の進めかた(教本①②) 吉田あきこ③発表 歯科衛生アセスメント(SO分類～解釈分析)	1. 対象者の情報と問題点をヒューマンニーズ概念に基づき分類し、発表できる。 2. グループの発表を聴き、クリティカル思考で疑問点などを指摘できる。 3. 他者の意見を聞き、自己の評価ができる。	
11	2章 歯科衛生過程の進めかた(教本①②) 吉田あきこ④症例検討 歯科衛生診断～歯科衛生計画立案 個人ワーク	1. 統合した情報から歯科衛生診断ができる。 2. 歯科衛生診断を「原因句」と「診断句」で表すことができる。 3. 問題点より、優先順位を根拠に基づき決定できる。 4. 問題解決に向けて「長期目標」を設定できる。 5. 対象者の情報より問題解決に向けて、「短期目標」を設定することができる。 6. 歯科衛生介入(CP、EP、OP)を検討することができる。	
12	2章 歯科衛生過程の進めかた(教本①②) 吉田あきこ⑤症例検討 歯科衛生診断～歯科衛生計画立案 グループワーク	1. 統合した情報から歯科衛生診断ができる。 2. 歯科衛生診断を「原因句」と「診断句」で表すことができる。 3. 問題点より、優先順位を根拠に基づき決定できる。 4. 問題解決に向けて「長期目標」を設定できる。 5. 対象者の情報より問題解決に向けて、「短期目標」を設定することができる。 6. 歯科衛生介入(CP、EP、OP)を検討することができる。 7. 発表に備え、配布資料を作成することができる。	
13	2章 歯科衛生過程の進めかた(教本①②) 吉田あきこ⑥症例検討 歯科衛生診断～歯科衛生計画立案 発表	1. 統合した情報から歯科衛生診断ができる。 2. 歯科衛生診断を「原因句」と「診断句」で表すことができる。 3. 問題点より、優先順位を根拠に基づき決定できる。 4. 問題解決に向けて「長期目標」を設定できる。 5. 対象者の情報より問題解決に向けて、「短期目標」を設定することができる。 6. 歯科衛生介入(CP、EP、OP)を検討することができる。 7. 発表に備え、配布資料を作成することができる。	
14	歯科衛生過程の実践 老年期の歯周基本治療 症例配布(津田おと) 歯科衛生アセスメント～歯科衛生計画立案 (長期目標・短期目標達成) 個人ワーク	1. 歯科衛生過程の基礎をもとに、臨床での応用例を説明することができる。 2. 歯科衛生過程の実践におけるアセスメントの重要性を説明することができる。 3. 臨床における歯科衛生アセスメントの概要を説明できる。 4. 模擬症例の歯科衛生アセスメント内容を書面化することができる。 5. 模擬症例の歯科衛生診断文を作成することができる。 6. 模擬症例の歯科衛生診断文にそった長期目標と短期目標の立案ができる。	
15	歯科衛生過程の実践 老年期の歯周基本治療 症例配布(津田おと) 歯科衛生アセスメント～歯科衛生計画立案 (長期目標・短期目標達成) 発表 模範例解説 まとめ	1. 歯科衛生アセスメント内容をクリティカルシンキングし見直すことができる。 2. 歯科衛生診断文をクリティカルシンキングし見直すことができる。 3. 長期目標、短期目標をクリティカルシンキングし見直すことができる。 4. 自身の考えを積極的に発言することができる。 5. 他者の意見を傾聴することができる。 6. 歯科衛生過程の実践に必要な思考過程を説明することができる。	

基本情報

学科目名	歯科衛生学Ⅲ	分野	専門分野 [歯科衛生士概論]			講師名	野中友紀子	
履修学年・学期	3年 前期	授業方式	講義・演習・オンライン	単位数	1単位	30時間	授業回数	15
教員の 実務経験	歯科衛生士。全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士。同教育委員。本学院教務主任。							
授業との 関連性	歯科衛生士としての臨床経験や全国歯科衛生士教育協議会認定歯科衛生士専任教員、また教育委員としての指導経験をとおして、歯科衛生活動を展開するための歯科衛生過程の講義と演習を行う。							

詳細情報

授業目標	歯科衛生士として、生涯を通じた口腔保健管理を行う専門職となるために、科学的根拠に基づいた知識や技術を実践するために、情報の収集・分析を行い、問題を解決していく能力を「歯科衛生過程」の考えを基に身につける。また、書面化の意義を理解し、歯科衛生活動の記録法を演習を交え修得する。									
成績評価 方法	定期試験	80点	小テスト レポート	15点	実技・発表 ワーク(演習) など	点	受講態度	5点	合計	100点
	定期試験(80点満点)・提出物(記録方法)・歯科衛生アセスメント内容のルーブリック評価(約15点加点) ・歯科衛生過程一斉ワーク活動内容を加点(5点) ・提出期限遅れは減点対象となります。									
教科書名	(学則) 合格点：60点以上とし、不合格の学科目は1回限り再試験を受けることができる。 追試験：学期試験を欠席した場合は1回限り追試験を受けることができる。 欠課：①開始20分以降の遅刻 ②終了20分以前の早退 ③同一学科目で遅刻及び早退を4回した者 受験を認めない要件：各学科目の授業時間数が3分の2に満たない者 (減点対象) 事由のなき提出物遅れ、未提出の際は減点対象とします。									
	①歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」遠藤圭子著他 医歯薬出版KK ②「よくわかる歯科衛生過程」遠藤圭子著他 医歯薬出版KK ③歯科衛生学シリーズ「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学」可児徳子著他 医歯薬出版KK									
参考文献	医歯薬出版KK「口腔保健管理」「歯科衛生ケアプロセス実践ガイド」 日総研出版「ベストティーチャーが教える！看護過程目からウロコの教え方&学び方」									
使用設備・備 品・準備物	各自PC、USBデータ									
履修上の 注意	1. 持参する教本などは、その都度指示をします。 2. 継続的指導管理を行うために、主要三教科で今までに学んだ項目について理解しておくことが必須であるため復習しておく。 3. 演習の前は、必ず各自で論理的に思考し提出する。(提出後に演習とする) 4. グループワークでは積極的に発言し協調を保つこと。 5. 感染予防に努めながらグループワークへ参加すること。 6. 学科目「保健指導法」「歯科診療補助法」と連携しながら進めます。時間割の確認を徹底してください。 7. グループワークをオンラインで実施することもあります。指定時間に出席の確認ができなければ欠席とみなします。									
回	授業計画				到達目標			準備学習		
1	保護者対面実習1 歯科衛生アセスメントから歯科衛生診断 ～クリティカル思考にて検討				1. 個人の歯科衛生アセスメントから歯科衛生診断までをクリティカル思考をもって見直し、自身の意見を述べる ことができる。 2. 診断句にもとづいた長期目標を立案することができる。 3. 班員と協調しながら歯科衛生アセスメントおよび目標の立案ができる。					
2	保護者対面実習2 歯科衛生アセスメントから歯科衛生診断の完成 ～クリティカル思考にて検討				1. 歯科衛生アセスメントから歯科衛生診断までをクリティカル思考をもって見直し、自身の意見を述べる ことができる。 2. 診断句にもとづいた長期目標を立案することができる。 3. 班員と協調しながら歯科衛生アセスメントおよび目標の立案ができる。					
3	保護者対面実習3 歯科衛生計画立案(長期目標・短期目標の設定) ～クリティカル思考にて検討				1. 歯科衛生アセスメントから歯科衛生診断までをクリティカル思考をもって見直し、自身の意見を述べる ことができる。 2. 診断句にもとづいた長期目標を立案することができる。 3. 原因句にもとづいた短期目標を立案することができる。 4. 班員と協調しながら目標の立案ができる。					
4	保護者対面実習4 歯科衛生計画立案(ケア計画・教育計画・観察計画) ～クリティカル思考にて検討 歯科衛生士業務の理解				1. 原因句にもとづいた短期目標を立案することができる。 2. 短期目標の達成期日の設定ができる。 3. 短期目標ごとに歯科衛生計画立案(C-P、E-P、O-P)ができる。 4. 班員と協調しながら歯科衛生計画立案ができる。					

回	授業計画	到達目標	準備学習
5	保護者対面実習5 歯科衛生計画立案（ケア計画・教育計画・観察計画） ～クリティカル思考にて検討 歯科衛生士の復習 歯科衛生士業務の理解	1. 短期目標ごとに歯科衛生計画立案（C-P、E-P、O-P）ができる。 2. 歯科衛生計画内容は歯科衛生士の専門性を示す内容で立案することができる。 3. 班員と協調しながら歯科衛生計画立案ができる。	
6	保護者対面実習6 歯科衛生計画立案（ケア計画・教育計画・観察計画）の完成 ～クリティカル思考にて検討 歯科衛生士の復習 歯科衛生士業務の理解	1. 短期目標ごとに歯科衛生計画立案（C-P、E-P、O-P）ができる。 2. 歯科衛生計画内容は歯科衛生士の専門性を示す内容で立案することができる。 3. 歯科衛生計画立案を完成することができる。 4. 歯科衛生計画立案内容を全体のケースとの関連を考え、見直すことができる。 5. 班員と協調しながら歯科衛生計画立案ができる。	
7	保護者対面実習7 ・保護者対面実習オリエンテーション 歯科衛生計画立案（ケア計画・教育計画・観察計画）の見直し ・流れ一覧の提出 ～クリティカル思考にて再検討 歯科衛生介入の流れ確認 説明用媒体の作成	1. 歯科衛生計画立案内容に基づいた必要器材を準備することができる。 2. 歯科衛生教育内容に応じた媒体を作成し準備することができる。 3. 歯科衛生介入の流れ一覧を完成し提出することができる。 4. ロールプレイの前準備が適切にできる。	
8	保護者対面実習8 ・保護者対面実習ロールプレイ	1. 立案した歯科衛生計画にそって実践することができる。 2. 各自の役割を理解し、適切な行動ができる。 3. 班員で事前打ち合わせ綿密に臨むことができる。 4. ロールプレイ内容を反映し、歯科衛生計画立案を再考することができる。	各班実習の準備は責任を持ち実施すること。準備、片付けは班長が責任を持ち役割分担をすること。
9	保護者対面実習9 歯科衛生介入の再考	1. 保護者対面実習オリエンテーション後に、短期目標ごとに歯科衛生計画立案（C-P、E-P、O-P）を見直すことができる。 2. 歯科衛生介入の流れを見直すことができる。 3. 歯科衛生介入の手技を確認することができる。 4. 対象者へ必要な説明用媒体を作成することができる。 5. 班員と役割分担しながら検討することができる。	
10	保護者対面実習10 歯科衛生評価・歯科衛生計画再検討	1. 保護者対面実習後に、短期目標ごとに歯科衛生計画立案（C-P、E-P、O-P）を見直すことができる。 2. 歯科衛生介入の流れを見直すことができる。 3. 歯科衛生介入の手技を確認することができる。 4. 臨床での実践に向けて課題を明確にすることができる。	
11	保護者対面実習11 歯科衛生評価・歯科衛生計画再検討 症例発表準備	1. 歯科衛生介入後の評価を実施することができる。 2. 歯科衛生計画内容を再検討することができる。 3. 対象者の満足度を評価することができる。 4. 目標達成度を評価することができる。 5. 実施した内容を歯科衛生士の視点で総合評価することができる。	
12	保護者対面実習12 歯科衛生評価・歯科衛生計画再検討 症例発表準備	1. 歯科衛生介入後の評価を実施することができる。 2. 歯科衛生計画内容を再検討することができる。 3. 対象者の満足度を評価することができる。 4. 目標達成度を評価することができる。 5. 実施した内容を歯科衛生士の視点で総合評価することができる。	
13	保護者対面実習13 歯科衛生評価・歯科衛生計画再検討 症例発表準備	1. アセスメントおよび介入した計画から評価、再計画までを班の皆と協力しわかり易い発表シナリオを作成することができる。	
14	保護者対面実習14 歯科衛生評価・歯科衛生計画再検討 症例発表準備 症例発表	1. アセスメントおよび介入した計画から評価、再計画までを班の皆と協力しわかり易い発表シナリオを作成することができる。	
15	保護者対面実習15 症例発表 歯科衛生アセスメントから歯科衛生評価までの概要説明 演習時の活動貢献度の相互評価を実施	1. アセスメントおよび介入した計画から評価、再計画までを班の皆と協力しわかり易い発表シナリオを作成することができる。 2. アセスメントおよび介入した計画から評価、再計画までを班の皆と協力しわかり易く発表することができる。 3. 発表した内容に対する質問や指摘について省察し仮定を立てることができる。 4. 班員の演習時の活動貢献度について相互評価を行うことができる。 5. 自身の演習への貢献度を振返ることができる。	



基本情報

学科目名	医療倫理	分野	専門分野〔歯科衛生士概論〕 歯科衛生学					
履修学年・学期	1年 前期	授業方式	講義	単位数	1単位	15時間	授業回数	8

講師名	伊藤 明彦	教員の 実務経験	(一社)熊本県歯科医師会会長。歯科医師。歯科診療所院長。					
授業との 関連性	歯科医師会会長の重責を担う立場から医療人としての倫理観について講義する。							
講師名	東 克章	教員の 実務経験	本学院学院長。歯科医師。歯学博士。日本歯周病学会指導医、専門医。東京医科歯科大学第二保存学教室入局を経て歯科診療所院長。歯科医師。医学博士。歯科診療所副院長。					
授業との 関連性	本学院学院長の立場から重責を担う立場として医療人としての倫理観について講義する。							
講師名	秋山 清	教員の 実務経験	歯科医師。歯科診療所を開設。					
授業との 関連性	歯科医師としてこれまでの臨床歯科医療での経験を踏まえ、患者中心の医療や歯科衛生士として必要な倫理観について講義する。							

詳細情報

授業目標	1. 医療人としての使命を確認し、どのようにすればそれが果たせるか自分の気持ち、行動を確認、修得する。 2. 新しい医の倫理の原則を学ぶとともに、歯科衛生士に求められる医療人としての心構えやインフォームドコンセントに基づいた患者対応、医療現場で必要となるコミュニケーションやその基礎となる行動科学を学ぶ。									
成績評価 方法	定期試験	100点	小テスト レポート	点	実技・発表 ワーク(演習) など	点	受講態度	点	合計	100点
	(学則) 合格点；60点以上とし、不合格の学科目は1回限り再試験を受けることができる。 追試験；学期試験を欠席した場合は1回限り追試験を受けることができる。 欠課；①開始20分以降の遅刻 ②終了20分以前の早退 ③同一学科目で遅刻及び早退を4回した者 受験を認めない要件；各学科目の授業時間数が3分の2に満たない者									
教科書名	歯科衛生学シリーズ「歯科医療倫理学」 榎 則章著他 医歯薬出版KK									
参考文献	歯科医療倫理Q&A 大井賢一、木坂昌知 著 太陽出版 → 図書室蔵書									
使用設備・備 品・準備物	(伊藤明彦)(東 克章)プロジェクター (秋山 清) 毎回、ポイントをまとめたプリントを授業で渡します。計6回、6枚。									
履修上の 注意	1. 医療人としてだけでなく、人として自分の倫理観に照らし合わせながら、自分の中で消化し取り入れてゆく。 2. 素直で純粋な心で学ぶ。 3. 将来の様々な場面で他者との関係を踏まえて正しい行動をとれるように学ぶこと。 4. 利己的な考えから利他的な考えも学ぶ。 5. 居眠り、私語は慎むこと。 6. 素直な気持ちで聴く。									

必要な場合はご利用ください。

回	授業計画	到達目標	準備学習	準備物
1	(伊藤明彦) 一般的心構え 医療人としての心構え	1. 自分を見つめ直し、使命を果たす力を習得する。 2. 社会貢献について考える。色々な患者さんの背景を考える力を習得する。 3. 患者と向かい合う姿勢(心と態度)を習得する。 4. 守秘義務と世の中とのかかわり方を習得する。		プロジェクター
2	(東 克章) 歯科衛生士としての倫理観	1. 患者に対していたわりをもって接することができる。 2. プライバシーの厳守ができる。 3. 医療人としての身だしなみができる。 4. 自己の健康管理ができる。		プロジェクター
3	(秋山 清) なぜ医療倫理を学ぶのか ○伝統的な医の倫理から新しい医の倫理(医療倫理)へ ○患者中心の医療	時代とともに変化してきた医の倫理について学び、歯科衛生士として必要な倫理観を身につけ、医療倫理、患者中心の医療とは何かを理解する。	患者さんの心の中はどうか考えてみる。	
4	(秋山 清) 医療倫理に関する規範とバイオエシックス(生命倫理学) 研究と医療倫理	医療従事者の職業倫理に関する規範、患者の権利、人を対象とする医学研究の倫理、生命倫理学、生と死に関する倫理、医療技術の発達に伴う問題を理解する。	生と死について、自分はどう思っているのか考えてみる。	

回	授業計画	到達目標	準備学習	準備物
5	(秋山 清) インフォームド・コンセント	インフォームドコンセント・インフォームドチョイスなどについて説明できる。これらの倫理的意義、倫理的要求について述べることができる。 セカンドオピニオンについて説明できる。	インフォームド・コンセントの定義を読み、理解しておく。	
6	(秋山 清) QOL、クオリティ・オブ・ライフ (生活の質)	歯科医療に於けるQOLの向上について説明ができ、歯科衛生士としてQOLにどのようにかわるかを理解する。	QOLとは何か理解しておく。	
7	(秋山 清) 行動科学	生活行動に於ける中で保健行動とは何か。また患者をどのように理解するかを学ぶ。	生活行動と保健行動の意味を理解しておく。	
8	(秋山 清) コミュニケーション 総まとめ(試験対策)	歯科衛生士として個々の患者及び他職種とのチームアプローチについてコミュニケーションをどのようにとるかを説明できる。	同級生とまずコミュニケーションをとる。	



基本情報

学科名	歯科臨床総論	分野	専門分野 [臨床歯科医学]			講師名	井上 裕邦	
履修学年・学期	1年 前期	授業方式	講義	単位数	1単位	15時間	授業回数	8
教員の 実務経験	歯科医師。歯科診療所院長。熊本県歯科医師会理事。熊本歯科衛生士専門学校教務委員							
授業との 関連性	歯科医師としてこれまでの臨床歯科医療の経験を通して、歯科臨床総論の一連の流れについて講義する。							

詳細情報

授業目標	歯科診療所での日常、各ライフステージに関わる歯科臨床と歯科衛生士の関係など、歯科医療を担う一員となるための理解を深めることができるように、歯科衛生士の役割を自覚してもらう。									
成績評価 方法	定期試験	100点	小テスト レポート	0点	実技・発表 ワーク(演習) など	0点	受講態度	マイナス ポイント 点	合計	100点
	受講態度が悪い場合は減点します。									
<b>(学則)</b> 合格点；60点以上とし、不合格の学科目は1回限り <b>再試験</b> を受けることができる。 追試験；学期試験を欠席した場合は1回限り <b>追試験</b> を受けることができる。 欠課；①開始20分以降の遅刻 ②終了20分以前の早退 ③同一学科目で遅刻及び早退を4回した者 <b>受験を認めない要件</b> ；各科目の授業時間数が3分の2に満たない者										
教科書名	「歯科衛生士のための歯科臨床概論 第2版」 石川達也著 医歯薬出版KK 「イラストで楽しく学ぶ デンタルオフィス入門」 対馬ゆか 他著 医歯薬出版KK									
参考文献	「歯科衛生士臨床のすべて(ハ・ツツカ・ト)」 Antonella Tani Botticelli著 エルバ社									
使用設備・備 品・準備物	プロジェクター									
履修上の 注意	教科書、プリント、パワーポイントを用いて講義します。 各講義で2人ずつプレゼンをしてもらいます。また、小テストとして国家試験過去問題を行います。									
回	授業計画			到達目標			準備学習			
1	オリエンテーション			職業倫理観・医療倫理観を述べるができる。			「イラストで楽しく学ぶ デンタルオフィス入門」の確認			
2	(壽永先生) 歯科診療と歯科診療所における業務			歯科診療と歯科診療所における業務の概要を理解する。			予習(教科書P.1~10,P.14~24)			
3	歯科診療所における安全管理			歯科における安全管理を理解する。			予習(教科書P.11~13)			
4	(壽永先生) 診査、検査、小児歯科・矯正			診査、検査、小児歯科・矯正の概要を理解する。			予習(教科書P.27~47)			
5	口腔外科・歯科保存			ライフステージと歯科治療(全身との関係)を理解する。			予習(教科書P.48~67)			
6	歯周治療・歯科補綴			歯周治療・歯科補綴物の概要を理解する。			予習(教科書P.68~85)			
7	障害者歯科・高齢者歯科・訪問歯科診療			障害者歯科・高齢者歯科・訪問歯科診療の概要を理解する。			予習(教科書P.86~99)			
8	試験対策			教科書・国家試験過去問を用い、総括を行う。			予習(プリント、国家試験過去問)			

基本情報

学科目名	保存修復歯内療法学	分野	専門分野 [臨床歯科医学]						
履修学年・学期	2年 前期	授業方式	講義	単位数	1単位	15時間	授業回数	8	

講師名	金本 良久	教員の 実務経験	歯科医師。九州大学歯学部第一保存科を経て歯科診療所院長。						
授業との 関連性	大学保存科在籍と臨床歯科医師としての経験を踏まえ、直接修復、間接修復などの手順、基礎知識、歯科衛生士の役割について講義する。								
講師名	船津 雅彦	教員の 実務経験	歯科医師。歯科診療所院長。熊本県歯科医師会理事。						
授業との 関連性	臨床歯科医師としての経験を踏まえ、歯内療法の基礎知識と歯科衛生士の役割について講義する。								

詳細情報

授業目標	<金本良久先生> 1. 教科書を基に日常歯科臨床と結びつけつつ、保存修復学の基礎について学ぶ。 <船津雅彦先生> 2. 前回の授業を復習して、次回の授業の予習をすること。									
成績評価 方法	定期試験	点	小テスト レポート	点	実技・発表 ワーク(演習) など	点	受講態度	点	合計	100点
	(学則) 合格点；60点以上とし、不合格の学科目は1回限り <b>再試験</b> を受けることができる。 追試験；学期試験を欠席した場合は1回限り <b>追試験</b> を受けることができる。 欠課；①開始20分以降の遅刻 ②終了20分以前の早退 ③同一学科目で遅刻及び早退を4回した者 <b>受験を認めない要件</b> ；各学科目の授業時間数が3分の2に満たない者									
教科書名	歯科衛生学シリーズ「保存修復学・歯内療法学」 千田 彰著他 医歯薬出版KK									
参考文献	授業中に配るプリント(船津先生)									
使用設備・備 品・準備物										
履修上の 注意	前回の授業を復習して、次回の授業の予習をすること。									
回	授業計画			到達目標			準備学習			
1	歯および歯周組織の検査 保存修復の概要			保存修復の臨床における基本的な考え方とそ の中身について理解を深める。			教科書を読んで予習 しておく。			
2	直接法修復			直接法修復の種類と利点欠点について理解す る。			教科書を読んで予習 しておく。			
3	間接法修復			間接法修復の種類と欠点について理解する。			教科書を読んで予習 しておく。			
4	歯の漂白 補修修復 保存修復における歯科衛生士の役割			歯科衛生士としての役割を勉強することで、 これから(将来)自分の臨床に向き合う姿勢 (目標)について考えてみる。			教科書を読んで予習 しておく。			
5	歯内療法とは 麻酔抜髄と感染根管治療の違いについて 術式について 覆髄法について 診断法について			歯内療法の目的と診断及び処置方法を理解す る。 麻酔抜髄と感染根管治療の違いについて理解 する。 術式について理解する。 覆髄法について理解する。 診断法について理解する。						
6	アペキシゲネーシス、アペキシフィケーショ ンの違いについて 歯内療法治療時の事故について 外科的歯内療法について			アペキシゲネーシス、アペキシフィケーショ ンの違いについて理解する。 歯内療法治療時の事故について理解する。 外科的歯内療法について理解する。			前回の授業を復習し て、次回の授業の予 習をすること。			
7	前回の授業を復習して、わからないところを 解説			授業でわからないところを質問し、自分のわ からないところ、誤解していたところを理解 する。			前回の授業を復習し て、次回の授業の予 習をすること。			
8	前回の授業を復習して、わからないところを 解説			授業でわからないところを質問し、自分のわ からないところ、誤解していたところを理解 する。			前回の授業を復習し て、次回の授業の予 習をすること。			

**基本情報**

学科名	歯周療法学	分野	専門分野 [臨床歯科医学]			講師名	東 克章		
履修学年・学期	2年 前期	授業方式	講義	単位数	2単位	30時間	授業回数	15	
教員の 実務経験	本学院学院長。歯科医師。歯学博士。日本歯周病学会指導医、専門医。東京医科歯科大学第二保存学教室入局を経て歯科診療所副院長から院長となる。								
授業との 関連性	本学院学院長の立場から重責を担う立場として医療人としての倫理観について講義する。								

**詳細情報**

授業目標	1. 歯周病とはどのような病気を健康な歯周組織と比較することによって理解する。 また、それらの知識を活用して患者さんの指導法を学ぶ。 2. 組織病理、発生等の基礎知識を通して歯周病の原因、治療メンテナンスについて理解する。 3. 歯周治療のゴールを知る。									
成績評価 方法	定期試験	100点	小テスト レポート	点	実技・発表 ワーク(演 習)など	点	受講態度	点	合計	100点
	受験資格・単位認定は学則・細則に準じます。									
教科書名	歯科衛生学シリーズ 歯周病学 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版									
参考文献	「プロフェッショナルマニュアル 歯科衛生士臨床のすべて ベーシックパート」 「プロフェッショナルマニュアル 歯科衛生士臨床のすべて クリニカルパート」 Antonella Tani Botticelli 著 エルバ 歯科衛生士のための最新歯周病学 加藤澁編著 医歯薬出版									
使用設備・ 備品・準備 物	各自のプローブ、手用スクレーラー									
履修上の 注意	1. 講義に集中すること 2. 講義内容はノートをとること 3. できるだけ予習、復習をしておくこと									
回	授業計画				到達目標			準備学習		準備物
1	I 編 歯周治療の基礎知識 1章 歯科治療とは				歯周病になると具体的にはどうなるのか、歯周治療で現在はどこまで歯を残すことができるかを知る。					
2	I 編 2章 正常な歯周組織の構造と機能 (1)				歯周組織の構造がどのようになっているかをイメージすることができる。					
3	I 編 2章 正常な歯周組織の構造と機能 (2)				歯周組織の構造と名称を自分自身で図示することができるようになる。					
4	I 編 3章 歯周病の分類と原因				歯肉炎と歯周炎の違い 原因は何か 歯周医学について理解する。					
5	I 編 まとめ 小テスト				3章までの理解度を自ら把握し、更に理解を深める。					
6	II 編 歯周治療の実際 1章 歯周治療の進め方				歯周治療の基本的な進め方を理解し、その流れを説明できる。			教科書のブラッシングの部分を読んでおく。		
7	II 編 2章 歯周病の検査				歯周組織検査のそれぞれの意味を理解し、健康からどれだけ破壊されているかを知る。			教科書の歯周組織検査の部分を読んでおく。		歯周プローブ、基本セット
8	II 編 3章 歯周基本治療				歯周基本治療の目的と手段について説明できる。			教科書のスクレーリング・ルートプレーニングの部分を読んでおく。		手用スクレーラー

回	授業計画	到達目標	準備学習	準備物
9	Ⅱ編 4章 歯周外科治療	歯周外科処置の目的、適応症、種類、使用する器材を理解する。	教科書の歯周外科の部分を読んでおく。	日本歯周病学会ホームページ内の歯周外科の動画
10	Ⅱ編 まとめ 小テスト	Ⅱ編の歯周外科治療までの全体の理解度をチェックする。		
11	Ⅱ編 5章 歯周治療としての口腔機能回復 6章 メンテナンス	歯周治療としてのリハビリテーションやメンテナンスの目的と方法について理解する。	教科書の口腔機能回復治療及びメンテナンスの部分を読んでおく。	
12	Ⅱ編 歯周治療における歯科衛生士の業務 1章 歯周治療における歯科衛生士の役割①～③	歯周治療における歯科衛生士の業務を理解し、その役割がいかに大きいかを自覚する。	教科書のブラッシングの部分を読んでおく。	大型歯列模型、大型指導用歯ブラシ
13	Ⅲ編 1章 ④スケーリング・ルートプレーニング ⑤歯周外科治療	スケーリング・ルートプレーニングと歯周外科についてその内容の理解を深める。	日本歯周病学会ホームページ内の歯周外科の動画を視聴しておく。	各自の手用スケーラー、歯列模型
14	Ⅲ編 1章 ⑥口腔機能回復治療 ⑦メンテナンス、SPT ⑧診療室と器具・器材の管理	リハビリテーションとメンテナンスについてその内容の理解を深める。質の高い診療室と器具器材の管理の仕方と重要性について理解する。	教科書の口腔機能回復治療及びメンテナンスの部分を読んでおく。	
15	Ⅲ編 まとめ 小テスト	Ⅲ編5章から8章までの理解度をチェックする。また、全編にわたっても再チェックを行う。		

基本情報

学科目名	歯科補綴学	分野	基礎分野 [臨床歯科医学]						
履修学年・学期	2年 前期	授業方式	講義・技工作見学	単位数	2単位	30時間	授業回数	15	

講師名	長 忍	教員の 実務経験	歯科医師。歯学博士。歯科診療所院長。熊本市歯科医師会役員。						
授業との 関連性	臨床歯科医師として、顎口腔機能の低下や失われた機能を回復し維持するための補綴処置や歯科衛生士の役割について講義する。								
講師名	(愛歯) 渡邊裕士	教員の 実務経験	歯科技工士。歯科技工所に在籍し教育マネージャーとして活躍。						
授業との 関連性	大手歯科技工所に勤務し自らも歯科技工士として補綴物製作にあたりながら後輩への指導を実践している視点から、顎口腔機能の低下や失われた機能を回復し維持するための補綴処置や歯科衛生士の役割について講義する。								

詳細情報

授業目標	<p>〈長 先生〉 顎口腔機能について理解するとともに、歯科補綴とは何かを理解し、歯科衛生士としての関わり合いを学習する。</p> <p>〈渡邊先生〉 補綴装置の分類・特徴を理解・整理することで、補綴治療の意義と目的への理解を深める。 補綴装置の仕組み・構造と使用材料を理解することで、補綴治療の実際の理解を深める。 補綴物の製作過程を学ぶことで、補綴治療の実際における歯科衛生士の役割を理解する。</p>									
成績評価 方法	定期試験	点	小テスト レポート	点	実技・発表 ワーク(演習) など	点	受講態度	点	合計	100点
教科書名	<p>(学則) 合格点：60点以上とし、不合格の学科目は1回限り再試験を受けることができる。 追試験：学期試験を欠席した場合は1回限り追試験を受けることができる。 欠課：①開始20分以降の遅刻 ②終了20分以前の早退 ③同一学科目で遅刻及び早退を4回した者 受験を認めない要件：各学科目の授業時間数が3分の2に満たない者</p>									
参考文献	<p>第3版 歯科補綴学専門用語集 (日本補綴学会編) 医歯薬出版</p>									
使用設備・備 品・準備物	<p>PC、プロジェクター、咬合模型(大きいサイズ)</p>									
履修上の 注意	<p>〈渡邊先生〉 小社(愛歯)見学プログラム進行とワークシート記入により、学習を深め、その評価を行いたい為 黄色のマーカーと赤・黒のボールペンをご持参願います。</p>									
回	授業計画				到達目標			準備学習		
1	補綴治療の意義と目的				①補綴の意義と目的を理解する。 ②歯科衛生士の役割について説明できる。					
2	補綴歯科治療の基礎知識				歯列の形態と位置的関係、顎口腔系の機能、咬合について説明できる。			小プリント①		
3	補綴歯科治療における検査				口腔内や顎機能の検査について説明できる。			小プリント②		
4	クラウン・ブリッジ治療①				クラウン・ブリッジ治療の特徴を概説でき、治療の流れを説明できる。			小プリント③		
5	クラウン・ブリッジ治療②				①クラウン・ブリッジ治療の患者への説明と指導が実施できる。 ②クラウン・ブリッジ治療に伴うトラブルとその対応が説明できる。			小プリント④		
6	全部床義歯治療①				①部分床義歯治療の特徴を概説できる。 ②部分床義歯治療の流れの説明や材料の準備ができる。			小プリント⑤		
7	全部床義歯治療②				①部分床義歯治療の患者への説明と指導を実施できる。 ②部分床義歯治療に伴うトラブルとその対応を説明できる。			小プリント⑥		

回	授業計画	到達目標	準備学習
8	部分床義歯治療①	①部分床義歯治療の特徴を概説できる。 ②部分床義歯治療の流れの説明や材料の準備ができる。	小プリント⑦
9	部分床義歯治療②	①部分床義歯治療の患者への説明と指導を実施できる。 ②部分床義歯治療に伴うトラブルとその対応を説明できる。	小プリント⑧
10	インプラント治療	①インプラント治療の特徴を概説できる。 ②インプラント治療の流れ等の説明や器材準備等が実施できる。	小プリント⑨
11	特殊口腔内装置を用いる治療と補綴歯科治療における器材の管理	①特殊な口腔内装置の特徴を概説できる。 ②補綴歯科治療の器材管理の概説と器材別の滅菌等を実施できる。	
12	(愛歯にて) 補綴物の製作過程	補綴物の仕組み・構造・使用材料について説明できる。	ムードル資料による予習
13	(愛歯にて) 部分床義歯、総義歯の製作過程	有床義歯による欠損補綴処置について説明できる。	ムードル資料による予習
14	(愛歯にて) 補綴物製作の見学1 (歯科技工の流れと、その使用材料・器材)	補綴物製作過程の実際と必要な材料・器材を理解する。	ムードル資料による予習
15	(愛歯にて) 補綴物製作の見学2 (歯科技工の流れ 従来法とCAD/CAM技工)	補綴物製作過程の実際において必要な加工プロセスの従来技法とデジタル技法を理解する。	ムードル資料による予習



基本情報

学科名	歯科矯正学	分野	専門分野 [臨床歯科医学]			講師名	上村 裕希		
履修学年・学期	2年 前後期	授業方式	講義	単位数	2単位	30時間	授業回数	15	
教員の 実務経験	歯科医師。鹿児島大学大学院歯科矯正学分野にて13年勤務。その後、矯正専門クリニックを開設。								
授業との 関連性	歯科矯正治療を専門にクリニックを開業し、日本矯正歯科学会認定医として日々診療を行っている経験と大学で学んだ知識を基に、歯科矯正治療の目的、治療方法、歯科衛生士の役割、口腔保健管理について講義を行う。								

詳細情報

授業目標	歯科矯正学における基本的な事項を説明し、理解させることによって、歯科矯正臨床における歯科衛生士の役割について学び、将来、歯科矯正治療を行うチームの一員として活躍できるようにする。									
成績評価 方法	定期試験	100点	小テスト レポート	点	実技・発表 ワーク(演習) など	点	受講態度	点	合計	100点
	受験資格・単位認定は学則・細則に準じます。									
教科書名	歯科衛生学シリーズ「歯科矯正学 第2版」 水室利彦著 医歯薬出版KK									
参考文献										
使用設備・備 品・準備物										
履修上の 注意										
回	授業計画				到達目標			準備学習		
1	矯正歯科治療の概要について				①歯科矯正学の定義について説明できる。 ②矯正歯科治療の目的を説明できる。 ③歯科矯正治療のベネフィットとリスクについて説明できる。			該当項目を読んでおく。		
2	成長発育について				①成長発育の4つの型の名称とその特徴を説明できる。 ②上顎・下顎の成長発育について説明できる。 ③骨の成長の3つの様式を説明できる。			該当項目を読んでおく。		
3	正常咬合と不正咬合について				①正常咬合を説明できる。 ②不正咬合を説明できる。 ③Angleの不正咬合分類を説明できる。			該当項目を読んでおく。		
4	歯科矯正診断について				①矯正歯科診断に必要な検査項目を列挙し、その意義を説明できる。 ②模型分析の方法とその意義を説明できる。 ③頭部エックス線規格写真分析の方法とその意義を説明できる。			該当項目を読んでおく。		
5	矯正歯科治療と矯正力・顎整形力について				①矯正力と移動する歯、固定の関係を説明できる。 ②歯が移動する際の歯周組織反応を説明できる。 ③器械的矯正力と機能的矯正力を説明し、利用する装置をあげることができる。			該当項目を読んでおく。		
6	矯正歯科治療と矯正力・保定について				①固定の3つの種類を説明できる。 ②保定の定義と主な装置を説明できる。 ③矯正歯科治療の再発の定義とその要因を説明できる。			該当項目を読んでおく。		
7	矯正装置について				①矯正装置の分類について説明できる。 ②矯正装置の種類とその構成を説明できる。 ③矯正装置装着時の指導ができるようになる。			該当項目を読んでおく。		
8	上下顎の前後関係の不調和について 上下顎の垂直的関係の不調和について				①I級Ⅱ級Ⅲ級の不正咬合を説明できる。 ②過蓋咬合を説明できる。 ③開咬を説明できる。			該当項目を読んでおく。		

回	授業計画	到達目標	準備学習
9	成人矯正について	①補助的矯正歯科治療と包括的矯正歯科治療の相違を説明できる。 ②成人患者の矯正歯科治療の注意点を説明できる。 ③歯周治療や補綴処置のための矯正歯科治療を説明できる。	該当項目を読んでおく。
10	口腔顎顔面の形成異常と変形、歯の埋伏と歯数の異常について 矯正歯科治療時のトラブルへの対応について 健康保険が適用される矯正について	①口唇・口蓋裂の咬合異常とその治療について説明できる。 ②不正咬合をもたらす主な症候群をあげることができる。 ③顎変形症の治療の流れを説明し、骨切り手術の必要性を説明できる。 ④埋伏歯、先天欠如歯、過剰歯について説明できる。	該当項目を読んでおく。
11	矯正歯科臨床における歯科衛生士の役割について 矯正歯科診断にかかわる業務	①矯正歯科診断に必要な資料について説明できる。 ②顔面写真、口腔内写真撮影の要点を説明できる。 ③模型製作のための印象採得の要点を説明できる。	該当項目を読んでおく。
12	矯正歯科臨床における歯科衛生士の役割について 矯正歯科診療時の業務、矯正歯科患者と口腔保健管理	①矯正歯科治療に用いる器具の用途について説明できる。 ②各種矯正装置装着時における補助について説明できる。 ③各種矯正装置装着時における注意点を説明できる。 ④ブラークコントロールに使う器具について説明できる。	該当項目を読んでおく。
13	口腔筋機能療法	①口腔筋機能療法の訓練について説明できる。 ②口腔周囲組織のアセスメントについて説明できる。 ③吸指癖の指導について説明できる。 ④口腔筋機能療法の効果について説明できる。	該当項目を読んでおく。
14	矯正治療全般についてのまとめ ①	13回までの講義において分かりにくかったところ、説明不足であった点について再確認。	全体で不明な点の再確認しておく
15	矯正治療全般についてのまとめ ②	全体で不明な点の再確認	

基本情報

学科名	口腔外科学	分野	専門分野 [臨床歯科医学]			講師名	篠原 光佑		
履修学年・学期	2年 前期	授業方式	講義	単位数	1単位	15時間	授業回数	8	
教員の 実務経験	歯科医師。熊本大学大学院生命科学研究部 歯科口腔外科学講座入局。								
授業との 関連性	歯科口腔外科医としての臨床経験を踏まえ、顎・口腔領域に発現する疾患や口腔外科診療における歯科衛生士の役割について講義する。								

詳細情報

授業目標	口腔外科の基礎知識及び臨床上必要となる関連知識の習得を目指す。									
成績評価 方法	定期試験	80点	小テスト レポート	0点	実技・発表 ワーク(演習) など	0点	受講態度	20点	合計	100点
	<p>(学則)                  合格点：60点以上とし、不合格の学科目は1回限り再試験を受けることができる。                  追試験：学期試験を欠席した場合は1回限り追試験を受けることができる。                  欠課：①開始20分以降の遅刻 ②終了20分以前の早退 ③同一学科目で遅刻及び早退を4回した者                  受験を認めない要件：各科目の授業時間数が3分の2に満たない者</p>									
教科書名	歯科衛生学シリーズ「口腔外科学・歯科麻酔学 第2版」 山根源之著他 医歯薬出版KK									
参考文献	歯科衛生士シリーズ「口腔外科学・歯科麻酔学」野村武史著也医師薬出版株式会社									
使用設備・備 品・準備物	PC、プロジェクター									
履修上の 注意	配布するプリントを参照しながら特に重要である点を中心に説明していきます。									
回	授業計画			到達目標			準備学習			
1	口腔外科の概要 顎・口腔領域の先天異常と発育異常			口腔外科の概要について説明できると 顎・口腔領域の先天異常と発育異常につ いて説明できる。			教科書第1,2章の予習			
2	顎・口腔領域の損傷及び機能障害			顎・口腔領域の損傷及び機能障害とその 治療について説明できる			教科書第3章の予習			
3	口腔外科疾患①			顎・口腔領域の粘膜疾患とその治療につ いて説明できる。			教科書第4章の予習			
4	口腔外科疾患②			顎・口腔領域の炎症性疾患及び嚢胞性疾 患とその治療について説明 できる。			教科書第5,6章の予習			
5	口腔外科疾患③			顎・口腔領域の腫瘍および腫瘍類似疾患 とその治療について説明でき る。			教科書第7,8章の予習			
6	口腔外科疾患④			顎・口腔領域の唾液腺疾患および神経疾 患とその治療について説明 できる。			教科書第8,9章の予習			
7	口腔外科診療の実際			口腔外科診療の実際の流れや患者管理に ついて説明できる。			教科書第10章の予習			
8	まとめ			学習確認、手術イメージビデオなど			授業前の確認テスト			

基本情報

学科名	小児歯科学	分野	専門分野 [臨床歯科学] 小児歯科疾患論			講師名	深水 篤		
履修学年・学期	2年 前期	授業方式	講義	単位数	2単位	30時間	授業回数	15	
教員の 実務経験	歯科医師。日本小児歯科学会専門医指導医。日本障害者歯科学会認定医。 鹿児島大学小児歯科7年間勤務。伊東歯科口腔病院小児・障がい者歯科部長。								
授業との 関連性	長年の小児歯科医としての経験を踏まえ、小児口腔疾患やう蝕予防、歯科衛生士の役割について講義する。								

詳細情報

授業目標	小児歯科医療は病気に対する治療や予防に限らず、健全な小児を育成するという目的を持っている。そのため保健学、予防歯科学の知識も重要となる。胎生期から成人にいたる間の小児の正常な口腔領域の発育を促し、これを阻害する口腔疾患について種類と治療を知ることによって、歯科衛生士が小児のライフステージに応じた対応方法、口腔衛生指導、う蝕予防、小児口腔疾患及び障害児の診療補助業務および疾患の予防を理解することを目標とする。また小児歯科診療における歯科衛生士の役割の大きさも理解することを目標とする。								
------	---	--	--	--	--	--	--	--	--

成績評価 方法	定期試験	100点	小テスト レポート	点	実技・発表 ワーク(演習) など	点	受講態度	点	合計	100点
	(学則) 合格点；60点以上とし、不合格の学科目は1回限り再試験を受けることができる。 追試験；学期試験を欠席した場合は1回限り追試験を受けることができる。 欠課；①開始20分以降の遅刻 ②終了20分以前の早退 ③同一学科目で遅刻及び早退を4回した者 受験を認めない要件；各学科目の授業時間数が3分の2に満たない者									

教科書名	歯科衛生学シリーズ「小児歯科学」大嶋 隆著他 医歯薬出版KK								
------	--------------------------------	--	--	--	--	--	--	--	--

参考文献	新小児歯科学 第3版 クインテッセンス出版株式会社 2009年								
------	---------------------------------	--	--	--	--	--	--	--	--

使用設備・備 品・準備物	PC, プロジェクター、ピンマイク								
-----------------	-------------------	--	--	--	--	--	--	--	--

履修上の 注意	教科書に沿った講義を臨床スライド、ビデオを用いて行う。しっかりと講義を聴き、ノートをとること。評価は期末試験で行うが、出席率・授業中の態度の悪い者は減点するので注意するように。								
------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

回	授業計画	到達目標	準備学習	準備物
1	小児歯科学概論 心身の発育 1	発育段階と口腔の変化を説明できる。 発育の概念と分類を説明できる。 年齢と身体発育の特徴を説明できる。	教科書P2~P10	
2	心身の発育 2 小児の生理的特徴	生理的年齢について説明できる。 器官の発育・精神機能の発達について説明できる。 バイタルサインと生理的特徴を説明できる。 薬剤処方と薬物療法を説明できる。	教科書P10~P22	配布資料あり
3	顔面頭蓋の発育 歯の発育とその異常 1	脳頭蓋と顔面頭蓋の発育変化を説明できる。 脳頭蓋の発育の特徴を説明できる。 顔面頭蓋の発育の特徴を説明できる。 乳歯・幼若永久歯の特徴を説明できる。	教科書P23~P35	
4	歯の発育とその異常2 歯列・咬合の発育と異常 1	歯の発育段階を説明できる。 歯の発育時期と形成異常を説明できる。 乳歯・永久歯の萌出時期と順序を説明できる。 歯の萌出異常を説明できる。 歯列・咬合の発育段階を説明できる。	教科書P35~P49	
5	歯列・咬合の発育と異常2 小児の歯科疾患 1	歯列・咬合の異常を説明できる。 口腔習癖に起因する不正咬合を説明できる。 歯性不正咬合について説明できる。 小児にみられるう蝕・歯周疾患について説明できる。	教科書P49~P60	

回	授業計画	到達目標	準備学習	準備物
6	小児の歯科疾患 2 小児虐待	小児にみられる口腔軟組織の異常と疾患について説明できる。 小児虐待について、種類・背景について説明できる。 身体的虐待による頭部・顔面・口腔・歯の所見について説明できる。 ネグレクトとう蝕について説明できる	教科書P61～P71	
7	小児期の特徴と歯科的問題点 小児歯科における患者との対応法 1	乳幼児期小児の特徴、留意点と特徴的歯科疾患を説明できる。 学童期小児の特徴、留意点と特徴的歯科疾患を説明できる。 思春期小児の特徴、留意点と特徴的歯科疾患を説明できる。 小児歯科における患者との対応法について説明できる。	教科書P74～P84	
8	小児歯科における患者との対応法 2	歯科治療時の対応法について説明できる。	教科書P84～P95	
9	小児歯科における診療体系 1	小児歯科診療とその特徴・原則について説明できる。 診察・検査・診断について説明できる。	教科書P96～P105	
10	小児歯科における診療体系 2	小児の歯の健康教室について説明できる。 小児歯科における麻酔法について説明できる。 小児の歯冠修復について説明できる。 小児の歯内療法について説明できる。	教科書P105～P137	
11	小児の歯科における診療体系 3	小児の外科的処置について説明できる。	教科書P137～P146	
12	小児の歯科における診療体系 4	咬合誘導を説明できる。 フッ化ジアンミン銀塗布について説明できる。 リコール(定期健診)を説明できる。	教科書P146～P153	
13	障害児の歯科治療	障害児における歯科の対応法を説明できる。 主な障害とその全身的・歯科的特徴を説明できる。 障害児への対応法を説明できる。 小児の摂食・嚥下障害の特徴を説明できる。	教科書P154～P167	
14	う蝕予防	ブランクコントロールについて説明できる。 フッ化物の応用・小窩裂溝填塞法について説明できる。 う蝕予防のための食生活指導ができる。	教科書P169～P189	
15	小児の口腔健康管理 歯科診療室と器材の管理	診療補助と歯科衛生士の役割を説明できる。 成長時期に応じた口腔健康管理ができる。 口腔健康管理に必要な検査と指導ができる。 診療室・待合室・受付・器材の管理について説明できる。	教科書P191～P204	



基本情報

学科目名	障害者歯科学	分野	専門分野 [臨床歯科医学] 障害者歯科疾患論	講師名	山川摩利子			
履修学年・学期	2年 前期	授業方式	講義	単位数	1単位	15時間	授業回数	8
教員の 実務経験	歯科医師。歯学博士。日本障害者歯科学会指導医。東京医科歯科大学障害者歯科治療部医員、熊本市立熊本市市民病院 歯科、熊本市東区保健子ども課兼熊本市口腔保健支援センター勤務。熊本市口腔保健支援センター長。							
授業との 関連性	日本障害者歯科学会指導医としての経験を活かし、障害を持つ児・者を取り巻く社会環境や障害の種類・特徴、また 歯科医療の関わりや歯科衛生士の役割りについて講義する。							

詳細情報

授業目標	障害を理解し、障害を持つ児・者を取り巻く社会環境を理解する。そのうえで、将来、歯科医療人として当たり前の 診療行為を提供するために必要な知識を習得する。									
成績評価 方法	定期試験	90点	小テスト レポート	点	実技・発表 ワーク(演習) など	点	受講態度	10点	合計	100点
教科書名	(学則) 合格点：60点以上とし、不合格の学科目は1回限り再試験を受けることができる。 追試験：学期試験を欠席した場合は1回限り追試験を受けることができる。 欠課：①開始20分以降の遅刻 ②終了20分以前の早退 ③同一学科目で遅刻及び早退を4回した者 受験を認めない要件：各学科目の授業時間数が3分の2に満たない者									
参考文献	スペシャルニーズデンティストリー障害者歯科 第二版 日本障害者歯科学会編 医歯薬出版KK									
使用設備・備 品・準備物	パソコン、プロジェクターを使用します。									
履修上の 注意	補助資料のプリントを配布する予定です。									

回	授業計画	到達目標	準備学習	準備物
1	第1章 障害の概念 ①歯科医療におけるスペシャルニーズ ②障害の分類 ③生活機能に特別な支援を要する人のQOL ④ノーマライゼーションとバリアフリー ⑤スペシャルニーズの発生とその受容 ⑥障害のある人と医療・福祉制度の仕組み	①歯科医療におけるスペシャルニーズを説明できる。 ②国際生活機能分類を説明できる。 ③障害児・者のQOLが説明できる。 ④ノーマライゼーションとバリアフリーを説明できる。 ⑤障害のある人と福祉制度について説明できる。 ⑥障害者歯科医療の仕組みが説明できる。	教科書の内容を把握しておく 配付プリントの復習	PC・プロジェクター レーザーポインター
2	第2章 歯科医療で特別な支援が必要な疾患 ①神経発達症群 1知的能力障害(知的発達症) 2自閉スペクトラム症 3注意欠如・多動症 4限局性学習症	①神経発達症群と関連の主な障害を説明できる (1)神経発達症群のある人への対応と口腔の特徴を説明できる	教科書の内容を把握しておく 疾患ごとの特徴をまとめる 配付プリントの復習	PC・プロジェクター レーザーポインター
3	②運動障害(神経・筋系疾患) 1脳性麻痺 2重症心身障害 3筋ジストロフィー 4脊髄損傷 5関節リウマチ 6脳血管障害 7筋委縮性側索硬化症(ALS) 8その他の障害	②身体障害(肢体不自由を含む)と関連の主な障害を説明できる (1)身体障害のある人への対応と口腔の特徴を説明できる	教科書の内容を把握しておく 疾患ごとの特徴をまとめる 配付プリントの復習	PC・プロジェクター レーザーポインター
4	③感覚障害 1視覚障害 2聴覚障害 3盲聾 4その他の障害 ④音声言語障害 ⑤精神および行動の障害 ⑥その他一障害のある人への虐待	③感覚障害と関連の主な障害を説明できる (1)感覚障害のある人への対応と口腔の特徴を説明できる ④音声言語障害の分類、原因と対応を説明できる ⑤精神および行動の障害と関連の主な障害を説明できる (1)精神および行動の障害のある人への対応と口腔の特徴を説明できる	教科書の内容を把握しておく 疾患ごとの特徴をまとめる 配付プリントの復習	PC・プロジェクター レーザーポインター



回	授業計画	到達目標	準備学習	準備物
5	第3章 障害者の歯科医療と行動調整 ①コミュニケーションの方法 ②行動療法（行動変容法） ③体動のコントロール ④薬物的行動調整法	①障害のある人とのコミュニケーション法について説明できる ②障害者歯科で用いられる行動調整法を歯科衛生士の役割を説明できる （1）行動療法（行動変容）と歯科衛生士の役割を説明できる （2）体動のコントロールと歯科衛生士の役割を説明できる （3）薬物を用いた行動調整と歯科衛生士の役割を説明できる	教科書の内容を把握しておく それぞれの行動調整法について特徴をまとめる 配付プリントの復習	PC・プロジェクター レーザーポインター
6	第4章 健康支援と口腔衛生管理 ①障害者本人や介助者が行う口腔のケアへの支援 ②口腔健康管理 ③特別な配慮が必要な患者の口腔衛生管理	①障害のある人への口腔健康管理を説明できる （1）口腔衛生管理を理解し説明できる （2）口腔機能管理を理解し説明できる （3）支援に必要な情報および実施における注意点を説明できる （4）障害に合わせて対応や指導ができる ②障害や疾患別の口腔衛生管理を説明できる	教科書の内容を把握しておく 対象者に合わせた指導について調べる 配付プリントの復習	PC・プロジェクター レーザーポインター
7	第5章 リスク評価と安全管理 ①障害者歯科におけるリスク評価 ②障害別のリスクと対応 ③医療安全管理体制 ④感染制御体制	①障害者歯科におけるリスクについて説明できる ②障害者歯科におけるリスク評価について説明できる ③医療機関における安全管理の概要を説明できる ④障害者歯科における感染対策の基本を説明できる ⑤障害者歯科における感染予防対策の留意点を列挙する	教科書の内容を把握しておく 診療室内外のリスクをまとめておく 配付プリントの復習	PC・プロジェクター レーザーポインター
8	第7章 地域における障害者歯科 ①障害者歯科と地域医療連携 ②障害者歯科と関連職種 ③保健・医療・福祉のネットワーク ④一次医療機関における障害者歯科 ⑤二次医療機関における障害者歯科 ⑥参事医療機関における障害者歯科	①地域医療連携の必要性を説明できる ②一次・二次・三次医療機関の役割ならびに歯科衛生士の役割を説明できる ③障害者歯科と関連する職種を説明できる ④福祉サービスを説明できる ⑤行政および地域、歯科訪問診療における歯科衛生士の役割を説明できる ⑥地域におけるかかりつけ歯科医の有利性を説明できる ⑦医科歯科連携を説明できる ⑧チーム医療の形態を説明できる	教科書の内容を把握しておく 配付プリントの復習	PC・プロジェクター レーザーポインター

基本情報

学科目名	高齢者歯科学	分野	専門分野【臨床歯科学】 高齢者歯科疾患論	講師名	長野 靖弘			
履修学年・学期	2年 後期	授業方式	講義	単位数	1単位	15時間	授業回数	8
教員の実務経験	歯科医師。歯科診療所院長。熊本県歯科医師会常務理事。介護支援専門員。院内感染予防対策認定医。							
授業との関連性	歯科医師としてこれまでの歯科訪問診療の経験を通して、高齢者歯科学の一連の流れについて講義する。							

詳細情報

授業目標	高齢者をとりまく社会と環境を踏まえ、高齢者に関わる医療と介護を理解し、歯科衛生士として臨床に携わる準備を行う。									
成績評価方法	定期試験	100点	小テストレポート	0点	実技・発表ワーク(演習)など	0点	受講態度	マイナスポイント	合計	100点
教科書名	(学則) 合格点；60点以上とし、不合格の学科目は1回限り再試験を受けることができる。 追試験；学期試験を欠席した場合は1回限り追試験を受けることができる。 欠課；①開始20分以降の遅刻 ②終了20分以前の早退 ③同一学科目で遅刻及び早退を4回した者 受験を認めない要件；各学科目の授業時間数が3分の2に満たない者									
参考文献	無									
使用設備・備品・準備物	教科書、プリント、パワーポイントを用いて講義します。									
履修上の注意	授業の中身だけではなく、受講しやすい環境を作っていきます。									

回	授業計画	到達目標	準備学習	準備物
1	高齢社会と健康	高齢社会の現状を理解し、高齢者の人口比率の推移、平均寿命・健康寿命の特性、主要な死亡原因、現在歯数・未処置歯数・喪失歯数・歯周ポケットの特徴を説明できる。	P.6～12	教科書・パワーポイント
2	高齢者の健康に関わる法制度	高齢者の保健・医療・福祉対策の経緯、健康に関わる法律、介護保険制度、要介護認定、地域包括ケアシステムの概要、歯科衛生士が関与する介護予防について説明できる。	P.13～32	教科書・パワーポイント
3	地域包括ケアシステム	地域包括ケアシステムの構成要素、地域包括支援センターの業務、地域ケア会議の機能、地域包括ケアにおける歯科医療の役割を説明できる。	P.33～37	教科書・パワーポイント
4	高齢者の居住形態・施設および入院設備の特徴	高齢者の居住場所を規定する要件、高齢者向け住宅の種類と特徴、高齢者施設の種類と特徴、介護保険施設の種類と特徴を説明できる。	P.38～43	教科書・パワーポイント
5	高齢者のリハビリテーションの概要	リハビリテーションの概念、障害のみかたと分類、チーム医療の概念、リハビリテーション上問題となる高齢者の特徴について説明ができる。	P.250～255	教科書・パワーポイント
6	在宅医療の概要	在宅医療の背景、目的、訪問診療と往診の違い、在宅医療の対象となる人、在宅医療制度の概要、在宅における歯科衛生士の役割について説明できる。	P.256～262	教科書・パワーポイント
7	訪問看護と歯科の役割・訪問介護と歯科の役割	訪問看護ステーションと歯科医療の連携のあり方を説明できる。訪問介護と歯科医療の連携、口から食べる事と歯科衛生士の役割について説明できる。	P.263～272	教科書・パワーポイント
8	訪問診療における歯科医療・感染防止対策	歯科訪問診療の社会的現況、診療内容、歯科衛生士の役割を説明できる。歯科訪問診療における感染対策を説明できる。	P.273～277	教科書・パワーポイント

基本情報

学科目名	歯科口腔放射線学		分野	専門分野〔臨床歯科医学〕歯科口腔放射線論			講師名	瀬々良介	
履修学年・学期	2年	前期	授業方式	講義・実技	単位数	1単位	15時間	授業回数	8
教員の 実務経験	歯科医師。日本歯科放射線学会専門医。口腔病院画像診断部部長。福岡歯科大学臨床准教授。								
授業との 関連性	日本歯科放射線学会専門医、また口腔病院における画像診断部部長の経験を踏まえ、歯科放射線の知識、画像診査法と画像診断や歯科衛生士の法的役割について講義する。								

詳細情報

授業目標	歯科衛生士として必要な歯科放射線の知識を習得する。特に歯科放射線診療における適切な補助、放射線防護を行うための基礎知識および画像診査法と画像診断学の基本を習得し歯科医療に大いに貢献できる歯科衛生士を育成することを目標とする。									
成績評価 方法	定期試験	100点	小テスト レポート	点	実技・発表 ワーク(演習) など	点	受講態度	点	合計	100点
教科書名	「歯科衛生士テキスト わかりやすい歯科放射線学 第3版」飯久保正弘・香川豊宏著他 学建書院									
参考文献	最新「歯科放射線」岡野友宏著 医歯薬出版KK									
使用設備・備 品・準備物	PC プロジェクター									
履修上の 注意	積極的に学び取ろうとする姿勢で臨んでください。また、講義中の私語は厳禁。									
回	授業計画				到達目標			準備学習		
1	歯科放射線学序論〔歯科放射線学の概要、歯科放射線学の役割、エックス線の発見〕  目標：歯科放射線学の概要を理解し、本教科を学ぶ意義や必要性を理解する。				歯科放射線学の概要を把握し歯科衛生士として本教科を学ぶ意義や必要性を述べることができる。			教科書：P1～3 教科書：P150～161		
2	放射線物理学〔放射線とその性質など〕〔放射線とは何か。〔細項目：電磁波、エックス線〕、エックス線の発生〔細項目：発生原理、エックス線管の構造〕、エックス線と物質の相互作用〔細項目：エックス線の減弱〕、エックス線画像の形成〔細項目：エックス線透過像、エックス線不透過像〕〕  目標：エックス線の性質やエックス線画像の形成を理解する。				エックス線の性質やエックス線画像の形成について説明できる。			教科書：P4～8 教科書：P12～21		
3	放射線生物学、放射線防護〔放射線の人体への影響と防護〕〔生物へ与える影響〔細項目：早期障害、晩期障害、確定的影響、確率的影響〕、放射線防護の基本概念〔細項目：被爆のカテゴリー、放射線防護の体系〕、放射線防護の実践〔細項目：医療従事者の被爆軽減、患者の被爆軽減〕〕  目標：放射線の人体への影響と防護の重要性を理解する。				放射線の人体への影響や放射線防護について説明できる。			教科書：P9～11 教科書：P22～29 教科書：P162～170		
4	写真処理法〔写真機材〔細項目：エックス線フィルム、増感紙、カセット〕、写真処理〔細項目：現像、定着、水洗、乾燥〕、デジタル化〔細項目：IP方式、CCD方式〕〕  目標：写真処理法を理解する。				エックス線写真の処理法を説明できる。			教科書：P36～45 教科書：P138～143 教科書：P128～137		
5	エックス線撮影法〔1〕〔□内法撮影〔細項目：二等分法、平行法、咬翼法、咬合法、□内法エックス線写真の正常解剖〕〕  目標：□内法撮影の各撮影法と正常解剖を理解する。				□内法撮影の各撮影法の特徴と手技および正常解剖を説明できる。			教科書：P52～89 教科書：P144～147		

回	授業計画	到達目標	準備学習
6	<p>エックス線撮影法（２）〔パノラマエックス線撮影法（細項目：パノラマエックス線撮影の原理、短所、長所、パノラマエックス線写真の正常解剖）〕</p> <p>目標：パノラマエックス線撮影法と正常解剖を理解する。</p>	<p>パノラマエックス線撮影法の特徴と手技および正常解剖を説明できる。</p>	<p>教科書：P90～106 教科書：P148～149</p>
7	<p>エックス線撮影法（３）〔その他の画像検査法（細項目：頭部エックス線規格撮影、顎関節撮影、CT、MRI、超音波検査）〕</p> <p>目標：その他の画像検査法を理解する。 放射線治療〔種類、リスクとベネフィット〕</p> <p>目標：放射線治療の種類、リスクとベネフィットを理解する。</p>	<p>頭部エックス線規格撮影、顎関節撮影、CT、MRI、超音波検査の特徴を説明できる。 放射線治療後のリスクを理解し歯科衛生士として口腔ケアの重要性を述べることができる。</p>	<p>教科書：P107～127 教 科書：P172～178</p>
8	<p>エックス線写真の整理、エックス線写真の読影およびまとめ〔口内法エックス線写真の正常解剖と病変、パノラマエックス線写真の正常解剖と病変、写真の整理（マウント）〕</p> <p>目標：口内法エックス線写真を見て撮影部位を認識する。基本的な病変のエックス線像を理解する。</p>	<p>エックス線写真の整理（マウント）ができる。基本的な病変のエックス線所見を説明できる。</p>	<p>教科書：P88～89 教科書：P144～149</p>

基本情報

学科目名	歯科予防処置法Ⅰ	分野	専門分野〔歯科予防処置論〕					
履修学年・学期	1年 前後期	授業方式	講義/演習/実技	単位数	3単位	90時間	授業回数	45

講師名	大塚めぐみ	教員の 実務経験	歯科衛生士。全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士。本学院教務副主任。
授業との 関連性	全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士として、歯科予防処置法に係る基礎知識や予防技術、患者管理について講義・実習する。		
講師名	西口 真美	教員の 実務経験	歯科衛生士。全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士。本学院専任教員。
授業との 関連性	全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士として、歯科予防処置法に係る基礎知識や予防技術、患者管理について講義・実習する。		

詳細情報

授業目標	(前期)口腔の2大疾患である「う蝕」と「歯周疾患」の予防の重要性を理解し、継続管理を行うために必要な知識、技術、態度を身につける。 (後期)予防処置法の使用器具の取り扱いと操作の基本を理解するために、必要な知識、技術を修得する。									
成績評価 方法	定期試験	100点	小テスト レポート	/点	実技・発表 ワーク(演習) など	/点	受講態度	/点	合計	100点
	項目ごと実技試験									
教科書名	①歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」遠藤圭子著 他 医歯薬出版KK ②歯科衛生士臨床のすべて(ベーシックパート・クリニカルパート) ③歯科衛生士のための最新歯周病学 医歯薬出版KK									
参考文献	①歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 医歯薬出版株式会社 ②歯科衛生士のためのう蝕予防処置法 第2版 医歯薬出版株式会社 ③歯科衛生学シリーズ 保健生態学 医歯薬出版株式会社 ④歯科衛生学シリーズ 歯周病学 医歯薬出版株式会社 ⑤歯科衛生学シリーズ 歯科材料 医歯薬出版株式会社 ⑥歯科衛生学シリーズ 歯科機器 医歯薬出版株式会社									
使用設備・備 品・準備物	当番は必要な準備物を授業開始3日前までに担当講師に確認をとること。									
履修上の 注意	①予習を必ず行い講義・実習に臨むこと。資料はMoodleから確認することができます。 ②授業の復習は必ず行うこと。 ③実習は身だしなみをきちんと整えた上で取り組むこと。 ④到達目標は履修状況において変更することがあります。									
回	授業計画				到達目標			準備学習		
1	(講義)Ⅱ編 1章 ①口腔・口腔周囲の構造②歯周組織 Ⅲ編 2章 ①口腔の器質的問題の把握 ②口腔の機能的問題の把握 口腔の基礎知識 1 口腔の構造・歯周組織				口腔の構造、名称および歯式について理解する。			教本P16~22を予習しておく		
2	(講義)Ⅱ編 1章 ③歯冠と歯根の形態②口腔の機能 口腔の基礎知識 2 歯周組織・口腔の機能				口腔の構造を理解したうえで、口腔の機能や摂食嚥下の流れの概要を理解する。			教本P22~27を予習しておく		
3	(講義)Ⅱ編 2章 ①口腔内の付着物・沈着物				①口腔内の付着物、沈着物の種類と成分が説明できる。 ②プラークの形成過程と成分を説明できる。 ③歯石の形成過程と成分を説明できる。			教本P28~32を予習しておく		
4	(講義)Ⅱ編 2章 ②う蝕③歯周病				う蝕がどのように起こるのか、またう蝕の特性について理解する。 歯周組織を理解したうえで、歯周病とはどのような病気か、原因や進行のメカニズムを理解する。			教本P32~42を予習しておく		
5	(講義・演習)Ⅱ編 2章 う蝕と歯周病の基礎知識 位相差顕微鏡の基礎知識と取り扱いについて				①位相差顕微鏡の取り扱いが適切にできる。 ②位相差顕微鏡を用いて口腔内の状態を説明できる。			教本P32~42を予習しておく		
6	(講義)Ⅲ編 2章 ⑥口腔の器質的問題の把握 診査用具の把持法・使用方法(エキスプローラー・プロープ)				歯周診査用器材の使用法、特徴について理解する。			教本P139~140を予習しておく		
7	(講義)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング 手用スケーラー・機械的スケーラーの概要・把持法・基本操作				①各種スケーラーの種類と使用目的を説明できる。 ②シクルスケーラーの把持法を修得する。			教本P186~191を予習しておく		



回	授業計画	到達目標	準備学習
8	(実技)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング シックススケーラー机上操作(前腕回転運動・手根関節運動)	シックススケーラーを用いて、前腕回転運動、手根関節運動の操作ができる。	教本P186~191を復習しておく
9	(実技・演習)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング 基本設定 ポジショニングについて 人工歯石の取り扱い	①スケーリング操作時のポジション・姿勢を理解することができる。 ②人工歯石を歯牙に的確に塗布することができる。	教本P186~191までを復習しておく
10	(実技)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング エキスポローリング・ミラー操作	口腔内をミラーで確認し、直視できない部位の投影、また排除の必要性などを理解し、操作できる。	教本P220~222を予習しておく
11	(実技)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング ファントムシックススケーリング1 前歯部	ファントムを用いて、歯石除去時のポジショニング、ライティング、スケーラーの操作方法、ミラーテクニックなど基本的なスケーリングをブロックごとに理解し操作ができる。	教本P196~197を予習しておく
12	(実技)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング ファントムシックススケーリング1 右側	ファントムを用いて、歯石除去時のポジショニング、ライティング、スケーラーの操作方法、ミラーテクニックなど基本的なスケーリングをブロックごとに理解し操作ができる。	教本P200~201を予習しておく
13	(実技)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング ファントムシックススケーリング1 左側	ファントムを用いて、歯石除去時のポジショニング、ライティング、スケーラーの操作方法、ミラーテクニックなど基本的なスケーリングをブロックごとに理解し操作ができる。	教本P198~199を予習しておく
14	(実技)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング ファントムシックススケーリング1 復習 ファントムシックススケーリング 204SD取り扱い	各部位に適したポジションでスケーリングとミラー操作を行い、取り残しの確認ができる。またシックススケーラー204SDの特徴を理解し操作できる。	教本P196~201を予習しておく
15	(講義)本田貴子先生 信頼される歯科衛生士になるためのマナー コミュニケーションの4つの柱	歯科衛生士に必要なマナーを理解し身に付けることができる。	配布資料を予習しておく
16	(講義)本田貴子先生 動機づけの大切さ 患者観察 患者情報の収集	対象者の口腔内状況を把握し、情報の収集ができる。	
17	(講義)本田貴子先生 口腔内状況の伝え方 歯面研磨剤の選択方法 治療継続のためのポイント	対象者の口腔内状況を対象者に伝えることができる。 口腔内の状況に応じた歯面研磨剤を選択することができる。	
18	(実習)本田貴子先生 ファントム超音波スケーリング~PTC実習	超音波スケーラーを適切に歯面に当てることができる。 歯面に直角にカップを当て操作をすることができる。	
19	(演習)本田貴子先生 練習問題	これまでに履修した内容を確認することができる。	
20	(講義)Ⅲ編 2章 ⑧分析のためのデータ 4. う蝕に関する検査 う蝕活動性試験とは	う蝕活動性試験の必要な知識について理解する。	教本P174~182を予習しておく
21	(演習)Ⅲ編 2章 ⑧分析のためのデータ 4. う蝕に関する検査 う蝕活動性試験①	①齶蝕活動性試験の有効性、種類がわかり、正しい操作でテストを行うことができる。 ②患者へ説明、予防するために情報の収集ができる。 ③患者に適した予防プログラムを立てることができる。	教本P174~182を予習しておく
22	(演習)Ⅲ編 2章 ⑧分析のためのデータ 4. う蝕に関する検査 う蝕活動性試験②	同上	教本P174~182を予習しておく
23	(講義)Ⅲ編 2章 ⑥口腔の器質的問題の把握①口腔の機能的問題の把握 口腔内観察・口腔内精密検査1	患者の口腔内の状態を的確に観察し、記録することができる。	教本P134~139を予習しておく
24	(講義)Ⅲ編 2章 ⑥口腔の器質的問題の把握①口腔の機能的問題の把握 口腔内観察・口腔内精密検査2 歯周ポケット・ト動揺度・口臭	歯周組織の健康度を判断するための一助である各種歯周組織検査を理解し説明できる。	教本P139~153を予習しておく
25	(実習)Ⅲ編 2章 ⑥口腔の器質的問題の把握①口腔の機能的問題の把握 口腔内観察 示説・1人目	①患者の口腔内の健康状況を把握するために、患者の口腔内の状態を的確に観察することができる。 ②相互にて実習し実習し、その手技および結果から口腔内状況を理解できる。	教本P134~139を復習しておく
26	(実習)Ⅲ編 2章 ⑥口腔の器質的問題の把握①口腔の機能的問題の把握 口腔内観察 2・3人目	同上	

回	授業計画	到達目標	準備学習
27	(実習)Ⅲ編 2章 歯科衛生セメントとしての情報収集と情報処理 ⑥口腔の器質的問題の把握⑦口腔の機能的問題の把握 口腔内観察・精密検査 1人目	患者の口腔内の健康状況を把握するために、各種口腔内精密検査を相互にて実習し、その手技および結果から口腔内状況を理解する。	教本P134～153を復習しておく
28	(実習)Ⅲ編 2章 歯科衛生セメントとしての情報収集と情報処理 ⑥口腔の器質的問題の把握⑦口腔の機能的問題の把握 口腔内観察・精密検査 2人目	同上	
29	(実習)Ⅲ編 2章 歯科衛生セメントとしての情報収集と情報処理 ⑥口腔の器質的問題の把握⑦口腔の機能的問題の把握 口腔内観察・精密検査 3人目	同上	
30	(実習)Ⅲ編 3章 ⑥口腔清掃方法 2その他の清掃方法 染め出し～フロッシング操作1 右側	患者の口腔内汚染状況を確認したうえで、フロスを操作することができる。	教本P278～280を復習しておく
31	(実習)Ⅲ編 3章 ⑥口腔清掃方法 2その他の清掃方法 染め出し～フロッシング操作2 中央	同上	
32	(実習)Ⅲ編 3章 ⑥口腔清掃方法 2その他の清掃方法 染め出し～フロッシング操作3 左側	同上	
33	(講義)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング 超音波スケーラー・エアスケーラーについて 超音波スケーラー・エアスケーラーでの偶発事故	各種スケーラーの特徴、使用方法、操作方法が説明できる。安心・安全に院内実習に取り組むことができるように、偶発事故の予防と対策について理解を深め説明できる。	教本P209～222を予習しておく
34	(実技)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング 超音波スケーラー・エアスケーラーの取り扱い	超音波・エアスケーラーの基本的な取扱いが行えるように各々の特徴を理解し、セッティングができる。	
35	(実技)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング ファントム縁上スケーリング(エアスケーラー・ハンドスケーラー)実習 上顎	これまでに履修した口腔内洗浄、パキューム操作、ハンドスケーリングに超音波・エアスケーリングを加え、ファントムにて一連の流れを理解し操作ができる。	
36	(実技)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング ファントム縁上スケーリング(エアスケーラー・ハンドスケーラー)実習 下顎	同上	
37	(講義)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング キュレットスケーラーの把持法、使用方法について	スケーリング・ルートプレーニングを確実に実践するためにキュレットスケーラーの特徴や使用目的を理解する。	教本P192～195を予習しておく
38	(実技)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング エキスポーリング・プローピング～キュレット操作(挿入方法)	①キュレットスケーラーの部位別種類と特徴が判断できる。 ②キュレットスケーラーの挿入角度と操作角度の違いがわかり操作できる。 ③キュレットスケーラーの操作方法を説明し実施できる。	
39	(実習)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング キュレット操作1	キュレットスケーラーの特徴を把握し、各部位に合わせたスケーラーを選択し操作することができる。	教本P196～201を予習しておく
40	(実技)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング キュレット操作2	同上	
41	(実技)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング キュレット操作3	同上	
42	(実技)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング キュレット操作4	同上	
43	(実技)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング キュレット操作5	同上	
44	(実技)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング キュレット操作6	同上	
45	(講義) 歯科予防処置分野 まとめ 模擬試験解説	①歯科予防処置に関する知識の再確認ができる ②修得できていない分野を確認することができる	-

基本情報

学科科目名	歯科予防処置法Ⅱ	分野	専門分野 [歯科予防処置論]					
履修学年・学期	2年 前後期	授業方式	講義/演習/実技	単位数	4単位	120時間	授業回数	60
講師名	大塚めぐみ	教員の 実務経験	歯科衛生士。全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士。本学院教務副主任。					
授業との 関連性	全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士として、歯科予防処置法に係る基礎知識や予防技術、患者管理について講義・実習する。							
講師名	西口 真美	教員の 実務経験	歯科衛生士。全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士。本学院専任教員。					
授業との 関連性	全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士として、歯科予防処置法に係る基礎知識や予防技術、患者管理について講義・実習する。							

詳細情報

授業目標	(前期)臨床実習に対応するために、学院内実習を通して技術、及び患者への対応を修得する。 (後期)現場における歯科衛生士の役割と業務を理解し、実践力を養うために、様々な場面に対応できる能力を身につける。									
成績評価 方法	定期試験	100点	小テスト レポート	/点	実技・発表 ワーク(演習) など	/点	受講態度	/点	合計	100点
	項目ごと実技試験 (学則) 合格点：60点以上とし、不合格の学科目は1回限り再試験を受けることができる。 追試験：学期試験を欠席した場合は1回限り追試験を受けることができる。 欠課：①開始20分以降の遅刻 ②終了20分以前の早退 ③同一学科目で遅刻及び早退を4回した者 受験を認めない要件：各科目の授業時間数が3分の2に満たない者									
教科書名	①歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」遠藤圭子著 他 医歯薬出版KK ②歯科衛生士臨床のすべて(ベーシックパート・クリニカルパート) ③歯科衛生士のための最新歯周病学 医歯薬出版KK									
参考文献	①歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 医歯薬出版株式会社 ②歯科衛生士のためのう蝕予防処置法 第2版 医歯薬出版株式会社 ③歯科衛生学シリーズ 保健生態学 医歯薬出版株式会社 ④歯科衛生学シリーズ 歯周病学 医歯薬出版株式会社 ⑤歯科衛生学シリーズ 歯科材料 医歯薬出版株式会社 ⑥歯科衛生学シリーズ 歯科機器 医歯薬出版株式会社									
使用設備・備 品・準備物	当番に必要な準備物を授業開始3日前までに担当講師に確認をとること。									
履修上の 注意	①予習を必ず行い講義・実習に臨むこと。配布資料はMoodleから確認することができます。 ②授業の復習は必ず行うこと。 ③実習は身だしなみをきちんと整えた上で取り組むこと。 ④到達目標は履修状況において変更することがあります。									
回	授業計画			到達目標			準備学習			
1	(講義)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング シャープニング1			刃の原形を維持しながら、もとの切れ味に復元することができるよう正しいシャープニング方法を習得できる。			教本P202を予習しておく			
2	(実技)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング シャープニング2			同上						
3	(試験)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング キュレット操作実技試験			指示された歯牙を間違えることなく、正確なポジションでスケーラーを用い、歯肉溝内の歯石を除去できる。			過去の配布資料を再度復習しておく			
4	(実技)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング エキスポローリング・シクル・キュレット操作復習			各部位に適したポジションでエキスポローリング、スケーリング・ルートプレーニングとミラー操作を行い、取り残しの確認ができる。			教本P186～を復習しておく			
5	(講義)Ⅲ編 3章 ④フッ化物の応用 フッ化物総論・実験 フッ化物局所応用によるう蝕予防処置			フッ化物の総論を理解することができる。			教本P233～257を予習しておく			
6	(講義)Ⅲ編 3章 ④フッ化物の応用 フッ化物歯面塗布法・術式 (トレー法・イオン導入法)			トレー法、イオン導入法の手順がわかる。						
7	(演習)Ⅲ編 3章 ④フッ化物の応用 フッ化物洗口法の作製・使用方法			フッ化物洗口法の作製手順を理解することができる。			教本P233～257を予習しておく			
8	(演習)Ⅲ編 3章 ④フッ化物の応用 溶液量測定・中毒量算出			フッ化物の中毒量の算出方法がわかる。						
9	(演習)Ⅲ編 3章 ④フッ化物の応用 中毒量算出 ライフステージ別のフッ化物の局所応用			ライフステージにおけるフッ化物の応用を理解することができる。			教本P233～257を予習しておく			
10	(演習)Ⅲ編 3章 ④フッ化物の応用 フッ化物綿球塗布法			フッ化物綿球塗布法を実践することができる。						
11	シャープニング・フッ化物に関する総まとめ練習問題			①シャープニングに関する知識の再確認ができる ②フッ化物に関する知識の再確認ができる			これまでの資料を確認しておく			

回	授業計画	到達目標	準備学習
12	(講義) Ⅲ編 3章 ②歯面研磨・歯面清掃 PTC・PMTCについて1	バイオフィルムを物理的に取り除くためにはどのような器材があるか理解し、それぞれの目的、種類を理解する。	教本P222～を予習しておく
13	(講義) Ⅲ編 3章 ②歯面研磨・歯面清掃 歯面清掃器について エアフロー・サブソニックブラシ 超音波スケーラー・エアスケーラー(復習)	口腔内に応じた適切な歯面研磨、歯面清掃を修得するための器械選択を理解できる。	教本P222～を予習しておく
14	(実習) Ⅲ編 3章 ⑥口腔清掃方法 2その他の清掃 方法 染め出し～フロッシング操作1 上顎	患者の口腔内汚染状況を確認したうえで、フロスを操作することができる。	教本P278～280を復習しておく
15	(実習) Ⅲ編 3章 ⑥口腔清掃方法 2その他の清掃 方法 染め出し～フロッシング操作2 下顎	患者の口腔内汚染状況を確認したうえで、フロスを操作することができる。	
16	(実習) Ⅲ編 3章 ⑥口腔清掃方法 2その他の清掃 方法 染め出し～フロッシング操作3 復習	患者の口腔内汚染状況を確認したうえで、フロスを操作することができる。	
17	(実技・ファントム実習) Ⅲ編 3章②歯面研磨・歯面 清掃 正常模型 上顎/下顎 PTC	ファントムを用いて、操作部位に応じた適切な器材が選択でき、またPTCが適切に操作できる。	教本P222～を予習しておく
18	(実技・ファントム実習) Ⅲ編 3章②歯面研磨・歯面 清掃 歯列不正模型 上顎/下顎 PTC	歯列不正な口腔内にてコードレスハンドピースの使用方法を理解することができる。	教本P222～を予習しておく
19	(相互実習) Ⅲ編 3章②歯面研磨・歯面清掃 染め出し・PTC(コードレス使用)1・2人目	口腔内の状況に応じた研磨用器具を選択し、対象者に配慮した確実なPTCの一連の操作を実践することができる。	教本P222～を予習しておく
20	(相互実習) Ⅲ編 3章②歯面研磨・歯面清掃 染め出し・PTC(コードレス使用)3人目	同上	教本P222～を予習しておく
21	(相互実習) Ⅲ編 3章②歯面研磨・歯面清掃 歯面研磨 上顎/下顎 示説・1人目	ヒト口腔内にて歯面研磨の一連の操作を実践することができる。	教本P222～を予習しておく
22	(相互実習) Ⅲ編 3章②歯面研磨・歯面清掃 歯面研磨 上顎/下顎 2人目・3人目	同上	教本P222～を予習しておく
23	(相互実習) Ⅲ編 3章②歯面研磨・歯面清掃 染め出し～術者磨き・サブソニックブラシ操作実習 示説・1人目	歯ブラシを施術部位に的確に当て、歯垢染色剤を落とすことができる。 器材の使用目的を理解したうえで、ブラシを的確に歯面に当て染め出し部分を落とし、PTCをよりデリケートに行う操作ができる。	教本P222～を予習しておく
24	(相互実習) Ⅲ編 3章②歯面研磨・歯面清掃 染め出し～術者磨き・サブソニックブラシ操作実習 2人目	同上	教本P222～を予習しておく
25	(相互実習) Ⅲ編 3章②歯面研磨・歯面清掃 染め出し～術者磨き・サブソニックブラシ操作実習 3人目	同上	教本P222～を予習しておく
26	(相互実習) Ⅲ編 3章②歯面研磨・歯面清掃 染め出し～サブソニックブラシ操作一人ハキュウム実習 示説・1人目	器材の使用目的を理解したうえで、一人でハキュウムを行いながら、ブラシを的確に歯面に当て染め出し部分を落とし、PTCをよりデリケートに行うことができる。	教本P222～を予習しておく
27	(相互実習) Ⅲ編 3章②歯面研磨・歯面清掃 染め出し～サブソニックブラシ操作一人ハキュウム実習 2人目	同上	教本P222～を予習しておく
28	(相互実習) Ⅲ編 3章②歯面研磨・歯面清掃 染め出し～サブソニックブラシ操作一人ハキュウム実習 3人目	同上	教本P222～を予習しておく
29	(講義) Ⅲ編 3章④フッ化物の応用⑤小窩裂溝充填塞法 小窩裂溝充填塞法総論・フッ化ジアンミン銀総論	①小窩裂溝充填塞法の作用機序と適応症を理解し手順を説明できる。 ②フッ化ジアンミン銀溶液の特徴・作用機序・注意事項・取扱い方法を説明できる。	教本P258～を予習しておく
30	(演習) Ⅲ編 3章④フッ化物の応用 フッ化ジアンミン銀 布への着色	フッ化ジアンミン銀溶液の作用について理解を深めるとともに、患者および術者の衣類を汚染した場合の処置ができる。	教本P258～を予習しておく
31	(実技・ファントム実習) Ⅲ編 3章②歯面研磨・歯面 清掃 歯列不正模型 上顎/下顎 スケーリング～PTC 復 習	歯列不正な口腔内にてスケーリングからPTCを操作することができる。	教本P185～232を予習しておく
32	(実技・ファントム実習) Ⅲ編 3章②歯面研磨・歯面 清掃 正常模型 上顎/下顎 キュレットスケーリング～PT C	ファントムを用いて、操作部位に応じた適切な器材が選択でき、またPTCが適切に操作できる。	教本P185～232を予習しておく
33	(実技・ファントム実習) Ⅲ編 3章①スケーリング 縁下スケーリング 上顎右側(エア)	①適切な超音波・エアスケーラーの操作ができる。 ②術式を理解しスムーズに操作ができる。	教本P185～232を予習しておく
34	(実技・ファントム実習) Ⅲ編 3章①スケーリング 縁下スケーリング 上顎左側(エア)	同上	教本P185～232を予習しておく
35	(実技・ファントム実習) Ⅲ編 3章①スケーリング 縁下スケーリング 下顎右側(エア)	同上	教本P185～232を予習しておく



回	授業計画	到達目標	準備学習
36	(実技・ファントム実習) Ⅲ編 3章①スケーリング 縁下スケーリング 下顎左側 (エア)	同上	教本P185～232を予習しておく
37	(相互実習) Ⅲ編 3章④フッ化物の応用⑤小窩裂溝充填 塞法 フッ化ジアンミン銀塗布実習・ラバーダム防湿使用小窩 裂溝充填塞法 示説・1人目	ラバーダム防湿及び小窩裂溝充填塞法・フッ化ジアン ミン銀塗布法について一連の術式を理解し、必 要な器材や材料の的確な取り扱い及び操作方法を 学ぶ。	教本P258～を予習して おく
38	(相互実習) Ⅲ編 3章④フッ化物の応用⑤小窩裂溝充填 塞法 フッ化ジアンミン銀塗布実習・ラバーダム防湿使用小窩 裂溝充填塞法 2人目・3人目	同上	教本P258～を予習して おく
39	(相互実習) Ⅲ編 3章①スケーリング②歯面研磨・歯 面清掃 エアスケーリング～PTC (上顎) 1人目	基礎実習とファントム実習で履修した技術によ り、患者・補助者・術者のそれぞれの立場での心 構えを持ち、模擬症例ごとに事前学習し対応法に ついてイメージトレーニングして臨むことができる。	教本P185～232を予 習しておく
40	(相互実習) Ⅲ編 3章①スケーリング②歯面研磨・歯 面清掃 エアスケーリング～PTC (上顎) 2人目	同上	教本P185～232を予 習しておく
41	(相互実習) Ⅲ編 3章①スケーリング②歯面研磨・歯 面清掃 エアスケーリング～PTC (上顎) 3人目	同上	教本P185～232を予 習しておく
42	(相互実習) Ⅲ編 3章①スケーリング②歯面研磨・歯 面清掃 超音波スケーリング～PTC (下顎) 1人目	同上	教本P185～232を予 習しておく
43	(相互実習) Ⅲ編 3章①スケーリング②歯面研磨・歯 面清掃 超音波スケーリング～PTC (下顎) 2人目	同上	教本P185～232を予 習しておく
44	(相互実習) Ⅲ編 3章①スケーリング②歯面研磨・歯 面清掃 超音波スケーリング～PTC (下顎) 3人目	同上	教本P185～232を予 習しておく
45	(講義) 歯周疾患の指数	口腔内の状態を評価するために、歯周疾患の状態 を数値化し、その変化を観察できる。	教本P158～を予習して おく
46	(講義) う蝕の指数 う蝕抑制効果評価とスクリーニング	口腔内の状態を評価するために、う蝕の状態を数 値化し、その変化を観察できる。 スクリーニング検査に使用する検査法の信頼性の 指標の説明ができる。 敏感度および特異度を計算できる。	教本P158～を予習して おく
47	(講義・演習) ダイヤグノテントペン取り扱い	カリエスの進行状態を数値化し、う蝕の状態を患 者にわかりやすく説明することができる。	事前に配布します
48	(講義) 歯周病に関連する検査 唾液などを検体とする 検査	①ペリオスクリーンを使用した歯周病に関連する 検査を実施することができる。 ②判定結果を正しく読み取ることができる。	教本P158～を予習して おく
49	(実技・ファントム実習) Ⅲ編 3章④フッ化物の応用 ⑤小窩裂溝充填塞法 ラバーダム使用小窩裂溝充填塞法・フッ化ジアンミン銀塗 布	ラバーダム防湿及び小窩裂溝充填塞法について術式 を理解し、必要な器材の取り扱い及び充填塞法を習 得する。	教本P258～を予習して おく
50	(演習) Ⅲ編 2章 ⑧分析のためのデータ 4. う蝕 に関する検査 う蝕活動性試験③	①齶蝕活動性試験の有効性、種類がわかり、正しい 操作でテストを行うことができる。 ②患者へ説明、予防するために情報の収集ができ る。 ③1年次の結果と比較することができる。	教本P158～を予習して おく
51	(講義・演習) 予防プログラム①う蝕カリオグラム	う蝕レーダーチャート、歯周病レーダーチャート に結果を入れ口腔内の問題点を読み取ることがで きる。	教本P158～を予習して おく
52	(講義・演習) 予防プログラム②歯周疾患	同上	教本P158～を予習して おく
53	小窩裂溝充填塞法総論・フッ化ジアンミン銀塗布法 まとめ練習問題	①小窩裂溝充填例法に関する知識の再確認ができる ②フッ化ジアンミン銀塗布法に関する知識の再確 認ができる	過去の配布資料を再度復 習しておく
54	(実技) Ⅲ編 2章 ③口腔内の情報収集 CPIプローブ操作・ファーケーションプローブ実習	①CPIプローブの目的を理解し、操作できる。 ②ファーケーションプローブの目的を理解し、操 作できる。	教本P133～を予習して おく
55	(講義) 歯科予防処置法 模擬試験 解説	①歯科予防処置に関する知識の再確認ができる ②修得できていない分野を確認することができる	過去の配布資料を再度復 習しておく



回	授業計画	到達目標	準備学習
56	(実技)Ⅱ編 3章 ②歯面研磨・歯面清掃 エアフローの取り扱い	口腔内に応じた適切な歯面研磨、歯面清掃を修得するための器械選択及び操作ができる。	教本P230～231を復習しておく
57	(実技)Ⅱ編 3章 ②歯面研磨・歯面清掃 エアフローの取り扱い	口腔内に応じた適切な歯面研磨、歯面清掃を修得するための器械選択及び操作ができる。	
58	保護者対面実習ロールプレイ①	保護者対面実習の要項に準ずる	保護者対面実習の要項に準ずる
59	保護者対面実習ロールプレイ②		
60	保護者対面実習ロールプレイ③		

基本情報

学科目名	歯科予防処置法Ⅰ	分野	専門分野〔歯科予防処置論〕					
履修学年・学期	3年 前後期	授業方式	講義/演習/実技	単位数	1単位	40時間	授業回数	15

講師名	大塚めぐみ	教員の 実務経験	歯科衛生士。全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士。本学院教務副主任。
授業との 関連性	全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士として、歯科予防処置法に係る基礎知識や予防技術、患者管理について講義・実習する。		
講師名	西口 真美	教員の 実務経験	歯科衛生士。全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士。本学院専任教員。
授業との 関連性	全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士として、歯科予防処置法に係る基礎知識や予防技術、患者管理について講義・実習する。		

詳細情報

授業目標	歯科衛生士という専門職としての実技能力を高めるために、今まで学んだ知識、技術を踏まえ、歯科衛生士業務についてさらに理解を深め、患者管理、予防業務の知識、技術を修得する。対象者の問題を科学的な思考をもって解決するために歯科衛生過程の基本的な考え方と展開する方法を修得する。									
成績評価 方法	定期試験	100点	小テスト レポート	/点	実技・発表 ワーク(演習) など	/点	受講態度	/点	合計	100点
	項目ごと実技試験 (学則) 合格点：60点以上とし、不合格の学科目は1回限り再試験を受けることができる。 追試験：学期試験を欠席した場合は1回限り追試験を受けることができる。 欠課：①開始20分以降の遅刻 ②終了20分以前の早退 ③同一学科目で遅刻及び早退を4回した者 受験を認めない要件：各学科目の授業時間数が3分の2に満たない者									
教科書名	①最新 歯科衛生士教本 「歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版」遠藤圭子著 他 医歯薬出版KK ②歯科衛生士臨床のすべて(ベーシックパート・クリニカルパート) ③歯科衛生士のための最新歯周病学 医歯薬出版KK									
参考文献	①歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 医歯薬出版株式会社 ②歯科衛生士のためのう蝕予防処置法 第2版 医歯薬出版株式会社 ③歯科衛生学シリーズ 保健生態学 医歯薬出版株式会社 ④歯科衛生学シリーズ 歯周病学 医歯薬出版株式会社 ⑤歯科衛生学シリーズ 歯科機器 医歯薬出版株式会社									
使用設備・備 品・準備物	当番は必要な準備物を授業開始3日前までに担当講師に確認をとること。									
履修上の 注意	①予習を必ず行い講義・実習に臨むこと。資料はMoodleから確認することができます。 ②授業の復習は必ず行うこと。 ③実習は身だしなみをきちんと整えた上で取り組むこと。 ④到達目標は履修状況において変更することがあります。									
回	授業計画				到達目標			準備学習		
1	(実技・ファントム実習)Ⅲ編 3章 ①スケーリング ②歯面研磨・歯面清掃 拡大鏡の取り扱い 拡大鏡使用SRP(ファントム実習)				①拡大鏡の取扱い方を理解する ②エキスプローリング、スケーリング、ルートフ レーニングまでの一連の操作がスムーズに行うこと ができる。 ③インスツルメントの管理ができる。			教本P186~232を復 習しておく		
2	(実技・ファントム実習)Ⅲ編 3章⑤小窩裂溝填塞法 ラバーダム使用小窩裂溝填塞法(復習)				ラバーダム防湿及び小窩裂溝填塞法について術式を 理解したうえで、必要な器材の取り扱い及び填塞を 実施できる。			教本P258~264を復 習しておく		
3	(実技・ファントム実習)Ⅲ編 3章②歯面研磨・歯面 清掃 上顎/下顎 PTC				①コードレスハンドピースをスムーズに操作するこ とができる。 ②器材の管理ができる。			教本P222~228を復 習しておく		
4	(実技・ファントム実習)Ⅲ編 2章 ③口腔内の情報 収集 ファークーションプローブ操作/シクルキュレットス ケーラー操作実習				①ファークーションプローブの目的を理解し、操作 できる。 ②歯石の沈着状態に合わせシクルスケーラー、 キュレットスケーラーの操作ができる			教本P165~167を復 習しておく		
5	(実技・ファントム実習)Ⅲ編 3章 ①スケーリング シャープニング・PTC				①手用スケーラーの操作方法、シャープニングにつ いて復習し自身の履修度を確認できる。 ①コントラハンドピースをスムーズに操作するこ とができる。 ②器材の管理ができる。			教本P202~209を復 習しておく		
6	(実技・ファントム実習)Ⅲ編 3章 ①スケーリング ②歯面研磨・歯面清掃 マナボットを使用したPTC				①対象者の口腔内に応じた清掃器材を使用するこ とができる ②動揺歯に注意しながら歯面清掃を行うことが できる			教本P186~232を復 習しておく		
7	(実技・ファントム実習)Ⅲ編 3章 ①スケーリング ②歯面研磨・歯面清掃 マナボットを使用したPTC				①対象者の口腔内に応じた清掃器材を使用するこ とができる ②動揺歯に注意しながら歯面清掃を行うことが できる			教本P186~232を復 習しておく		

回	授業計画	到達目標	準備学習
8	(実技・相互実習)Ⅲ編 3章 ①スケーリング ②歯面研磨・歯面清掃 スケーリング・PTC操作(一人バキューム) 示説・1人目	①機械的歯面清掃法の応用として、口腔内に応じた適切な器材を選択し、スケーリングとバキューム操作が一人で実施できる。 ②器材の使用目的を理解したうえで、ブラシを的確に歯面に当て染め出し部分を落とし、PTCをよりデリケートに操作できる。 ③インスツルメントの管理ができる。	教本P186～232を復習しておく
9	(実技・相互実習)Ⅲ編 3章 ①スケーリング ②歯面研磨・歯面清掃 スケーリング・PTC操作(一人バキューム) 2・3人目	①機械的歯面清掃法の応用として、口腔内に応じた適切な器材を選択し、スケーリングとバキューム操作が一人で実施できる。 ②器材の使用目的を理解したうえで、ブラシを的確に歯面に当て染め出し部分を落とし、PTCをよりデリケートに操作できる。 ③インスツルメントの管理ができる。	教本P186～232を復習しておく
10	(実技・相互実習)Ⅲ編 3章 ①スケーリング ②歯面研磨・歯面清掃 拡大鏡使用 ブローピング操作～スケーリング・PTC操作 示説・1人目	①ブローピング、スケーリング、PTCまでの一連の操作がスムーズに行うことができる。 ②器材の使用目的を理解したうえで、口腔内の状況に合わせてPTCをよりデリケートに操作できる。 ③インスツルメントの管理ができる。	教本P186～232を復習しておく
11	(実技・相互実習)Ⅲ編 3章 ①スケーリング ②歯面研磨・歯面清掃 拡大鏡使用 ブローピング操作～スケーリング・PTC操作 2・3人目	①ブローピング、スケーリング、PTCまでの一連の操作がスムーズに行うことができる。 ②器材の使用目的を理解したうえで、口腔内の状況に合わせてPTCをよりデリケートに操作できる。 ③インスツルメントの管理ができる。	教本P186～232を復習しておく
12	(実技・相互実習)Ⅲ編 3章 ②歯面研磨・歯面清掃 エアフロー(復習)1 染め出し/術者磨き・フロッシング操作/エアフロー操作(復習)	口腔内に応じた適切な歯面研磨、歯面清掃を修得するための器械選択及び操作ができる。	教本P230～231を復習しておく
13	(実技・相互実習)Ⅲ編 3章 ②歯面研磨・歯面清掃 エアフロー(復習)2 染め出し/術者磨き・フロッシング操作/エアフロー操作(復習)	口腔内に応じた適切な歯面研磨、歯面清掃を修得するための器械選択及び操作ができる。	教本P230～231を復習しておく
14	(実技)Ⅲ編 3章 ②歯面研磨・歯面清掃 エアフロー(復習)3 染め出し/術者磨き・フロッシング操作/エアフロー操作(復習)	口腔内に応じた適切な歯面研磨、歯面清掃を修得するための器械選択及び操作ができる。	教本P230～231を復習しておく
15	(模擬試験・講義) 歯科予防処置法 模擬試験解説	模擬試験にて、いままで学んだ内容の理解度を知る。	

基本情報

学科目名	保健指導法Ⅰ	分野	専門分野 [歯科保健指導論]			講師名	岩切 恵子	
履修学年・学期	1年 前後期	授業方式	講義/演習/実技	単位数	2単位	60時間	授業回数	30
教員の 実務経験	歯科衛生士。歯科衛生士。全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士。本学院次長。栄養コンシェルジュ二つ星。							
授業との 関連性	全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士として人の健康教育に係る保健指導の基礎知識、行動変容への関わりや技術について講義、演習する。また、栄養コンシェルジュ二つ星として健康づくりの為に食生活支援も行う。							

詳細情報

授業目標	歯科保健指導とは、個々の生活行動を健康維持増進に向かい保健行動へと変容させることである。卒業後において歯科衛生士として臨床及び地域歯科保健活動の中で対象者への適切な支援の実践ができるよう基礎知識、技術や健康に関する行動変容のあり方を学ぶ。また、自身の口腔健康管理も実践できるようにする。									
成績評価 方法	定期試験	90点	小テスト レポート	点	実技・発表 ワーク(演習) など	10点	受講態度	点	合計	100点
	*グループ学習評価10点満点(自己評価5点、他者評価5点)									
教科書名	(学則) 合格点：60点以上とし、不合格の学科目は1回限り再試験を受けることができる。 追試験：学期試験を欠席した場合は1回限り追試験を受けることができる。 欠課：①開始20分以降の遅刻 ②終了20分以前の早退 ③同一学科目で遅刻及び早退を4回した者 受験を認めない要件：各学科目の授業時間数が3分の2に満たない者									
	①歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論第2版」 遠藤圭子著他 医歯薬出版KK ②「オーラルヘルスケア事典」 麻賀多美代著 学建書院 ③歯科衛生学シリーズ「歯科衛生学総論」藤原愛子著 医歯薬出版KK									
参考文献	高齢者とのグッドコミュニケーション(中村千賀子) 歯ブラシ辞典(松田裕子) 歯科保健関係統計資料 その他、授業の中で紹介します。									
使用設備・備 品・準備物										
履修上の 注意	時間に余裕がある時は、確認小テストを実施するので毎回の復習を行うこと。 医療に関する話題は毎日チェックすること。 シラバスはあくまで予定であり、皆さんの理解度により変更もあります。									

回	授業計画	到達目標	準備学習	準備物
1	第1章 歯科保健指導の概要 1. 歯科保健指導の必要性 2. 歯科保健指導の定義 3. 歯科衛生士法による位置づけ 4. 健康教育、行動科学、行動変容とは何か。 5. 個人を対象とする歯科保健指導 6. 集団を対象とする歯科保健指導	1. 保健指導の必要性について説明できる。 2. 歯科保健指導が名称独占であることを説明できる。 3. 生活行動、保健行動、行動変容の言葉の意味を各々説明できる。 4. 個人を対象とする歯科保健指導を行うために必要な学びを理解できる。 5. 集団を対象とする歯科保健指導にどのような場面があるか説明できる。	配布プリントを読んでおく。	配布プリント
2	前回の復習 以下は他学科目でも履修する為簡単に触れる 1. 健康の概念(歯科衛生学にて履修済み) ①健康の定義 ②プライマリヘルスケア ③ヘルスプロモーション ④健康管理 2. 日本の健康推進施策 ①健康日本21 3. 予防の概念	1. WHOの健康の定義について説明できる。 2. プライマリヘルスケアについて説明できる。 3. ヘルスプロモーションの定義を説明できる。 4. 健康教育とヘルスプロモーションの違いを説明できる。 5. 口腔健康管理の概念を説明できる。 6. 口腔ケアと口腔健康管理の違いを説明できる。 7. 予防の概念について分類し説明できる。		配布プリント
3	4章 保健行動支援のための基礎知識 1. 行動変容に関連する理論 ①ICF国際生活機能分類 ②社会的認知理論(自己効力感) ③変化のステージモデル	1. ICFとICIDHの違いを説明できる。 2. 学習理論の3つの基本的要素を列記できる。 3. 社会的認知理論(自己効力感)とは何か説明できる。 4. 行動変容ステージを列記しそれぞれの意味を説明できる。	関連ページを読んでおく。	配布プリント 歯科衛生学総論
4	前回の行動科学の続き ④健康信念モデル ⑤マズローの欲求段階理論 ⑥認知行動療法	5. 健康信念モデルについて簡単に説明できる。 6. マズローの欲求段階理論について説明できる。 7. 認知行動療法について簡単に説明できる。	関連ページを読んでおく。	配布プリント

回	授業計画	到達目標	準備学習	準備物
5	※栄養素の役割、働き、消化吸収については栄養指導で履修する 1. 国民の健康課題 2. エネルギー、栄養素、食品摂取の変遷 3. 近年の食生活の特徴4.食品とう蝕誘発性 4. う蝕予防のための食品の摂取方法	1. 食生活・食習慣の背景を知り現代の問題点を説明できる。 2. 国民のエネルギー、栄養素の摂取変化について簡単に説明できる。 3. 近年の食生活の特徴(問題点)について説明できる。 4. う蝕が生活習慣病である理由を説明できる。 5. しょ糖とう蝕の関係について説明できる。 6. 食品のう蝕誘発性を示す指数について説明できる。 7. う蝕予防のための食品摂取方法を説明できる。	関連ページを読んでおく。	
6	1. 歯周病と食生活 2. 酸蝕症と食生活 3. 咀嚼と食品 4. 特別用途食品と保健機能食品	1. 歯周病患者へ食事摂取の指導内容を列記できる。 2. 酸蝕症患者への食事摂取の指導内容を列記できる。 3. 咀嚼の目的、効用について説明できる。 4. 「特別用途食品」「保健機能食品」「歯に信頼マーク」とは何か説明できる。		
7	Ⅲ編 2章 ブラーク 歯垢染色法 ①歯垢染色剤の使用法と特徴 ②歯垢染色剤の所要条件 ③色素の種類 分析のためのデータ 1. 指標 口腔衛生状態の指標 ①PCR	1. 歯垢染色剤の使用目的について説明できる。 2. 歯垢染色剤の使用法と特徴を列記できる。 3. 歯垢染色剤の所要条件を列挙し種類について分類列記できる。 4. 染色時の注意事項を説明できる。 1. (PCR)オレリーのブラークコントロールレコードの特徴を理解する。 2. PCRの判定基準、計算方法を列記することができる。 3. 判定時の注意点を述べることができる。		配布プリント 歯ブラシポーチ 染色剤、綿棒、アルミカップ、リップクリーム エプロン、赤鉛筆、ティッシュ
8	1.(PCR)O'Learyのブラークコントロールレコード (演習)	(PCR演習時) 1. 自身の口腔内染色が正確にできる。 2. PCRの記録及び評価が適切にできる。 3. 評価に基づき自身の口腔清掃の反省点を改善することができる。		配布プリント 歯ブラシポーチ
9	1.各自歯垢染色後PCRによる記録 ②OHI (DI CI) OHIに関する練習問題	1. OHIとは何か説明できる。 2. OHI-DIとOHI-CIの違いを説明できる。 3. ブラークと歯石の判定基準をそれぞれ述べることができる。 4. OHIの計算方法を修得する。 5. 練習問題を正確に解くことができる。		配布プリント
10	③OHI-S (DI-S・CI-S) ④その他の指標	1. OHI-Sとは何か説明できる。 2. OHI-SとOHIの違いを説明することができる。 3. OHI-Sの対象歯を列記することができる。 4. OHI-Sの計算方法を説明できる。 5. 自身が作成したOHIの練習問題を正確に解くことができる。 6. その他主な指標の目的と概要を説明できる。	OHIについて復習しておく。	配布プリント
11	4章 歯科衛生介入としての歯科保健指導 1. 口腔衛生管理に関わる指導 ブラッシング (1)歯ブラシ ①手用ブラシの構造 ②毛先の形状と適応例 ③歯ブラシの毛の硬さに影響する因子 ④理想的な歯ブラシの具備すべき条件 ⑤歯ブラシの管理と交換時期	1. 歯ブラシの各部の名称が言える。 2. 歯ブラシの特徴、利点、欠点を知る。 3. 刷毛の種類と利点、欠点を説明できる。 4. 毛先の硬さに影響する因子を列記できる。 5. 理想的な歯ブラシの具備すべき条件を説明できる。 6. 歯ブラシ使用後の管理について説明ができる。 7. 歯ブラシの交換時期について説明できる。		歯ブラシポーチ 顎模型
12	ブラッシングの方法 2. 歯ブラシの把持法 3. 各種ブラッシング法 毛先を使う方法と脇腹を使う方法 4. 適切な歯磨き圧について説明できる。 5. 毛先を使う方法Ⅰ ①水平法 ②垂直法 ③スクラッピング法 ④フォーンズ法 ⑤1歯ずつの縦磨き法 ⑥バス法	1. ブラッシングの特徴に応じた歯ブラシの持ち方がわかる。 2. 歯ブラシの毛先と脇腹を用いたブラッシング法を列記できる。 3. 適切な歯磨き圧について説明できる。 4. 毛先を使う各種ブラッシング法と適応症を説明できる。		歯ブラシポーチ 顎模型
13	脇腹を使う方法 ①ローリング法 ②バス改良法 ③スティルマン法 ④チャーターズ法 総まとめ	1. 脇腹を使う各種ブラッシング法と適応症を説明できる。		歯ブラシポーチ 顎模型
14	その他の清掃方法 1. 補助清掃用具について 【グループ学習1回目】 ①電動歯ブラシ・音波ブラシ・超音波ブラシ ②デンタルフロス ③ジェット水流洗口機 ④インターデンタルブラシ ⑤舌ブラシ ⑥義歯ブラシ・義歯清掃剤 ⑦タフトブラシ ⑧スポンジブラシ・巻綿子 ⑨吸引機能付き歯ブラシ	各種補助清掃用具についてのグループ学習 1. 班員と積極的に協力し与えられた課題について限られた時間内で理解しながら資料を作成することができる。 2. 各種清掃用具(剤)の特徴と使用目的を説明することができる。 3. 症例と各種清掃用具を用いた清掃効果について理解する。 4. 各種清掃補助用具の使用法が説明でき、適切に実践できる。		配布プリント



回	授業計画	到達目標	準備学習	準備物
15	1. 補助清掃用具について【グループ学習2回目】 ①電動歯ブラシ・音波ブラシ・超音波ブラシ ②デンタルフロス ③ジェット水流洗口機 ④インターデンタルブラシ ⑤舌ブラシ ⑥義歯ブラシ ⑦タフトブラシ ⑧スポンジブラシ・巻綿子 ⑨吸引機能付き歯ブラシ	各種補助清掃用具についてのグループ学習 1. 班員と積極的に協力し与えられた課題について限られた時間内で理解しながら資料を作成することができる。 2. 各種清掃用具(剤)の特徴と使用目的を説明することができる。 3. 症例と各種清掃用具を用いた清掃効果について理解する。 4. 各種清掃補助用具の使用方法が説明でき、適切に実践できる。		配布プリント
16	1. 補助清掃用具について【グループ学習3回目】 ①電動歯ブラシ・音波ブラシ・超音波ブラシ ②デンタルフロス ③ジェット水流洗口機 ④インターデンタルブラシ ⑤舌ブラシ ⑥義歯ブラシ ⑦タフトブラシ ⑧スポンジブラシ・巻綿子 ⑨吸引機能付き歯ブラシ	各種補助清掃用具についてのグループ学習 1. 班員と積極的に協力し与えられた課題について限られた時間内で理解しながら資料を作成することができる。 2. 各種清掃用具(剤)の特徴と使用目的を説明することができる。 3. 症例と各種清掃用具を用いた清掃効果について理解する。 4. 各種清掃補助用具の使用方法が説明でき、適切に実践できる。		配布プリント
17	その他の清掃方法 1. 補助清掃用具について【発表1回目】 ①電動歯ブラシ・音波ブラシ・超音波ブラシ ②デンタルフロス ③ジェット水流洗口機	課題として与えられた補助清掃用具について、特徴、使用目的、使用方法、使用時の注意点などを解り易く説明することができる。(発表20分、質疑10分)	自身の担当を確認し、棒読みにならず説明できるように事前に発表練習を行なう。	配布冊子
18	その他の清掃方法 補助清掃用具について【発表2回目】 ④インターデンタルブラシ ⑤舌ブラシ ⑥義歯ブラシ	課題として与えられた補助清掃用具について、特徴、使用目的、使用方法、使用時の注意点などを解り易く説明することができる。(発表20分、質疑10分)	自身の担当を確認し、棒読みにならず説明できるように事前に発表練習を行なう。	配布冊子
19	その他の清掃方法 補助清掃用具について【発表3回目】 ⑦タフトブラシ ⑧スポンジブラシ・巻綿子 ⑨吸引機能付き歯ブラシ	1. 課題として与えられた補助清掃用具について、特徴、使用目的、使用方法、使用時の注意点などを解り易く説明することができる。(発表20分、質疑10分) 2. 質問を受け適切に答えられなかった質問事項の理解ができ、補足の説明ができる。 3. 教員による質疑、補足説明、復習を受けることで補助清掃用具の理解を深めることができる。	自身の担当を確認し、棒読みにならず説明できるように事前に発表練習を行なう。	配布冊子
20	2. 補助清掃用具についてのまとめ 復習問題を活用	1. 補助清掃用具について分からなかったところの理解を深めることができる。		配布冊子 復習問題
21	Ⅳ編 1章 ライフステージに対応した歯科衛生介入Ⅰ 1. 生涯を通じた歯科保健対策の概要 2. 妊産婦期における歯科衛生介入 ①一般的特徴 ②口腔の特徴	1. 生涯を通じた歯科保健サービスを理解するため、各対象に応じた歯科的特徴、歯科的問題を列記できる。 2. 生涯を通じた歯科保健サービスにおいて行政が関わる具体策や実施のねらいを知る。 3. 妊産婦期における一般的特徴を列記できる。 4. 妊産婦期における口腔の特徴を説明できる。		
22	ライフステージに対応した歯科衛生介入Ⅰ 2. 妊産婦期における歯科衛生介入 ③歯科衛生介入 ④栄養指導	1. 妊産婦期におけるプロフェッショナルの目標を学び実践に生かすことができる。 2. 妊娠初期、中期、後期の母体の変化や目標、対策について知る。 3. つわりの症状がある時の口腔清掃のポイントを学び説明できる。 4. 妊産婦期の栄養管理について学ぶ。		
23	1. 新生児、乳児期における歯科衛生介入 ①一般的特徴 ②口腔の特徴 ③歯科衛生介入	1. 乳児期の主な身体的発育について年齢と特徴を列記できる。 2. 乳児期の口腔内状況について年齢と特徴、歯の萌出部位を列記できる。 3. 乳児期の歯科衛生介入についてプロフェッショナルケアの目標を学び、指導に生かすことができる。		配布プリント
24	1. 幼児期における歯科衛生介入 ④月齢ごとの口腔内特徴と歯科衛生介入 ⑤乳幼児の栄養 ・離乳食と口腔機能の発達 ⑥各成長期における口腔清掃方法、注意点	1. 各成長期における口腔内の特徴と歯科衛生指導のポイントを合わせて説明できる。 2. 離乳食進め方と口腔の動きの変化を結びつけて説明できる。 3. 食行動と食機能の発達について説明できる。		配布プリント
25	2. 幼児期における歯科衛生介入 ⑦1歳6か月健康診査における保健指導 ⑧3歳児健康診査における保健指導 <①>P131～ 虐待について	1. 1歳6か月歯科健康診査と口腔保健指導の内容を知り実践に生かすことができる。 2. 3歳児歯科健康診査と口腔保健指導の内容を知り実践に生かすことができる。 3. 虐待の種類と内容、通報先を説明できる。 4. 虐待の防止について対策を挙げるができる。		配布プリント

回	授業計画	到達目標	準備学習	準備物
26	学童期の歯科保健指導	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学童期の身体の発達を説明できる。</li> <li>2. 学校保健制度の概要について理解し、歯科衛生士の役割、活動場面を把握する。</li> <li>3. 学童期における口腔内の状況をまとめ説明できる。</li> <li>4. 学童期の歯科保健指導のポイントをまとめ説明できる。</li> </ol>		配布プリント
27	青年期の歯科保健指導	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 青年期の一般的特徴を説明できる。</li> <li>2. 青年期の口腔の特徴を説明できる。</li> <li>3. 青年期の歯科保健指導のポイントについて説明できる。</li> </ol>		
28	1.成人期の歯科保健指導 歯科的な問題 歯周疾患のある患者への歯科保健指導	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 成人期の生活の背景を理解する。</li> <li>2. 口腔内の特徴を述べることができる。</li> <li>3. 歯周疾患患者への介入について概要を簡単に説明できる。</li> </ol>		配布プリント
29	2.成人期の歯科保健指導 各口腔内にあった歯科保健指導 禁煙指導P297～	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各種補綴物にあった歯科保健指導のポイントが説明できる。</li> <li>2. 喫煙者の健康被害を説明できる。</li> <li>3. 喫煙者の口腔内の特徴を説明できる。</li> <li>4. 禁煙外来の介入の流れを簡単に説明できる。</li> <li>5. 禁煙ステージごとの対応が説明できる。</li> </ol>		配布プリント
30	対象別保健指導 成人期の歯科保健指導 禁煙指導	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 禁煙指導の必要性について説明できる。</li> <li>2. 喫煙者の口腔に現れる状態を説明できる。</li> <li>3. 禁煙指導の進め方について知る。</li> <li>4. 口腔清掃指導と禁煙サポートについて説明できる。</li> <li>5. 歯科衛生士が行う禁煙指導を想定し実践に結び付けることができる。</li> </ol>	教本の禁煙指導に関するページを読んでおく。	配布資料

# 令和6年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

## 基本情報

学科目名	保健指導法Ⅱ		分野	専門分野〔歯科保健指導論〕			講師名	岩切 恵子	
履修学年・学期	2年	前後期	授業方式	講義/演習	単位数	1単位	30時間	授業回数	15
教員の 実務経験	歯科衛生士。全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士 本学院次長								
授業との 関連性	全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士として人の健康教育に係る保健指導の基礎知識、行動変容への関わりや技術について講義、演習する								

## 詳細情報

授業目標	歯科保健指導とは、個々の生活行動を健康維持増進に向かい変容させることである。卒業後において歯科衛生士として臨床及び公衆衛生活動の中で対象者に寄り添った適切な支援等ができるよう基礎知識、技術を学ぶ。また、2年次は特に超高齢社会における歯科医療の重要性や多様な全身疾患を持った高齢者、介護を要する対象者への係わり方や健康に関する行動変容への指導を学ぶ。また、自身の口腔内でも口腔管理ができるようになる。									
成績評価 方法	前期定期試験	100点	小テスト		実技・発表 ワーク(演習) など	5点	受講態度		合計	100点
	後期定期試験	95点	レポート						100点	
*後期試験のみグループ内他者評価5点満点を加算										
(学別) 合格点：60点以上とし、不合格の学科目は1回限り再試験を受けることができる 追試験：学期試験を欠席した場合は1回限り追試験を受けることができる 欠課：①開始20分以降の遅刻 ②終了20分以前の早退 ③同一学科目で遅刻及び早退を4回した者 受験を認めない要件：各学科目の授業時間数が3分の2に満たない者										
教科書名	授業計画に記載されている教本は以下番号の書籍を示す ①歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」 遠藤圭子著 他 医歯薬出版KK ②「オーラルヘルスクエア事典」 麻賀多美代著 学建書院 ③「歯科衛生士のための全身疾患マニュアル」 橋本賢二他 医歯薬出版KK									
参考文献	①高齢者とのグッドコミュニケーション 中村千賀子 著 ②歯科保健関係統計資料									
使用設備・備 品・準備物	その都度、当番に指示をします									
履修上の 注意	医療に関する話題は毎日チェックする シラバスはあくまで予定であり皆さんの理解度により変更もあります									

回	授業計画	到達目標	準備学習	準備物
1	Ⅳ編1章 対象別の歯科衛生介入 老年期の歯科保健指導 老年期の身体的、口腔の特徴 老年期の歯科衛生介入 老年期の食生活の特徴と栄養、食生活指導	1. 清潔な口腔が何故QOLに繋がるのか説明できる。 2. 高齢者の身体的特徴や口腔の特徴について説明できる。		
2	Ⅳ編1章 対象別の歯科衛生介入の続き 老年期の歯科衛生介入 口腔乾燥症、 口腔健康管理	1. 口腔乾燥症の要因や対処法を説明できる。 2. 口腔乾燥症の対処としての唾液腺マッサージについて説明、指導ができる。 3. 老年期の口腔健康管理のポイントと注意点を説明できる。		
3	全身疾患と口腔健康管理 疾患の学習1 ①脳血管疾患 ②虚血性心疾患 ③高血圧症 ④骨粗しょう症とBP製剤	1. 各疾患の概要と口腔健康管理上のポイントを説明できる。	教本「歯科衛生士のための全身疾患マニュアル」の関連疾患を読んでおく	
4	全身疾患と口腔健康管理 疾患の学習2 ⑤認知症 ⑥糖尿病 ⑦パーキンソン病 など	1. 各疾患の概要と口腔健康管理上のポイントを説明できる。	教本「歯科衛生士のための全身疾患マニュアル」の関連疾患を読んでおく	
5	症別別口腔衛生指導 グループ学習1 ①脳血管疾患等による片麻痺などで 上手に磨くことができない方 ②認知症患者 ③がん患者 ④口腔機能の低下している方 (口腔乾燥症患者を含む) ⑤出血傾向のある方 ⑥口腔カンジダ症患者 ⑦矯正治療中の方 ⑧インプラント装着の方	1. 学習の目的を理解しまとめる項目を理解する。 2. 各症状を持つ患者への具体的な対応、口腔清掃指導方法がわかる。 3. 指導上特に注意しなければならない点を説明できる。 4. 各症例について理解を深める。	各自、グループ学習に必要な書籍を読み持参する	自身がグループにて学習する疾患に関する書籍
6	症別別口腔衛生指導 グループ学習2 同上のグループにて調べ学習	1. 各症状を持つ患者への具体的な対応、口腔清掃指導方法がわかる。 2. 指導上特に注意しなければならない点を説明できる。 3. 各症例について理解を深める。	各自、グループ学習に必要な書籍を読み持参する	自身がグループにて学習する疾患に関する書籍

回	授業計画	到達目標	準備学習	準備物
7	症例別口腔衛生指導 グループ学習3 同上のグループにて調べ学習	1. 各症状を持つ患者への具体的な対応、口腔清掃指導方法がわかる。 2. 指導上特に注意しなければならない点を説明できる。 3. 各症例について理解を深める。	各自、グループ学習に必要な書籍を読み持参する	自身がグループにて学習する疾患に関する書籍
8	症例別口腔衛生指導 グループ学習発表、質疑応答1	1. 他の班が調べた症状の患者についても具体的な口腔清掃指導を説明できる。 2. 指導上の注意点がわかる。	発表を予定している班の資料を読んでおく	配布テキスト
9	症例別口腔衛生指導 グループ学習発表、質疑応答2	1. 他の班が調べた症状の患者についても具体的な口腔清掃指導を説明できる。 2. 指導上の注意点がわかる。	発表を予定している班の資料を読んでおく	配布テキスト
10	症例別口腔衛生指導 グループ学習発表、質疑応答3	1. 他の班が調べた症状の患者についても具体的な口腔清掃指導を説明できる。 2. 指導上の注意点がわかる。	発表を予定している班の資料を読んでおく	配布テキスト
11	症例別口腔健康管理のまとめ	1. これまで学習した全身疾患や症状別の口腔健康管理について重要なポイントが理解できる。		配布テキスト 配布練習問題
12	周術期の口腔健康管理1	1. がんの基本的な知識を理解する。 2. がんの治療法について簡単に説明できる。 3. がん治療患者の口腔内に現れる症状について説明できる。		配布テキスト
13	周術期の口腔健康管理2 全身疾患に関わる口腔健康管理のまとめ ・国試対策のための練習問題の解説	4. 口腔健康管理について方法と注意点を説明できる。 1. 全身疾患について練習問題を解きながらそれぞれの疾患と口腔健康管理について再確認ができる。		配布テキスト
14	医療面接Ⅰ 問診と医療面接についての概要 模擬患者役の設定を検討	1. 問診と医療面接の違い、目的について説明できる。 2. 開放型質問、中間型質問、閉鎖型質問について説明できる。 3. 医療面接の流れについて説明できる。 4. 医療面接時の注意点について説明できる。 5. 自身が模擬患者役をする時の設定を適切に作成できる。	教科書の関連ページを読んでおく	配布資料
15	医療面接Ⅱ 模擬患者による医療面接	1. 患者が話しやすい雰囲気をつくることができる。 2. 医療面接の流れを実践することができる。 3. 適切な誘導、座位の指示ができる。 4. インタビューの際、開放型質問、中間型質問、閉鎖型質問を適宜活用することができる。 5. 患者の主訴や伝えたいことを正確に把握、記録ができる。		配布資料

基本情報

学科目名	保健指導法Ⅲ	分野	専門分野〔歯科保健指導論〕					
履修学年・学期	3年 前期	授業方式	講義/演習	単位数	1単位	30時間	授業回数	15
講師名	佐藤 成美	教員の 実務経験	熊本市歯会在宅訪問歯科衛生士を経て、歯科診療所訪問歯科衛生士として勤務。					
授業との 関連性	熊本市歯会在宅訪問歯科衛生士として長年活躍し、また現在も歯科診療所にて訪問歯科衛生士として実践している経験を踏まえ、訪問歯科の法的根拠や手法、注意点を講義、演習する。							
講師名	岩切 恵子	教員の 実務経験	歯科衛生士。歯科衛生士。全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士。本学院次長。栄養コンシェルジュ二つ星。					
授業との 関連性	全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士として人の健康教育に係る保健指導の基礎知識、行動変容への関わりや技術について講義、演習する。また、栄養コンシェルジュ二つ星として健康づくりの為に食生活支援も行う。							
講師名	野中友紀子	教員の 実務経験	歯科衛生士。全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士。同教育委員。本学院教務主任。					
授業との 関連性	歯科衛生士としての臨床経験や全国歯科衛生士教育協議会認定歯科衛生士専任教員、また教育委員としての指導経験をとおして、歯科衛生活動を展開するための歯科衛生過程の講義と演習を行う。							

詳細情報

授業目標	歯科保健指導とは、個々の生活行動を健康維持増進に向かい変容させることである。卒業後において歯科衛生士として臨床及び公衆衛生活動において対象者への適切な支援や介入ができるよう基礎知識、技術を学び、健康に関する行動変容への指導を学ぶ。また歯科衛生過程の学習においては、口腔保健の視点から、予防歯科や健康増進を図るため、科学的根拠に基づいた知識や技術を応用し、情報の収集から解釈分析を行い、それを基に歯科衛生介入計画を立案でき実践することができるようになる。また実践したことの最終的評価を行うことを学ぶ。									
成績評価方法	定期試験	岩切50点 野中30点 佐藤20点	小テスト レポート	点	実技・発表 ワーク(演習) など	点	受講態度	点	合計	100点
	(学則) 合格点：60点以上とし、不合格の学科目は1回限り再試験を受けることができる。 追試験：学期試験を欠席した場合は1回限り追試験を受けることができる。 欠課：①開始20分以降の遅刻 ②終了20分以前の早退 ③同一学科目で遅刻及び早退を4回した者 受験を認めない要件：各学科目の授業時間数が3分の2に満たない者 (減点対象) 事由無き提出物の提出遅れは減点対象となります。									
教科書名	歯科衛生学シリーズ「高齢者歯科学」 秋山正子著他 医歯薬出版KK 最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論」 遠藤圭子著 他 医歯薬出版KK 「よくわかる歯科衛生過程」全国歯科衛生教育協議会編 医歯薬出版KK オーラルヘルスケア事典 麻賀多美代著 学建書院 最新歯科衛生士教本「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学第3版」 可児徳子著 他 医歯薬出版KK									
参考文献	口腔保健管理 可児徳子著 医歯薬出版KK 歯科衛生ケアプロセス 佐藤陽子著 医歯薬出版KK 事例でわかる歯科衛生過程 全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版KK									
使用設備・備品・準備物	(野中) PC、液晶プロジェクター、1、2年次歯科衛生学配布資料、各班入力用パソコン数台 (佐藤) 演習に必要な材料はその都度伝達します。忘れず準備してください。									
履修上の注意	演習は白衣着用。実習にふさわしい身だしなみを徹底してください。									
回	授業計画				到達目標			準備学習		準備物
1	(岩切恵子) 個人保健指導 1年生への口腔衛生指導の概要説明 対象者指導のための計画立案				1.対象者への口腔衛生指導の概要を知る。 2.自身の役割分担を確認する。 3.対象者に応じた指導計画を立案できる。					オリエンテーション資料 配布冊子
2	(野中友紀子) 歯科衛生過程(情報処理)演習1				1.個人の歯科衛生アセスメントから歯科衛生診断までをクリティカル思考をもって見直すことができる。 2.班内で自身の意見を述べるができる。 3.他者のアセスメント内容に対してクリティカル思考で意見を述べるができる。					
3	(岩切恵子) 配慮を要する者への歯科衛生介入要介護者 1.一般的特徴 ・障害高齢者の日常生活自立度判定基準 ・認知症高齢者の日常生活自立度判定基準 2.口腔の特徴 3.口腔健康管理 ・改訂BDR指標 ・体位の設定 ・ポイントと留意点 ・食生活指導				1.高齢者の一般的特徴、口腔内の特徴を説明できる。 2.障害高齢者の日常生活自立度判定基準を説明できる。 3.認知症高齢者の日常生活自立度判定基準を説明できる。 4.改訂BDR指標を説明できる。 5.要介護高齢者の口腔清掃時の体位やケアの方法、注意を説明できる。 6.高齢者・要介護高齢者への食指導のポイントを説明できる。					
4	(岩切恵子) 要介護者への口腔健康管理2 地域包括ケアシステム 介護予防(口腔機能の維持・向上) 高齢者・要介護高齢者への保健指導まとめ				1.地域包括ケアシステムの概要と歯科衛生士の役割を説明できる。 2.口腔機能低下症の診断と評価を説明できる。 3.口腔機能低下症に対する指導を簡単に説明できる。 4.高齢者及び介護の必要な方への基礎知識及び保健指導に係る重要な点を練習問題を解きながら再確認をすることができる。					教本 歯科衛生学 総論



5	(佐藤成美) 訪問における歯科衛生士の役割 訪問歯科衛生士の現場 口腔ケア用具の種類と使用法 基本口腔ケア手順 演習症例①～④の説明宿題内容	訪問時における歯科衛生士の役割を理解することができる 口腔のケア用具の種類・使用法を理解することができる 演習症例①～④の内容を理解することができる。	症例①～④のケア用品、注意点の宿題プリント	
6	(佐藤成美・岩切恵子) 症例別口腔ケア演習Ⅰ  O2階ユニット 【マナボットのケア・相互実習】(A班) [症例①] 動揺歯、義歯あり、口腔清掃不良 [演習] 脱感作法 スポンジブラシの使用法  O教室 【車椅子又は座位相互実習】(B班) [症例②]脳梗塞後遺症右麻痺認知症開口困難	各症例の目的に応じた口腔のケアの方法を理解することができる [症例①] 動揺歯が抜けないように、義歯を着脱し、食渣を除去することができる [演習] 利用者の立場で脱感作を体験し、手技を理解することができる。スポンジブラシの使用法で、清拭、ストレッチ法を習得することができる [症例②] 車椅子・座位での不安定を支え、開口困難に対応しながらケアをすることができる。頬に医療用テープを張り、麻痺で開口保持の困難さを理解することができる。	・症例①②宿題プリント ・スポンジブラシ使用法資料 ・義歯着脱注意資料 ・脱感作法資料	白衣着用
7	(佐藤成美・岩切恵子) 症例別口腔ケア演習Ⅰ  O2階ユニット 【マナボットのケア・相互実習】(B班) [症例①] 動揺歯、義歯あり、口腔清掃不良 [演習] 脱感作法 スポンジブラシの使用法  O教室 【車椅子又は座位相互実習ケア】(A班) [症例②]脳梗塞後遺症右麻痺認知症開口困難	同上	同上	白衣着用
8	(佐藤成美・岩切恵子) 症例別口腔ケア演習Ⅱ  O2階ユニット【看取り相互実習】(A班) [症例③] 癌治療看取り快楽を追求したケア  O教室 【ベッド寝たきり相互実習】(B班) [症例④] 脳血管障害片麻痺廃用症候群寝たきり	各症例の目的に応じた口腔のケアの方法を理解することができる [症例③]癌治療看取りの方に対し、メンタル、過敏粘膜等に考慮したケアをすることができる [症例④]仰臥位で寝たきりの方を、毛布で側臥位安定させ、疲れにくく、誤嚥予防に考慮した体位を作ることができる。乾燥痲痺を体験し、ケアすることができる。巻綿子・スポンジブラシで細目に汚水を取り、誤嚥予防しながらケアをすることができる	症例③④宿題プリント	白衣着用
9	(佐藤成美・岩切恵子) 症例別口腔ケア演習Ⅱ  O2階ユニット【看取り相互実習】(B班) [症例③] 癌治療看取り快楽を追求したケア  O教室 【ベッド寝たきり相互実習】(A班) [症例④] 脳血管障害片麻痺廃用症候群寝たきり	同上	同上	白衣着用
10	(野中友紀子) 歯科衛生過程(目標立案)演習2	1. 歯科衛生アセスメントから歯科衛生診断までをクリティカル思考をもって見直し、自身の意見を述べることができる。 2. 診断句にもとづいた長期目標を立案することができる。 3. 原因句にもとづいた短期目標を立案することができる。 4. 職員と協調しながら目標の立案ができる。		
11	(佐藤成美) 演習各症例の振り返りまとめ	各症例の目的に応じた口腔のケアの演習を振り返り、各演習における反省、課題、注意することを理解することができる。	症例①～④宿題プリント 他配布資料	
12	(野中友紀子) 歯科衛生過程(歯科衛生介入)演習3	1. 歯科衛生計画立案内容に基づいた必要器材を準備することができる。 2. 歯科衛生教育内容に応じた媒体を作成し準備することができる。 3. 歯科衛生介入の流れ一覧を完成し提出することができる。 4. ロールプレイの前準備が適切にできる。		
13	(野中友紀子) 歯科衛生過程(歯科衛生評価)演習4	1. 歯科衛生介入後の評価を実施することができる。 2. 歯科衛生計画内容を再検討することができる。 3. 対象者の満足度を評価することができる。 4. 目標達成度を評価することができる。 5. 実施した内容を歯科衛生士の視点で総合評価することができる。		
14	(野中友紀子) 歯科衛生過程(歯科衛生評価)演習5	1. 歯科衛生介入後の評価をもとに歯科衛生計画を再計画することができる。 2. クリティカル思考にてより根拠のある歯科衛生介入内容を検討することができる。		
15	(野中友紀子) 歯科衛生過程(症例発表)演習6	1. アセスメントおよび介入した計画から評価、再計画までを班の皆と協力しわかり易い発表シナリオを作成することができる。		

令和6年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

基本情報

学科名	地域歯科保健指導法Ⅰ	分野	専門分野 [歯科保健指導論]			講師名	岩切恵子 他専任教員		
履修学年・学期	1年 後期	授業方式	講義/演習	単位数	2単位	30時間	授業回数	15回	
教員の 実務経験	全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士として、地域歯科保健の場面や介入の計画立案の手法について講義、演習をする								
授業との 関連性	全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士として人の健康教育に係る保健指導の基礎知識、行動変容への関わりや技術について講義、演習する								

詳細情報

授業目標	地域歯科保健とは何かを理解し、歯科衛生士が専門職として係わる場面と効果的な活動内容を把握する。また、一つの場面である幼稚園での集団指導を行うにあたり、各年齢別にシナリオや効果的な媒体を考え皆で協力し作成することができるようになる。									
成績評価 方法	定期試験	90点	小テスト レポート	点	実技・発表 ワーク(演習) など	10点	受講態度	点	合計	100点
	※グループ学習評価10点(グループ発表評価5点、他者評価5点)									
教科書名	(学則) 合格点：60点以上とし、不合格の学科目は1回限り再試験を受けることができる。 追試験：学期試験を欠席した場合は1回限り追試験を受けることができる。 欠課：①開始20分以降の遅刻 ②終了20分以前の早退 ③同一学科目で遅刻及び早退を4回した者 受験を認めない要件：各科目の授業時間数が3分の2に満たない者									
	①最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論」 遠藤圭子著 他 著 医歯薬出版 ②「オーラルヘルスクエア事典」 麻賀多美代著 学建書院 ③「歯科衛生士国家試験ポイントチェック2」医歯薬出版株式会社 ④「歯科衛生士国家試験ポイントチェック5」医歯薬出版株式会社									
参考文献	必要に応じ授業中に紹介する									
使用設備・備 品・準備物	各回、当番に事前に連絡をする									
履修上の 注意	幼稚園口腔衛生指導のシナリオや媒体作製時では積極的に発言し、班員皆と協力しシナリオや媒体を完成させる									
回	授業計画			到達目標			準備学習		準備物	
1	地域歯科保健活動における健康教育 1. 健康教育の概要 ①目標 ②事業として行われる健康教育 2. 健康教育の進め方 3. 健康教育の方法 4. 健康教育の評価			1. 集団指導を行う場面と法的根拠を説明できる。 2. 実際の指導対象者と指導の考え方を把握できる。 3. PDCAサイクルを説明できる。 4. 健康教育の評価の種類を説明できる。					教本①②③④	
2	地域歯科保健活動のフィールド 1. 保育園、幼稚園における健康教育 2. 学校における健康教育 3. 事業所における健康教育 ①特定健康診査・特定保健指導 4. 保健所・市町村保健センター ①介護予防事業 過去の国家試験問題を解き復習を行う			1. 各々の場面での歯科保健活動の目標や内容を理解する。 2. 発達段階に合わせた歯、口の健康づくりのねらいの要点をそれぞれ説明できる。 3. 特定健診、特定保健指導について説明できる。 4. 介護予防事業における歯科衛生士の役割を説明できる。 5. 過去の国家試験問題を解き解説を受けながら重要な事項を確認できる。					教本①②③④ ・地域歯科保健活動練習問題	
3	集団指導オリエンテーション 幼稚園実習概要 各クラスの指導目的 指導原稿案、媒体作製の手順			1. 指導原稿案、媒体作製について個々の役割を把握することができる。 2. シナリオ班、媒体班の班分けを行いそれぞれで案を検討することができる。 3. 自身の役割を把握し検討することができる。 4. 幼稚園実習のための原稿、媒体作成の目的を認識し協力しながら適切な提案ができる。			幼稚園児保健指導に用いる媒体のキャラクターを調べておく。		配布プリント ・幼稚園オリエンテーション資料	
4	集団指導法 各担当分野での検討 シナリオ作成① 媒体作製①			1. 班長を中心に、対象園児に応じたシナリオ案、使用する媒体作製について班員で検討し案を作成することができる。 2. それぞれ検討した内容について専任に随時報告し指示を仰ぎ改善することができる。					・幼稚園オリエンテーション資料 ・各班必要に応じて参考絵本など ・各年齢別配布資料	
5	集団指導法 各担当分野での検討 シナリオ作成② 媒体作製②			同上					同上	
6	集団指導法 各担当分野での検討 シナリオ作成③ 媒体作製③			同上					同上	

回	授業計画	到達目標	準備学習	準備物
7	集団指導法 各担当分野での検討 シナリオ作成④ 媒体作製④	同上		同上
8	集団指導法 各担当分野での検討 シナリオ作成⑤ 媒体作製⑤	同上		同上
9	集団指導法 各担当分野での検討 シナリオ作成⑥ 媒体作製⑥	同上		同上
10	集団指導法 幼稚園別、クラス別 リハーサル①	作成したシナリオ、媒体を活用して、幼稚園クラス別に指導ができるよう役割分担をし、リハーサルを行うことができる。	担当の発表練習	同上
11	集団指導法 幼稚園別、クラス別 リハーサル② 帯山幼稚園は年齢別班で発表する班を話し合 いで決定する。坪井幼稚園は全ての班が発表す る。	同上 年齢別で発表する代表班を話し合いで決定 し、皆で表現等について検討することができる。	担当の発表練習	同上
12 13	集団指導法 1. 年齢別クラス代表班による発表 ①2歳児代表 ②3歳児代表 ③4歳児代 表 ④5歳児代表 ⑤特別支援 2. 幼稚園作成物成果評価 ①グループ発表相互評価(5点満点)	1. 年齢別の代表班が当日の流れで指導を 発表することができる。 2. 年齢別の代表各班が発表した内容を評価 し良かった点、疑問点、改善点をそれぞれ記 録することができる。但し、自身が関わった クラス(年齢別)については評価しない。		同上 評価記録用プリント
14 15	集団指導法 1. 幼稚園作成物過程及び成果物評価を行う。 ①グループ内相互評価(5点満点) 2. 全ての評価をまとめ発表する。 3. 評価結果を受け、修正点を検討し、4月か らの修正に繋げる。	1. 年齢別の代表班が発表したものを各シナ リオ班、媒体班に分け、全員の集計を正確に することができる。評価(小数点第一四捨五 入とする)と良かった点、疑問点、改善点を 全て整理することができる。 2. 自身のグループへの貢献度を評価し理由 を記録することができる。 3. グループ内班員の個人相互を評価し理由 を記録することができる。 4. 各年齢別に評価(平均点、良かった点、 疑問点、改善点)を発表することができる。 5. 評価結果をもとにシナリオ、媒体の修正 点を確認し4月からの準備を行うことができ る。		同上 評価記録用プリント

基本情報

学科目名	地域歯科保健活動Ⅱ	分野	専門分野 [歯科保健指導論]					
履修学年・学期	2年 前後期	授業方式	講義/演習	単位数	1単位	30時間	授業回数	前期2回 後期13回

講師名	岩切 恵子	教員の 実務経験	全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士として、地域歯科保健の場面や介入の計画立案の手法について講義、演習する。					
授業との 関連性	全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士として人の健康教育に係る保健指導の基礎知識、行動変容への関わりや技術について講義、演習する。							
講師名	野中友紀子	教員の 実務経験	歯科衛生士。全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士。同教育委員。本学院教務主任。災害歯科保健医療体制研修会修了（令和4年度）					
授業との 関連性	全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士および災害歯科保健医療体制研修会修了者として、大規模災害に備え歯科衛生士として円滑な災害歯科保健医療ができるよう基本的な知識について講義・演習する。 また歯科衛生業務を実践するために必要な思考過程である歯科衛生過程の臨床における活用を想定した講義・演習をする。							
講師名		実務経験	熊本県健康福祉部医療政策課 主事					
授業との 関連性	熊本県における災害時保健医療対策の経験を基に講義する。							
講師名	宇治信博	実務経験	歯科医師。令和2年7月豪雨 県歯科医師会コーディネーター。熊本県歯科医師会常務理事					
授業との 関連性	熊本県歯科医師会常務理事さらには県歯科医師会のコーディネーターの経験を元に、災害時の歯科の役割を講義する。							
講師名		実務経験	歯科衛生士。熊本県歯科衛生士会。					
授業との 関連性								
講師名		実務経験	歯科衛生士。熊本県歯科衛生士会。					
授業との 関連性								
講師名		実務経験	歯科衛生士。熊本県歯科衛生士会。					
授業との 関連性								

詳細情報 ※諸団体の講師は変更にあることもあります。

授業目標	(岩切) 集団指導案に基づく演習を省察し改善ができる。 (野中) 1. 災害発生時に歯科保健医療の専門職として、地域歯科保健活動が実践できるよう基本的な知識、技術を習得する。 2. 学院生作成の「災害歯科保健活動マニュアル」を活用し、各組織と学生間連携による災害支援計画を思考することができる。 3. 学生主体のボランティア等の所外活動を行うことができる。 4. 異学年での演習を通じ、被災地での歯科衛生士としての意見交換および発言場面の想定をすることができる。 5. 地域歯科保健の集団指導の場面で率先し活動できるよう、積極的に演習に参加することができる。 6. 歯科衛生業務を実践するために必要な思考過程である歯科衛生過程の臨床における活用を想定し保護者対面実習を行うことができる。 (宇治信博) 1. 災害教育を通して、歯科医療従事者としての倫理観を養うことができる。 2. 今後起こり得る大規模災害に備え、地域歯科保健活動の重要性を理解し、多職種と共通言語の下で連携を取りながら的確かつ迅速な対応ができるようになる。									
	(熊本県歯科衛生士会) 1. 災害時における歯科衛生士の役割と歯科保健活動体制の構築を習得する。 2. フェーズに応じた歯科保健対策及び歯科医療対策の知識を深め、歯科ニーズに沿ったコロナ禍における災害時歯科保健活動が実践できるようになる。 (熊本県歯科衛生士会) 1. 災害時における歯科保健活動を行う際の心がまえや流れを理解する。 2. フェーズごとの歯科衛生士の役割について理解を深める。 (熊本県歯科衛生士会) 1. 災害発生時の避難所における歯科保健活動と災害復興時の歯科保健活動の役割や意義について理解を深める。 2. 災害発生時から復興期まで、それぞれの状況にあった歯科保健活動が実践できるようになる。(宇治信博) 必要に応じてディスカッションしてもらった場合もありますが関係ない雑談はしないでください。									
成績評価 方法	定期試験	岩切30点 野中70点	小テスト レポート	点	実技・発表 ワーク(演習) など	点	受講態度	点	合計	100点
	(学則) 合格点：60点以上とし、不合格の学科目は1回限り再試験を受けることができる。 追試験：学期試験を欠席した場合は1回限り追試験を受けることができる。 欠課：①開始20分以降の遅刻 ②終了20分以前の早退 ③同一学科目で遅刻及び早退を4回した者 受験を認めない要件：各学科目の授業時間数が3分の2に満たない者									

教科書名	最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論」 遠藤圭子著 他 著 医歯薬出版 最新歯科衛生士教本「保健生態学第2版」 可児徳子 他著 医歯薬出版 「オーラルヘルスクエア事典」 麻賀多美代著 学建書院			
参考文献	「災害時の歯科保健医療対策」日本災害時公衆衛生士科研究会編 中久木康一 他著 一世出版 「熊本地震報告書」一般社団法人熊本県歯科医師会 「災害歯科保健医療」標準テキスト 日本歯科医師会編集 「災害歯科保健活動歯科衛生士実践マニュアル2021」 公益社団法人 日本歯科衛生士会			
使用設備・備品・準備物	PC、プロジェクター、スライド資料はMoodle上のアップします。必要に応じPCを持参してください。 ※歯科医師会ではネット環境下ではないため、資料はダウンロードし閲覧ください。			
履修上の注意	(野中) 事前課題は厳守とする。演習に必要な教本および文献は各自で準備しておくこと。 グループワーク時は役割を担い、班員と協力し率先して活動すること。 講義日程は複数講師と相談の上、変更になる場合もあります。 配布資料は各自見やすいよう整理・管理を行うこと。 (宇治信博) 必要に応じてディスカッションしてもらいますが関係ない雑談はしないでください。			
回	授業計画	到達目標	準備学習	準備物
1	(岩切恵子) シナリオ、媒体の修正、発表練習① ・各班、前回の省察により話し合いそれぞれ修正を行う。 ・各班長を中心に指導担当専任に報告し、指示を受けながら進める。 ・完成した班は、それぞれ発表の練習を行う。	1.反省内容に基づき修正することができる。 ①.シナリオは修正し入力することができる。 ②.媒体は修正し、より伝わりやすく作製することができる。 ③.園児に楽しんでもらえるよう発表を工夫し実演ができる。		各班 シナリオ 媒体一式
2	(岩切恵子) シナリオ、媒体の修正、発表練習② ・各班、前回の省察により話し合いそれぞれ修正を行う。 ・各班長を中心に指導担当専任に報告し、指示を受けながら進める。 ・完成した班は、それぞれ発表の練習を行う。	1.反省内容に基づき修正することができる。 ①.シナリオは修正し入力することができる。 ②.媒体は修正し、より伝わりやすく完成させることができる。 ③.園児に楽しんでもらえるよう発表を工夫し実演ができる。		各班 シナリオ 媒体一式
3	熊本県防災センターでの防災研修 (1) 防災センター研修 (2) 防災センター展示・学習室見学 (3) レポート、感想の提出	1. 熊本県防災センター展示・学習室での研修(熊本地震や令和2年7月豪雨など熊本県の過去の災害の経験や教訓、災害発生メカニズム、防災の取組などについて、展示パネルやプロジェクションマッピング、VR(ヴァーチャリアリティ)などにより、学習できる施設) 2. 研修後の振り返りとして、課程に適したレポートを記入することができる	熊本防災センターまでのアクセス法を調べておく。	熊本防災センター ※各自で移動 10分前に指定場所へ集合する
4	災害時歯科医療(歯科医師の立場から1) (宇治信博) 熊本地震、令和2年7月豪雨の活動を元に災害時の歯科支援活動を学ぶ。	支援する側、受援する側それぞれ大切なことを述べる事ができる。		
5	熊本県健康福祉部医療政策課 (1) 国、都道府県における災害対策について (2) 厚生労働省が行う災害医療対策について (3) 熊本県における災害医療提供体制について (4) 平成28年熊本地震時の熊本県における急性期医療救護活動について (5) 令和2年7月豪雨の熊本県における急性期医療救護活動について	・被災体験・災害対応の実感をふまえて、災害時に必要な知識を説明できる。	保健生態学 P317~324「災害時の歯科保健」 歯科予防処置論教本P387~393「大規模災害被災者」を読んでおく。	
6	災害時歯科医療(歯科医師の立場から2) 熊本地震、令和2年7月豪雨の活動を元に地域歯科保健活動の重要性を学ぶ	災害が起きた場合、歯科医療従事者としての確また迅速に対応することができる。		
7	災害時の歯科保健活動1(野中友紀子) (1) 全体オリエンテーション 概要説明、資料閲覧について データの取り扱いについて (2) プレテスト (3) 災害歯科保健活動総論	1. 大規模災害時の保健医療を説明できる。 2. 大規模災害時の歯科保健活動を説明できる。 3. 被災地での歯科衛生士の役割を説明できる。 4. 災害関連死を説明できる。 5. 災害時医療としての歯科的個人識別を説明できる。 6. 歯科的個人識別における歯科衛生士の役割を説明できる。	DHStyle2020.12月号・2021.3月号抜粋し配布した資料を読んでおく。	「災害歯科保健活動総論」は事前にダウンロードしPCを持参すること。 (スマホでの閲覧は不可)



回	授業計画	到達目標	準備学習	準備物
8	災害時の歯科保健活動2〈野中友紀子〉 (1) 災害歯科保健活動総論 (2) 学院版「災害歯科保健活動マニュアル」の説明	1. 災害歯科保健活動マニュアルを説明できる。 2. 日頃からの災害対策を説明できる。 3. 大規模災害被災者の特徴を説明できる。 4. 災害歯科保健活動マニュアルを必要に応じて改変することができる。 5. 自身の安全確保をした上で災害時に地域支援活動ができるよう備えることができる。 6. 地域と連携を図るために支援活動に関連する組織を検討することができる。 7. 災害支援活動時の被災者および支援者への精神・心理的ストレスを説明できる。 8. 災害時に主体的な活動ができるよう基本的な知識を身に付けることができる。	前回までの講義内容をふまえて配布プリントの穴埋めをしておくこと	「災害歯科保健活動マニュアル」は事前にダウンロードしPCを持参すること。 (スマホでの閲覧は不可)
9	災害時歯科保健活動 歯科衛生士の立場から1 〈熊本県歯科衛生士会会長〉 1. 災害時歯科保健活動体制の構築 (方針の検討、決定から活動までの流れ) 2. ニーズ把握とフェーズごとの活動内容について 3. 他職種連携の必要性について	1. 災害時における歯科保健活動の流れが列記できる 2. フェーズごとの被災者の歯・口の困りごとを予測できるようになる 3. 避難所などでの活動に必要なニーズ調査やアセスメントの記録ができるようになる 4. 他職種連携の必要性について述べる事ができる		
10	災害時歯科保健活動 歯科衛生士の立場から2 〈熊本県歯科衛生士会〉 1. 熊本地震後の南阿蘇村と西原村における歯科保健活動の実際について 2. 他職種連携の実際について  〈熊本県歯科衛生士会〉 1. 令和2年7月豪雨災害の歯科保健活動の状況について 2. 仮設住宅における災害歯科保健活動について	災害時歯科保健活動 歯科衛生士の立場から2  〈熊本県歯科衛生士会阿蘇都市支部災害担当〉 1. 迅速に災害歯科保健活動に取り組める知識を持つ事ができる 2. 他職種との連携に関する活動の現状を知る事ができる  〈熊本県歯科衛生士会人吉・球磨都市支部支部長〉 1. コロナ禍における避難所及び仮設住宅における災害歯科保健活動の意義や役割を理解し、災害時における歯科保健活動が実践できるようになる。		
11	災害時の歯科保健活動3 (1) グループワーク1	1. 災害を自身のことと捉え具体的に想像することができる。 2. 災害時の状況を想像し周囲との連携法を検討することができる。 3. グループワークで自身の役割をはたすことができる。 4. グループワークで積極的に発言することができる。 5. 検討した内容を、聞き手が理解しやすいよう発表することができる。		
12	災害時の歯科保健活動4 (1) グループワーク2 (2) 受講後アンケート (3) 国家試験対策(小テスト) (4) ポストテスト	1. 発表内容に対してクリティカルに思考し質問することができる。 2. 班員の評価を適切に行うことができる。 3. 履修した内容をもとに、災害時歯科保健活動マニュアルを自身の言葉で改変することができる。 4. 国家試験出題問題を把握することができる。 6. プレテストと比較しポストテストの結果が向上することができる。		
13	(野中友紀子) 保護者対面実習オリエンテーション 歯科衛生過程の臨床応用	1. 保護者対面実習を行う上で必要な注意点や準備物について説明することができる。 2. 自身の役割を把握し、行動することができる。 3. 歯科衛生アセスメントに必要な情報の詳細を説明し準備することができる。 4. 保護者対面実習のロールプレイに必要な器材を準備することができる		

回	授業計画	到達目標	準備学習	準備物
14	(野中友紀子) 保護者対面実習A、B、C班 歯科衛生過程の臨床応用 包括的支援法の検討	1. 対象者へ配慮した歯科衛生介入ができる。 2. 対象者が安心できるよう実施内容を説明することができる。 3. 対象者を理解するために必要な情報の収集ができる。 4. 対象者の問題点と強みを引き出せる情報収集ができる。 5. 対象者の経時的変化に着目した聴取ができる。 6. 対象者の包括的支援法を説明することができる。 7. 歯科診断に関わる項目について歯科医師へ指示を仰ぐことができる。		
15	(野中友紀子) 保護者対面実習A、B、C班 歯科衛生過程の臨床応用 包括的支援法の検討 かかりつけ歯科医との連携	1. 対象者へ配慮した歯科衛生介入ができる。 2. 対象者が安心できるよう実施内容を説明することができる。 3. 対象者を理解するために必要な情報の収集ができる。 4. 対象者の問題点と強みを引き出せる情報収集ができる。 5. 対象者の経時的変化に着目した聴取ができる。 6. 対象者の包括的支援法を説明することができる。 7. 歯科診断に関わる項目について歯科医師へ指示を仰ぐことができる。		

**基本情報**

学科名	栄養指導Ⅰ	分野	専門分野 [歯科保健指導論]			講師名	松下美由紀		
履修学年・学期	1年 後期	授業方式	講義	単位数	1単位	15時間	授業回数	30	
教員の 実務経歴	管理栄養士・衛生検査技師・熊本地域糖尿病療養指導士・保育士								
授業との 関連性	熊本地域糖尿病療養指導士でもある管理栄養士としての経験から、食生活指導のための栄養素の消化吸収や基礎知識について講義する。								

**詳細情報**

授業目標	①健康維持のために、栄養の知識を学ぶ意義を知り、現代人の食物の摂取における栄養上の問題点を考える。 ②栄養素の消化・吸収、体内代謝、エネルギー代謝等の基本的知識を習得する。									
成績評価 方法	定期試験	80点	小テスト レポート	15点	実技・発表 ワーク(演習) など	点	受講態度	5点	合計	100点
教科書名	歯科衛生学シリーズ「人体の構造と機能2 栄養と代謝」/「最新 食品標準成分表」高橋信博著 医歯薬出版KK 「最新 食品標準成分表」全国調理師養成施設協会 編集発行									
参考文献	食品成分最新ガイド「栄養素の通になる 第5版」上西一弘著 女子栄養大学出版部 自分で作る「生化学ワークノート」医学博士 中元伊知郎 メディカ出版									
使用設備・備 品・準備物	ワークシートを利用し講義を進める。計算機(スマホ不可)									
履修上の 注意	授業中に小テストの実施、または終了後の宿題・レポートの提出あり。提出物については評価に反映する。授業中の態度も評価に反映する。									

必要な場合はご利用ください。

回	授業計画	到達目標	準備学習	準備物
1	栄養素の働き 水と食物繊維	1. 水と食物繊維の特性について学び、理解し、述べる事ができる。		フラットファイルまたは綴じひも
2	栄養の基礎知識 食生活と栄養	1. 栄養の知識を学ぶ理由を理解する。 2. 日本人の栄養摂取状況を知る。	ワークシートの予習	
3	栄養素の消化・吸収	1. 栄養素の消化・吸収の基本を知り、理解する。	ワークシートの予習	
4	栄養素の役割	1. 栄養素の役割について知識を修得する。	ワークシートの予習	
5	食事摂取基準 基礎代謝 エネルギー必要量	1. 食事摂取基準とは何かを知る。 2. 個人のエネルギー必要量の求め方、摂取量の評価法を知る。	ワークシートの予習	
6	日本人の食事摂取基準	1. 「日本人の食事摂取基準」を学び、理解し、述べる事ができる。	ワークシートの予習	
7	栄養素の働き 糖質の種類	1. 種類と働き、代謝について理解する。	ワークシートの予習	
8	栄養素の働き 糖質の栄養的意味	1. 種類と働きについて理解し述べる事ができる。	ワークシートの予習	
9	栄養素の働き タンパク質の種類	1. 種類と働きについて理解し述べる事ができる。	ワークシートの予習	
10	栄養素の働き タンパク質の栄養的意味	1. 種類と働きについて理解し述べる事ができる。	ワークシートの予習	
11	栄養素の働き 脂質の栄養的意味	1. 種類と働きについて理解し述べる事ができる。	ワークシートの予習	
12	栄養素の働き ビタミンの種類 水溶性ビタミン	1. 種類と働きについて理解し述べる事ができる。	ワークシートの予習	
13	栄養素の働き 脂溶性ビタミン	1. 種類と働きについて理解し述べる事ができる。	ワークシートの予習	
14	栄養素の働き ミネラルの種類 ミネラルの作用と欠乏・過剰症	1. 種類と働きについて理解し述べる事ができる。	ワークシートの予習	
15	栄養素の働き 個々のミネラルの作用と欠乏・過剰	1. 種類と働きについて理解し述べる事ができる。	ワークシートの予習	

基本情報

学科名	栄養指導Ⅱ	分野	専門分野 [歯科保健指導論]			講師名	松下美由紀		
履修学年・学期	2年 前期	授業方式	講義	単位数	1単位	15時間	授業回数	30	
教員の 実務経験	管理栄養士・衛生検査技師・熊本地域糖尿病療養指導士・保育士								
授業との 関連性	熊本地域糖尿病療養指導士でもある管理栄養士としての経験から、食生活指導のための栄養素の消化吸収や栄養関連の基礎知識・各種制度について講義する。								

詳細情報

授業目標	①食生活と健康の関連について学び、栄養の知識や各種制度への知識を高め、歯科衛生士として果たすべき役割を理解する。 ②健康づくりに必要な栄養についての知識を高め、多職種との連携ができる歯科衛生士を目指す。 ③ライフステージ別の食事の大切さを理解し、栄養関連の基本知識を修得する。									
成績評価 方法	定期試験	80点	小テスト レポート	15点	実技・発表 ワーク(演習) など	0点	受講態度	5点	合計	100点
教科書名	最新歯科衛生士教本「人体の構造と機能2 栄養と代謝」/「最新 食品標準成分表」高橋信博著 医歯薬出版KK 「最新 食品標準成分表」全国調理師養成施設協会 編集発行									
参考文献	最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論」医歯薬出版KK 管理栄養士のための疾患・症状・身体のはたらきイラスト事典 本田圭子編著 メディカ出版									
使用設備・備 品・準備物	ワークシート利用で講義を進める。									
履修上の 注意	授業終了後の宿題・レポートの提出あり。提出物については、すべて評価に反映し、授業中の態度も評価に反映する。									
回	授業計画			到達目標			準備学習		準備物	
1	食べ物と健康 食品成分表 1年の復習			1. 食品成分表についての知識を習得し、活用できる。 2. 食品分類について理解する。			1年のワークシートの復習		フラットファイルまたは綴じひも	
2	食べ物の物性 食べ物のおいしさ 1年の復習			1. 食べ物の物性について知識を修得する。 2. 食べ物のおいしさについて理解を深める。			ワークシートの予習 課題(1年の復習)			
3	国民の健康と栄養の現状 食生活の変遷と疾病構造の変化			1. 国内での食生活の歴史と変遷、及び現状について理解する。			ワークシートの予習 課題(1年の復習)			
4	望ましい食生活 国民健康・栄養調査 健康日本21			1. 食生活の変遷と疾病構造の変化や国民栄養の現状を学び、栄養に関する課題を考える。 2. 栄養と健康の関連より、栄養指導の必要性を理解する。			ワークシートの予習 課題(1年の復習)			
5	食事バランスガイド 特別用途食品制度			1. 食事バランスガイドについて知る。 2. 特別用途食品制度について知る。			ワークシートの予習			
6	食育基本法と食育推進基本計画			1. 食に関する法律や制度、市町村の取り組みについて知る			ワークシートの予習			
7	食事環境・食事計画			1. 成人期における食事の大切さへの理解と、妊娠・授乳期の付加量について理解する。			ワークシートの予習			
8	食生活と健康 ライフステージ 乳児期、幼児期			1. 乳児期、幼児期の特徴を学び、理解する。 2. 食品が与える影響について理解する。			ワークシートの予習			
9	食生活と健康 ライフステージ 学童期、思春期			1. 学童期・思春期における栄養の必要性と影響について理解する。			ワークシートの予習			
10	食生活と健康 ライフステージ 成人期、妊娠・授乳期			1. 成人期における食事の大切さへの理解と、妊娠・授乳期の付加量について理解する。			ワークシートの予習			
11	食生活と健康 ライフステージ 高齢期			1. 高齢期における特性と栄養の必要性について理解する。 2. 嚥下に関連する食品の知識を修得する。			ワークシートの予習			
12	病態と栄養 栄養補給法 高血圧症と心疾患			1. 各病態について知り、食事との関連を学び、理解する。			ワークシートの予習			
13	病態と栄養 肥満・脂質異常症			1. 各病態について知り、食事との関連を学び、理解する。			ワークシートの予習			
14	病態と栄養 糖尿病			1. 各病態について知り、食事との関連を学び、理解する。			ワークシートの予習			
15	病態と栄養 腎臓病・食物アレルギー・その他の疾患 多職種連携 2年のまとめ			1. 多職種連携について知り、歯科衛生士としての役割を考える。 2. 1年で学んだことと、2年で学んだことを総合的に理解する。			ワークシートの予習			

必要な場合はご利用ください。

# 令和6年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

## 基本情報

学科名	歯科診療補助Ⅰ	分野	専門分野 [歯科診療補助論]					
履修学年・学期	1年 前後期	授業方式	講義・実習・実技	単位数	2単位	60時間	授業回数	30
講師名	植村博子	教員の 実務経験	歯科衛生士。全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士。本学院専任教員。					
授業との 関連性	全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士として、歯科衛生士の専門学科目である歯科診療の補助業務について各治療方法や歯科材料の取扱い等について講義、実習する。							
講師名	橋本千明	教員の 実務経験	歯科衛生士。本学院専任教員。					
授業との 関連性	臨床歯科衛生士としての豊富な経験を踏まえ、歯科衛生士の専門学科目である歯科診療の補助業務について各治療方法や歯科材料の取扱い等について講義、実習する。							

## 詳細情報

授業目標	(前期) 歯科衛生士として、診療補助業務に対応できるように技術及び患者への対応を修得する。 (後期) 歯科衛生士として歯科診療補助業務に対応できるように知識、技術を修得する。									
成績評価 方法	定期試験	100点	小テスト レポート	点	実技・発表 ワーク(演習) など	点	受講態度	点	合計	100点
教科書名	歯科学シリーズ「歯科診療補助論」合場千佳子編 他 医歯薬出版KK									
参考文献	①歯科学シリーズ「歯科材料」 末瀬一彦著 他 医歯薬出版KK ②歯科学シリーズ「歯科機器」 末瀬一彦著 他 医歯薬出版KK									
使用設備・備 品・準備物	その都度当番を通して連絡します。									
履修上の 注意	1. 予習を必ず行い講義・実習に臨む。 2. 授業の復習は必ず行うこと。 3. 実習は身だしなみをきちんと整えた上で取り組むこと。 *到達目標は履修状況において変更することがあります。									
回	授業計画				到達目標			準備学習		
1	ユニットの構造について1（取り扱い実習）2班に分かれて相互実習 *2階で実習がない班は課題学習				①歯科診療室にある歯科用ユニットの構造を理解し、歯科診療室にある歯科用ユニットを、患者を不安にさせずに操作できる。			要綱及び教本（該当ページは要綱に記載）による予習の実施		
2	滅菌・消毒①（各種消毒・滅菌・消毒と管理）				①医療人として滅菌・消毒について正しい知識を理解し説明できる。			同上		
3	感染防止対策と滅菌・消毒②（講義）・（実習）2階で2班に分かれて滅菌器等の使用説明・消毒				①医療人として滅菌・消毒について正しい知識を理解し説明できる。			同上		
4	薬品・材料の管理、医療廃棄物の取り扱い				①薬品の取扱いについて理解し説明できる。 ②診療室から排出される廃棄物の分別、処理について理解し説明できる。			同上		
5	手指消毒の一般的手技 （講義）植村 （実技）2階：五反／5階：植村				①医療人として手指を介しての微生物の伝播があることを理解し、手指消毒の目的を説明できる			同上		
6	カット綿・綿球・防湿ロール・綿栓作製				①臨床で頻用されている衛生材料の種類と用途を理解し、各種材料を的確かつ敏速に作製準備してスムーズな診療補助ができるようにする。			同上		
7	綿球・綿栓作製試験（グローブなし）				①各種綿球・綿栓の作製方法の確認をし、習熟度を確認する。（グローブ装着なし）			同上		



回	授業計画	到達目標	準備学習
8	共同動作について1 総論① (*5階の実験台でポジションからライティングの確認)	①歯科診療を安全に効率よく行うために、必要な共同動作について理解し説明できる。 ②診療時における共同動作における補助を学び、診療がスムーズに進むようにフォーハンドシステムを理解し説明できる。	同上
9	共同動作について1 総論② (フォーハンドデンティストリー、バキューム、スローウェイシリンジ)	①歯科診療を安全に効率よく行うために、必要な共同動作について理解し説明できる。 ②診療時における共同動作における補助を学び、診療がスムーズに進むようにフォーハンドシステムを理解し説明できる。	同上
10	共同動作について2 患者誘導、ポジション、ライティング実習	①必要な知識を身に付け患者を安全にチェアまで誘導できる。 ②患者・術者・補助者の役割を疑似体験し役割と責任を理解し説明できる。 ③術者を側面的に助ける技術を修得できる。	同上
11	共同動作について3 バキューム操作基本(ファントム)	①診療時における共同動作における補助を学び、診療がスムーズに進むようバキューム操作ができる。	同上
12	口腔内洗浄、バキューム操作(相互) 1	①口腔内洗浄の目的を理解し、併せて口腔内にたまった水や唾液をバキューム操作を行い、患者の苦痛を軽減できる。	同上
13	口腔内洗浄、バキューム操作(相互) 2	①口腔内洗浄の目的を理解し、併せて口腔内にたまった水や唾液をバキューム操作を行い、患者の苦痛を軽減できる。	同上
14	印象材取扱い・練和について	①各種印象材について、その特徴と用途、取扱い法を理解し説明できる。 ②印象材を適切な計量で攪拌、練和、脱泡し、ひとまとめにできる。	同上
15	印象材練和～盛り付け	①印象材を適切な計量で攪拌、練和、脱泡し、トレーへ盛り付けができる。	同上
16	印象採得1 片顎	①口腔内を観察し、片顎トレーの選択、練和から印象採得までの手順を理解し、正確な印象採得ができる。	同上
17	印象採得2 下顎	①口腔内を観察し、下顎トレーの選択、練和から印象採得までの手順を理解し、正確な印象採得ができる。	同上
18	印象採得3 上顎	①口腔内を観察し、上顎トレーの選択、練和から印象採得までの手順を理解し、正確な印象採得ができる。	同上
19	印象採得4 片顎・下顎・上顎	①口腔内を観察し、各種トレーの選択、練和から印象採得までの手順を理解し、正確な印象採得ができる。	同上
20	模型材料取扱いについて・石膏注入(上顎・下顎)(トリミング・模型調整)	①印象への石膏注入から模型調整までの手順を理解し、操作できる。	同上
21	印象採得～模型作製①	①印象体への石膏注入から模型調整までの手順を理解し、操作できる。	同上
22	印象採得～模型作製②	①印象体への石膏注入から模型調整までの手順を理解し、操作できる。	同上
23	印象採得～模型作製③	①印象体への石膏注入から模型調整までの手順を理解し、操作できる。	同上
24	スタディモデル作製概要説明・作製(台つけ)	①印象採得後、気泡混入のない模型を作製し、平行模型作製の手順、模型の整理法を理解する。 ②スタディモデルの作製方法を理解し、管理・保管までができる。	同上
25	合着材取扱いについて	①合着材と接着材の性質、練和方法を理解し、説明できる。	同上
26	ポリカルボ・ガラスイオノマーセメント、リン酸亜鉛セメント練和	①合着材の性質を理解し、各種セメントの練和ができる。	同上

回	授業計画	到達目標	準備学習
27	ポリカルボ・グラスアイオノマーセメント、リン酸亜鉛セメント練和復習	①リン酸亜鉛セメント・ポリカルボキシレートセメント・グラスアイオノマーセメントの取り扱い、特徴、用途を理解し練和操作ができる。	同上
28	ポリカルボ・グラスアイオノマーセメント、リン酸亜鉛セメント練和試験	①各種セメントの標準的練和方法の確認をし、習熟度を確認する。	同上
29	ポリカルボ・グラスアイオノマーセメント、リン酸亜鉛セメント練和/合格者は自主計画立案～自主練習	①各種セメントの標準的練和方法の確認をし、習熟度を確認する。	同上
30	印象採得 片顎（復習：実技確認試験のため）	①口腔内を観察し、片顎トレーの選択、練和から印象採得までの手順を理解し、正確な印象採得ができる。	同上

基本情報

学科名	歯科診療補助Ⅱ	分野	専門分野 [歯科診療補助論]					
履修学年・学期	2年 前後期	授業方式	講義・実習・実技	単位数	3単位	90時間	授業回数	45

講師名	植村博子	教員の 実務経験	歯科衛生士。全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士。本学院専任教員。					
授業との 関連性	全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士として、歯科衛生士の専門学科目である歯科診療の補助業務について各治療方法や歯科材料の取扱い等について講義、実習する。							
講師名	橋本千明	教員の 実務経験	歯科衛生士。本学院専任教員。					
授業との 関連性	臨床歯科衛生士としての豊富な経験を踏まえ、歯科衛生士の専門学科目である歯科診療の補助業務について各治療方法や歯科材料の取扱い等について講義、実習する。							

詳細情報

授業目標	(前期) 歯科衛生士として、診療補助業務に対応できるように技術及び患者への対応を修得する。 (後期) 歯科衛生士として歯科診療補助業務に対応できるように知識、技術を修得する。									
成績評価 方法	定期試験	100点	小テスト レポート	点	実技・発表 ワーク(演習) など	点	受講態度	点	合計	100点
	(学則) 合格点：60点以上とし、不合格の学科目は1回限り再試験を受けることができる。 追試験：学期試験を欠席した場合は1回限り追試験を受けることができる。 欠課：①開始20分以降の遅刻 ②終了20分以前の早退 ③同一学科目で遅刻及び早退を4回した者 受験を認めない要件：各学科目の授業時間数が3分の2に満たない者									
教科書名	歯科学シリーズ「歯科診療補助論」 合場千佳子編 他 医歯薬出版KK									
参考文献	①歯科学シリーズ「歯科材料」 末瀬一彦著 他 医歯薬出版KK ②歯科学シリーズ「歯科機器」 末瀬一彦著 他 医歯薬出版KK ③歯科学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」高阪利美著 他 医歯薬出版KK ④歯科学シリーズ「高齢者歯科学」 戸原 玄著 他 医歯薬出版KK ⑤歯科学シリーズ「保存修復学・歯内療法学」 千田 彰著 他 医歯薬出版KK ⑥歯科学シリーズ「歯科補綴学」 赤川安正著 他 医歯薬出版KK ⑦歯科学シリーズ「歯科矯正学 第2版」 新井一仁著 他 医歯薬出版KK ⑧歯科学シリーズ「小児歯科学」 大嶋 隆著 他 医歯薬出版KK ⑨歯科学シリーズ「歯周病学」 伊藤公一 他 医歯薬出版KK ⑩歯科学シリーズ「口腔外科学・歯科麻酔学 第2版」 樺沢勇司 他 医歯薬出版KK									
使用設備・備 品・準備物	その都度当番を通して連絡します。									
履修上の 注意	1. 予習を必ず行い講義・実習に臨む。 2. 授業の復習は必ず行うこと。 3. 実習は身だしなみをきちんと整えた上で取り組むこと。 *到達目標は履修状況において変更することがあります。									
回	授業計画				到達目標			準備学習		
1	仮封について				仮封の意義を理解し、各種仮封材の性質、特徴、用途を理解し説明できる。			要綱及び教本（該当ページは要綱に記載）による予習の実施		
2	仮封材取扱い①テポ <sup>®</sup> リーストップ <sup>®</sup> グ・水硬性仮封材・酸化亜鉛ユー <sup>®</sup> ノルセメント・軟質レジ <sup>®</sup> ン（机上）				診療室における仮封の意義を理解し、各仮封材の机上での取扱いを習得する。			同上		
3	仮封材取扱い②テポ <sup>®</sup> リーストップ <sup>®</sup> グ・水硬性仮封材（ファントム）				診療室における仮封の意義を理解し、水硬性仮封材・テンポラリーストップングのファントム上で取扱いを習得する。			同上		
4	仮封材取扱い③酸化亜鉛ユー <sup>®</sup> ノルセメント・軟質レジ <sup>®</sup> ン（ファントム）				診療室における仮封の意義を理解し、酸化亜鉛ユー <sup>®</sup> ジノールセメント・常温重合型軟質レジ <sup>®</sup> ンのファントム上で取扱いを習得する。			同上		
5	器具の受け渡し1				それぞれの目的に応じた準備や手渡しを、留意点を考えて行うことができる。			同上		
6	ラバーダム防湿について・ラバーダム防湿操作1 ファントム1 歯有翼				①ラバーダム防湿法の意義を理解し説明できる。 ②ラバーダム防湿の意義を理解し、迅速、確実に操作ができるよう習得できる。			同上		

回	授業計画	到達目標	準備学習
7	ラバーダム防湿操作2ファントム1 歯無翼	ラバーダム防湿の必要性を理解し、有翼法との操作法の違いを理解し説明できる。	同上
8	歯肉圧排、歯間分離、隔壁について（講義・机上操作）	①歯肉排除法、歯間分離法、隔壁の目的を理解し、種類を述べるができる。 ②歯肉排除法、歯間分離法、隔壁の取扱いを理解し、安全に操作できるようにする。	同上
9	成形修復材について	修復材の種類と特徴について述べるができる。	同上
10	修復物研磨について	①研磨用具の種類、研磨の目的を理解し術式を述べるができる。 ②ハンドピースへ研磨用具を取り付けることができる。	同上
11	グラスアイオノマーセメント修復～修復物研磨	①グラスアイオノマーセメント修復の特徴と術式、隔壁用器材を理解し窩洞へ填塞できる。 ②研磨の意義を理解し、各種修復物の研磨ができる。	同上
12	コンポジットレジン修復①光重合レジン・ペースト～修復物研磨	①コンポジットレジン修復の術式を理解し、酸処理材の取扱いができる。 ②研磨の意義を理解し、各種修復物の研磨ができる。	同上
13	コンポジットレジン修復②光重合レジン・～修復物研磨	①光重合レジン修復の特徴と術式、隔壁用器材を理解し窩洞へ填塞できる。 ②可視光線ライトの取扱い方を修得できる。 ③研磨の意義を理解し、修復物の研磨ができる。	同上
14	口腔内写真撮影1 （画像処理法説明含む）	①口腔内写真の意義を考え、各部位の撮影ができる。 ②アシスタントの役割を考え、口角鉤の把持、口腔内の乾燥ができる。	同上
15	口腔内写真撮影2	同上	同上
16	口腔内写真撮影 復習1	口腔内状況が判断できる口腔内写真（資料）の作成ができる。	同上
17	口腔内写真撮影 復習2	口腔内状況が判断できる口腔内写真（資料）の作成ができる。	同上
18	寒天印象1（1級窩洞）	寒天印象材とアルジネート印象材との連合印象についてその特徴および手順、材料の取扱い法を習得する。	同上
19	寒天印象2（2級窩洞）	同上	同上
20	（1階口腔保健センター） 口内法・口外法撮影の補助	①上下顎臼歯部における正確なX撮影ができるように撮影装置の位置づけができる。 ②適切な自動現像法を修得する。 ③パノラマ撮影の手順を理解できる。 ④撮影したフィルムをマウント整理し解剖学的指標で観察できる。	同上
21	術者磨き（歯ブラシ・清掃補助用具）・バキューム操作	①口腔内状況に応じた術者磨きが適切にできる。 ②ミラーでの粘膜排除が適切にできる。 ③一人バキュームでのスプレー洗浄が適切にできる。	同上
22	印象採得 片顎・全顎（復習）	口腔内を観察し、各種トレーの選択、練和から印象採得までの手順を復習し、印象採得ができる。	同上
23	仮封材取扱い・綿球・綿栓（復習）	①診療室における仮封の意義を理解し、各仮封材のファントム上での適切な取扱いができる。 ②臨床で頻用されている衛生材料の種類と用途を理解し、各種材料を的確かつ敏速に作製準備してスムーズな診療補助ができるようにする。	同上
24	ゴム質印象	ゴム質印象材について特徴および手順を理解し、取扱い法を習得する。	同上
25	保存修復における歯科診療補助①成形修復	各種修復法の流れに応じて準備ができる。	同上

回	授業計画	到達目標	準備学習
26	口腔外科における歯科診療補助1 器具の種類と用途①	口腔外科における歯科衛生士の役割について述べる ことができる。	同上
27	口腔外科における歯科診療補助2 器具の種類と用途②	カートリッジ式注射器、替刃メス、縫合用器材の種 類と用途を理解し、取扱い方を修得できる。	同上
28	歯周治療における歯科診療補助①歯肉包帯	歯肉包帯（歯周パック）の目的を理解し、準備と取 扱い方を修得できる。	同上
29	歯周治療における歯科診療補助②	①歯周基本治療と歯周外科治療における歯科診療補 助の役割について述べる ことができる。 ②組織再生誘導法、エムドゲインの目的・術式を理 解し説明できる。	同上
30	歯内療法における歯科診療補助①	①各種歯内療法の流れを説明できる。 ②各種歯内療法の流れに沿って使用器材の説明がで きる。	同上
31	歯内療法における歯科診療補助②	①各種歯内療法の流れを説明できる。 ②各種歯内療法の流れに沿って使用器材の説明がで きる。	同上
32	ホワイトニングについて	各種ホワイトニングの特徴と術式を理解し説明でき る。	同上
33	暫間修復材（テンポラリークラウン）について	暫間被覆冠・仮着材を理解し、取扱いの方法を理解 する	同上
34	暫間修復材（テンポラリークラウン）作製①（1 歯既製冠・机上）	①暫間被覆冠の目的、種類、取扱い、製作順序と準 備する器具について理解する。 ②既製冠を用い暫間被覆冠を製作できる。	同上
35	暫間修復材（テンポラリークラウン）作製②（筆 積み法・机上）	常温重合レジンを用い筆積みにて暫間被覆冠を製作 できる。	同上
36	暫間修復材（テンポラリークラウン）作製②（筆 積み法・机上）	常温重合レジンを用い筆積みにて暫間被覆冠を製作 できる。	同上
37	暫間修復材（テンポラリークラウン）作製③（直 接法・ファントム）	常温重合レジンを用い直接法にて暫間被覆冠を製作 できる。	同上
38	暫間修復材（テンポラリークラウン）作製④（ブ リッジ）印象法・ファントム）	印象材を用いた方法でブリッジの暫間被覆冠を製作 できる。	同上
39	歯科補綴における歯科診療補助①義歯	有床義歯の着脱の指導法と衛生管理を理解し、患者 指導ができる。	同上
40	歯科補綴における歯科診療補助②咬合採得、暫間 被覆冠仮着	①クラウン、ブリッジ治療における流れを理解し、 治療前、治療中、治療後の患者指導ができる。 ②咬合関係を確認のうえ、咬合採得ができる。 ③作成したTeCの歯間離開度を測定し、仮着材に て適切に装着できる。	同上
41	その他の歯科材料について	リベース材、ティッシュコンディショナー、適合検 査材の役割について理解し取扱い方法を習得する。	同上
42	臨床実習（矯正歯科分野）の事前学習課題説明・ 各自まとめ	矯正歯科医院の臨床実習を円滑に進めるために、必 要な基礎的知識を各自調べ、理解できるようにす る。	同上
43	寒天印象採得復習（相互）	顎模型上で実習した寒天印象採得が口腔内でスム ーズに操作できる。	同上
44	バキューム操作復習1（相互）	口腔内洗浄の目的を理解し、併せて口腔内にたま った水や唾液をバキューム操作を行い、患者の苦痛を 軽減する。	同上
45	印象採得復習（上・下顎）	口腔内を観察し、各種トレーの選択、練和から印象 採得までの手順を復習し、正確な印象採得ができ る。	同上



# 令和6年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

## 基本情報

学科名	歯科診療補助Ⅲ	分野	専門分野 [歯科診療補助論]					
履修学年・学期	3年 前後期	授業方式	講義・実習・実技	単位数	1単位	30時間	授業回数	15

講師名	植村博子	教員の 実務経験	歯科衛生士。全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士。本学院専任教員。
授業との 関連性	全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士として、歯科衛生士の専門学科目である歯科診療の補助業務について各治療方法や歯科材料の取扱い等について講義、実習する。		
講師名	橋本千明	教員の 実務経験	歯科衛生士。本学院専任教員。
授業との 関連性	臨床歯科衛生士としての豊富な経験を踏まえ、歯科衛生士の専門学科目である歯科診療の補助業務について各治療方法や歯科材料の取扱い等について講義、実習する。		

## 詳細情報

授業目標	歯科及び歯科衛生士の役割について理解を深めるために、学んだ知識と技術を統合して自らが学んでいける能力を構築する。									
成績評価 方法	定期試験	100点	小テスト レポート	点	実技・発表 ワーク(演習) など	点	受講態度	点	合計	100点
	(学則) 合格点；60点以上とし、不合格の学科目は1回限り再試験を受けることができる。 追試験；学期試験を欠席した場合は1回限り追試験を受けることができる。 欠課；①開始20分以降の遅刻 ②終了20分以前の早退 ③同一学科目で遅刻及び早退を4回した者 受験を認めない要件；各学科目の授業時間数が3分の2に満たない者									
教科書名	最新歯科衛生士教本「歯科診療補助論 第2版」合場千佳子著 他 医歯薬出版KK									
参考文献	①最新歯科衛生士教本「歯科材料」末瀬一彦著 他 医歯薬出版KK ②最新歯科衛生士教本「歯科機器」末瀬一彦著 他 医歯薬出版KK ③最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版」高阪利美著 他 医歯薬出版KK ④歯科学シリーズ「高齢者歯科学」戸原 玄著 他 医歯薬出版KK ⑤歯科学シリーズ「保存修復学・歯内療法学」千田 彰著 他 医歯薬出版KK									
使用設備・備 品・準備物	その都度当番を通して連絡します。									
履修上の 注意	1. 予習を必ず行い講義・実習に臨む。 2. 授業の復習は必ず行うこと。 3. 実習は身だしなみをきちんと整えた上で取り組むこと。 *到達目標は履修状況において変更することがあります。									
回	授業計画				到達目標				準備学習	
1	暫間被覆冠作製1（直接法）前歯～左上1～3ブリッジ				暫間被覆冠の目的、種類、取扱い、作製順序と準備する器具について復習し作製できる。				要綱及び教本（該当ページは要綱に記載）による予習の実施	
2	暫間被覆冠作製1（直接法）前歯～左上1～3ブリッジ				暫間被覆冠の目的、種類、取扱い、作製順序と準備する器具について復習し作製できる。				同上	
3	酸化亜鉛ユーシノールセメント練和（用途別①仮封用、②覆髄用）～受渡し（2人1組）				酸化亜鉛ユーシノールセメントの用途別における取扱い法を修得し指導ができる。				同上	
4	バキューム操作復習2（相互）				口腔内洗浄の目的を理解し、併せて口腔内にたまった水や唾液をバキューム操作を行い、患者の苦痛を軽減する。				同上	
5	印象採得1 水平位操作（全顎）				口腔内観察後、的確にトレーを選択し練和から水平位での印象採得までの操作を対象者に不快感を与えないよう配慮しながら行うことができる。				同上	

回	授業計画	到達目標	準備学習
6	印象採得2（寒天印象採得 コア）	①寒天印象材とアルジネート印象材を用いたコアの 連合印象の手順と材料の取扱いができる。	同上
7	ゴム質印象（相互）	顎模型上で実習したゴム質印象採得が口腔内でス ムーズに操作できる。	同上
8	セメント取り扱い（接着性レジンセメント）	接着性レジンセメントの性質を理解し、臨床での取 扱い方法を修得する。	同上
9	ラバーダム防湿操作3 ファントム数歯無翼	①ラバーダム防湿の必要性を理解し、操作法の違い を理解し説明できる。 ②操作法の違いを理解し、数歯露出の技術を習得で きる。	同上
10	口腔咽頭吸引（相互）/静脈内採血	①吸引の手順を理解し、安全かつ適切に吸引するこ とができる。 ②採血法の準備、手順を理解しトレーニングモデル を使用し採血できる。	同上
11	口腔機能低下症の検査について	①口腔機能低下症の機能評価について理解し実践で きる。	同上
12	口腔機能低下症の検査について	①口腔機能低下症の機能評価について理解し実践で きる。	同上
13	口腔機能低下症の検査について	①口腔機能低下症の機能評価について理解し実践で きる。	同上
14	暫間被覆冠作製試験（左上1） →各種セメント練和試験	30分以内に模型上にあった暫間被覆冠を作製し、 仮着ができる。	同上
15	暫間被覆冠作製試験（左上1） →各種セメント練和試験	30分以内に模型上にあった暫間被覆冠を作製し、 仮着ができる。	同上

基本情報

学科名	歯科材料学	分野	専門分野 [歯科診療補助論]			講師名	清村 龍朗	
履修学年・学期	1年 後期	授業方式	講義	単位数	1単位	15時間	授業回数	8
教員の 実務経験	歯科医師。歯科診療所院長。							
授業との 関連性	臨床歯科医師としての長年の経験を踏まえ、歯科診療に用いる歯科材料の基礎知識と取り扱いについて講義する。							

詳細情報

授業目標	歯科医療従事者として知っておくべき材料の知識や歯科衛生士としての作業並びにその結果に関わることについての知識と取扱いを学ぶ。									
成績評価 方法	定期試験	92点	小テスト レポート	点	実技・発表 ワーク(演習) など	点	受講態度	8点	合計	100点
	出席点8点(1回欠課1点減点)									
	(学則) 合格点；60点以上とし、不合格の学科目は1回限り再試験を受けることができる。 追試験；学期試験を欠席した場合は1回限り追試験を受けることができる。 欠課；①開始20分以降の遅刻 ②終了20分以前の早退 ③同一学科目で遅刻及び早退を4回した者 受験を認めない要件；各学科目の授業時間数が3分の2に満たない者									
教科書名	歯科衛生学シリーズ「歯科材料」 末瀬一彦著 他 医歯薬出版KK									
参考文献										
使用設備・備 品・準備物	PC・プロジェクター・レーザーポインター									
履修上の 注意	私語禁止									

回	授業計画	到達目標	準備学習	準備物
1	歯科材料と歯科衛生士 歯科材料の基礎知識	①歯科医療と歯科材料の進歩を概説できる。 ②歯科材料の特性を添付文書から読み取ることが出来る。 ③歯科処置の中で使用される材料の特性を理解した上で取り扱うことが出来る。 ④歯科材料の素材を説明できる。 ⑤歯科材料・無機材料・有機材料の一般的特徴を説明できる。 ⑥口腔内外で使用する歯科材料の性質を説明できる。 ⑦歯科材料の所要性質・評価について説明できる		
2	DHに関わる材料 印象材	①小窩裂溝充填材の種類をあげ、使用上の注意点を説明できる。 ②歯科臨床における印象採得の目的を説明できる。 ③印象材の種類と適応例を説明できる。 ④弾性印象材の成分・組成と硬化のメカニズムを説明できる。 ⑤印象採得時の印象材の変形の重要性を説明できる。		・シーラント ・寒天 ・シリコン印象剤 等 各種見本
3	模型材料	①模型用材料として使用されるものを説明できる。 ②石膏の種類と用途を説明できる。 ③石膏の取扱い・一般的性質を説明できる。 ④石膏の硬化反応・混水比を説明できる。 ⑤石膏の硬化時間に与える事象を説明できる。 ⑥石膏の硬化膨張と吸水膨張に与える事象を説明できる。		・普通石膏 ・硬質石膏 ・超硬質石膏の角棒 ・エハンス

回	授業計画	到達目標	準備学習	準備物
4	合着材・接着材	①合着材・接着材の種類と成分及び特性を説明できる。 ②合着材・接着材の所要性質を説明できる。 ③合着材の組成と硬化反応及び特徴を説明できる。 ④接着性レジンセメントの組成と硬化反応及び特徴を説明できる。		各種セメント・接着材各種見本
5	合着材・接着材	①成形修復材の種類と用途を説明できる。 ②成形修復材の取扱いを説明できる。 ③成形修復材の成分・組成と硬化機構を説明できる。 ④成形修復材の歯質との接着機構を説明できる。		コンポジットレジン各種見本
6	仮封材・暫間修復材・仮着セメント	①仮封材の種類と用途を説明できる。 ②仮封材の取扱いを説明できる。 ③仮封材の組成と特徴を説明できる。 ④暫間修復について説明できる。 ⑤暫間修復に使用される種類・材料を説明できる。 ⑥仮着用セメントの目的を説明できる。 ⑦仮着用セメントの種類を説明できる。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ストップピング</li> <li>・シール</li> <li>・テンポラリーセメント等</li> </ul> 各種見本
7	WAX・金属・セラミックス	①ワックスの種類と用途を説明できる。 ②ワックスの性質を説明できる。 ③歯科で使用する金属の安全性について説明できる。 ④歯科で使用する金属の性質を説明できる。 ⑤歯科で使用する合金の種類と用途を説明できる。 ⑥セラミックスについて概説、用途・性質を説明できる。 ⑦セラミックスの用途・性質を説明できる。 ⑧乳歯の被覆冠を列挙できる。 ⑨乳歯用既製金属被覆冠の目的を説明できる。 ⑩歯周パットの目的と性質を説明できる。		WAX各種 <ul style="list-style-type: none"> <li>・パラ</li> <li>・銀合金</li> <li>・CAD用</li> </ul>
8	保存材料・ホワイトニング	①ホワイトニングに使用される材料を説明できる。 ②人工歯の種類を説明できる。 ③義歯床の種類を説明できる。 ④ブリッジ・インプラントに使用される材料を説明できる。 ⑤義歯用裏装材を説明できる。 ⑥CAD/CAMに使用される材料を説明できる。		人工歯・模型見本等

基本情報

学科目名	歯科器械学	分野	専門分野 [歯科診療補助論]			講師名	神山 敬		
履修学年・学期	1年 後期	授業方式	講義	単位数	1単位	15時間	授業回数	8	
教員の実務経験	歯科医師。歯科診療所副院長。本学院教務委員。								
授業との関連性	臨床歯科医師としての長年の経験を踏まえ、歯科器械の名称・用途や取り扱いについて講義する。								

詳細情報

授業目標	歯科器械の名称、形態などを把握し、それぞれの器械の用途を正しく理解する。更に医療事故を未然に防ぐための取り扱いの諸注意を認識する。自らが行う歯科予防処置などの診療行為においては正しい使用法を理解し、安全に使用しなければならない。歯科診療補助においては、歯科医師との絶妙な連携を図るために器械の特徴や構造を理解する。									
成績評価方法	定期試験	80点	小テストレポート	10点×2回	実技・発表ワーク(演習)など	点	受講態度	点	合計	100点
	(学則) 合格点；60点以上とし、不合格の学科目は1回限り再試験を受けることができる。 追試験；学期試験を欠席した場合は1回限り追試験を受けることができる。 欠課；①開始20分以降の遅刻 ②終了20分以前の早退 ③同一学科目で遅刻及び早退を4回した者 受験を認めない要件；各学科目の授業時間数が3分の2に満たない者									

教科書名 歯科衛生学シリーズ「歯科機器」 末瀬一彦 他 著 医歯薬出版KK

参考文献 歯科器械のカタログ、実物の器材。講師が準備するプリントや動画等。

使用設備・備品・準備物 プロジェクター（毎回）、顎模型（第6回）、器具（必要な回の準備物に記載してます）

履修上の注意 1. 次回の授業内容を予習し、習ったことを復習する。  
2. 歯科治療での目的や使用法など分からない事は直ぐに質問する。

必要な場合はご利用ください。

回	授業計画	到達目標	準備学習	準備物
1	1章 歯科診療における器械の概説 2章 一般診療用器械 ①歯科用ユニット 2章 ②ユニット周辺の大型器械 ③マイクロスコープ、双眼ルーペ ④滅菌・消毒用器械 ⑤歯科用画像診断装置	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歯科医療器械の分類について説明できる。</li> <li>・歯科用ユニットの用途、特徴を説明できる。</li> <li>・CAD/CAMテクノロジーのメリットについて説明できる。</li> <li>・歯科用ユニット周辺の大型器械の用途、特徴を説明できる。</li> <li>・歯科診療で使用するマイクロスコープ、双眼ルーペ、滅菌・消毒器械、歯科用画像診断装置、口腔内写真用器材の用途・特徴を説明できる。</li> </ul>	事前配布資料に目を通しておいください	筆記用具、教科書、ムードル内の資料①、②を各自でプリントアウトもしくは、ダウンロードしておいて下さい。（必ずしもプリントアウトする必要はありませんが資料内に穴埋めする箇所があります。）資料③はダウンロードのみで構いません。
2	4章 検査、診断、治療用器械 ①全身管理用器械 ②麻酔用器械 ③救急救命器械 ④歯及び口腔検査用器械 ⑤口腔機能検査用器械	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全身麻酔用器械や麻酔用器械、救急救命器械の用途、特徴を説明できる。</li> <li>・歯及び口腔検査用器械の用途、特徴を説明できる。</li> <li>・口腔機能検査用器械の用途、特徴を説明できる。</li> </ul>	事前配布資料に目を通しておいください	第1回と同じ
3	⑥切削用器械 ⑦成形修復用器械 ⑧歯内療法用器械	<ul style="list-style-type: none"> <li>・切削用器械の用途、特徴を説明できる。</li> <li>・成形修復用器械の用途、特徴を説明できる。</li> <li>・歯内療法用器械の用途、特徴を説明できる。</li> </ul>	事前配布資料に目を通しておいください	第1回と同じ
4	⑨歯周治療用器械 ⑩印象採得用器械 小テスト ①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歯周治療用器械の用途、特徴を説明できる。</li> <li>・印象採得で使用される器材の用途、特徴を説明できる。</li> </ul>	事前配布資料に目を通しておいください 小テスト①は第1回～第4回までの講義の内容についてです	第1回と同じ
5	⑪歯冠修復用器械 ⑫有床義歯用器械 小テスト ① 解説	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歯冠修復用器材の用途、特徴を説明できる。</li> <li>・有床義歯用器械の用途、特徴を説明できる。</li> </ul>	事前配布資料に目を通しておいください	第1回と同じ
6	⑬口腔外科用器械 ⑭インプラント治療に関連する器械	<ul style="list-style-type: none"> <li>・口腔外科用器械の用途、特徴を説明できる。</li> <li>・インプラント治療用器械を説明できる。</li> </ul>	事前配布資料に目を通しておいください	第1回と同じ
7	⑮矯正歯科用器械 ⑯小児歯科用器具	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歯科矯正で使用される器械の用途、特徴を説明できる。</li> <li>・小児歯科用器械の用途、特徴を説明できる。</li> </ul>	事前配布資料に目を通しておいください	第1回と同じ
8	⑰歯科訪問診療用器械 5章 歯科技工用器械 最後のまとめ 小テスト ② 小テスト ② 解説	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歯科訪問診療用器械の用途、特徴を説明できる。</li> <li>・歯科技工室に設置される器械を説明できる。</li> <li>・歯科技工作業で使用される器械を概説できる。</li> </ul>	事前配布資料に目を通しておいください 小テスト②は第5回～第8回までの講義の内容についてです	第1回と同じ



基本情報

学科目名	感染予防学	分野	専門分野 [歯科診療補助論]			講師名	篠原光佑		
履修学年・学期	1年 前期	授業方式	講義	単位数	1単位	15時間	授業回数	8	
教員の実務経験	歯科医師。熊本大学大学院生命科学研究部 歯科口腔外科学講座入局。								
授業との関連性	病院勤務の歯科口腔外科医の経験を踏まえ、感染経路や対策について講義する。								

詳細情報

授業目標	感染症および感染予防に関して正しい知識を修得し、自身にとって安全な医療行為ができるようにする。									
成績評価方法	定期試験	100点	小テストレポート	点	実技・発表ワーク(演習)など	点	受講態度	点	合計	100点
	<p>(学則)</p> <p>合格点：60点以上とし、不合格の学科目は1回限り再試験を受けることができる。</p> <p>追試験：学期試験を欠席した場合は1回限り追試験を受けることができる。</p> <p>欠課：①開始20分以降の遅刻 ②終了20分以前の早退 ③同一学科目で遅刻及び早退を4回した者</p> <p>受験を認めない要件：各学科目の授業時間数が3分の2に満たない者</p>									
教科書名	「感染対策マニュアル」 熊本歯科衛生士専門学校作成									
参考文献	歯科医療における院内感染予防対策マニュアル									
使用設備・備品・準備物										
履修上の注意	配布するプリントを参照しながら特に重要である点を中心に説明していきます。									
回	授業計画				到達目標			準備学習		
1	感染予防学総論				感染予防学を学ぶ意義を理解する。			なし		
2	感染経路・院内感染症				①感染経路について説明できる。 ②院内感染症について理解する。			1回目の授業の復習		
3	滅菌・消毒				①消毒・滅菌について説明できる。 ②消毒・滅菌法の種類および適応を理解する。			2回目の授業の復習		
4	日和見感染・予防接種				①日和見感染症について理解する。 ②ワクチンの種類について理解する。			3回目の授業の復習		
5	針刺し事故及び対策				針刺し事故の予防法および事故後の対応について理解する。			4回目の授業の復習		
6	災害医療				①トリアージについて理解する。 ②災害時に歯科医療従事者ができる事について自分なりに考える事ができる。			5回目の授業の復習		
7	口腔内の感染症				口腔内における感染症の特徴および原因菌について理解する。			6回目の授業の復習		
8	まとめ				これまでに学習した内容について、大切なポイントを再認識する。			7回目の授業の復習		

基本情報

学科目名	介護技術法	分野	専門分野【歯科診療補助論】			講師名	三浦啓介	
履修学年・学期	1年 後期	授業方式	講義・演習	単位数	1単位	30時間	授業回数	15
教員の 実務経験	社会福祉士。介護支援専門員。介護福祉士。居宅介護支援事業所に勤務。							
授業との 関連性	社会福祉士、介護福祉士としての長年の経験を踏まえ、社会福祉制度の概要や介護の知識や技術、態度について講義・演習する。							

詳細情報

授業目標	歯科衛生士として専門的な歯科診療の補助において、高齢者の心身の状態を理解すると共に、障がいを抱えた要介護者等へ対応できる基本的な介護技術、知識および態度を習得する。									
成績評価 方法	定期試験	100点	小テスト レポート	点	実技・発表 ワーク(演習) など	点	受講態度	点	合計	100点
教科書名	「高齢者の歯科診療 はじめの一步 介護・介助の基本スキル」内藤 徹 著他 医歯薬出版KK									
参考文献	授業中に必要に応じて紹介します。									
使用設備・備 品・準備物										
履修上の 注意	講義の前に教科書を熟読し、事前課題を済ませ講義に出席して下さい。 授業では講義の他、演習（実技）も実施していくので、それに対応できる服装で出席して下さい。									

必要な場合はご利用ください。

回	授業計画	到達目標	準備学習	準備物
1	社会福祉制度とサービス 1. 社会福祉法について 2. 社会福祉制度におけるサービスについて	①社会福祉六法の概要を理解できる。 ②社会福祉法における具体的なサービス内容を理解できる。	授業での内容を復習しておく	
2	介護に関する知識と方法（衣生活） 1. 衣類の役割 2. 衣類の選択 3. 衣類介助	①衣類のいろいろな役割を理解する。 ②身体状況に適した衣類の選択を理解する。 ③麻痺等がある高齢者への衣類介助の方法を習得する。	教科書P40～P43を事前に熟読しておく	DVD・プロジェクター・DVDプレイヤー・パソコン
3	介護に関する知識と方法（食事） 1. 食事介助の基本 2. 食事介助の方法	①食事介助の基本的知識を理解する。 ②嚥下障がい、麻痺等のある高齢者への食事介助の方法を習得する。	授業での内容を復習しておく	DVD・プロジェクター・DVDプレイヤー・パソコン
4	要介護者の介護技術（演習） 1. 食事介助 2. 衣類介助	①演習を通じ基本的な食事介助の方法を習得する。 ②嚥下障害にある高齢者への食事介助方法を習得する。 ③麻痺のある高齢者への衣類介助の方法を習得する。	演習で実施したポイントをノートに整理しておく	レジメに記載した物品等
5	歯科診療所・施設での要介護者への対応 1. 車椅子の操作方法 2. 移動・移乗の基本 3. 移乗の介助方法	①車椅子の操作方法及び介助の方法を習得する。 ②移動・移乗の基本的知識を理解する。 ③車椅子から診療チェアへの移乗。	教科書P28～P50を事前に熟読しておく	DVD・プロジェクター・DVDプレイヤー
6	寝たきり高齢者への対応 1. 寝たきり高齢者の状態などの理解 2. 寝たきり高齢者の体位 3. 寝たきり高齢者の介助	①寝たきり高齢者の状態を理解する。 ②体位変換の方法を理解する。 ③起き上がり、移乗介助の方法を習得する。	教科書P52～P72を事前に熟読しておく	DVD・プロジェクター・DVDプレイヤー・パソコン
7	要介護者の介護技術（演習） 1. 車椅子の介助 2. 移動・移乗の介助 3. 寝たきり高齢者の体位交換	①車椅子の操作方法を習得する。 ②ベッド、車椅子、ユニット間の移乗介助を習得する。	演習で実施したポイントをノートに整理しておく	レジメに記載した物品等
8	視覚障がい・言語障がいのある人の介護技術 1. 視覚、言語障がいの原因と種類 2. コミュニケーション 3. 視覚障がい者の歩行介助	①視覚障がい・言語障がいの原因と種類を理解する。 ②コミュニケーションの方法及び対応を習得する。 ③視覚障がい者の介助の方法を取得する。	授業での内容を復習しておく	DVD・プロジェクター・DVDプレイヤー・パソコン
9	視覚障がい者の介護技術（演習） 1. 歩行介助 2. 誘導介助 3. 食事介助	①目的地までの歩行介助の方法を習得する。 ②椅子への誘導介助を習得する。 ③食卓にある食事内容の説明及び介助方法を習得する。	演習で実施したポイントをノートに整理しておく	レジメに記載した物品等

回	授業計画	到達目標	準備学習	準備物
10	介護保険制度に関する知識 1. 介護保険制度について 2. 介護保険制度における各種サービスについて	①介護保険制度の仕組みを理解することができる。 ②介護保険制度を利用し、各種サービスを利用するまでの過程を理解することができる。 ③居宅療養管理指導を理解することができる。	介護保険制度について、事前に自己学習しておく	プロジェクター
11	訪問介護サービスに関する知識 1. 訪問介護サービスとは 2. 訪問介護の業務内容について 3. ホームヘルパーの資格について	①訪問介護サービスの意義を理解することができる。 ②業務内容は何か説明できる	授業での内容を復習しておく	プロジェクター・DVDプレイヤー
12	サービス利用者の理解 1. 高齢者の疾患の理解 2. 認知症の理解 3. 介護者の心理の理解	①高齢者の主な疾患と特徴を理解できる。 ②認知症の症状とその対応方法を習得する。 ③介護者の身体的・精神的な負担を理解できる。	授業での内容を復習しておく	DVD・プロジェクター・DVDプレイヤー・パソコン
13	住環境整備の知識 1. 高齢者が安全に生活できる住環境の理解 2. 住宅改修について	①高齢者、障がい者にとって安全な住まいを整えるための基本視点を理解できる。 ②介護保険制度を利用した住宅改修を覚える。	授業での内容を復習しておく	プロジェクター・DVDプレイヤー
14	介護に関する知識と方法（排泄・身体保清） 1. 排泄介助の基本 2. 排泄介助の方法 3. 身体保清の理解 4. 入浴介助、身体清拭の方法	①排泄介助の基本的知識を理解する。 ②排泄介助の方法を習得する。 ③身体保清の基本的知識を理解する。 ④入浴介助、身体清拭の方法を習得する。	授業での内容を復習しておく	DVD・プロジェクター・DVDプレイヤー・パソコン
15	要介護者の介護技術（演習まとめ） 1. 実践的な演習 2. 確認テスト（予定）	①車椅子での移動・移乗介助を将来、歯科衛生士として対応できるようにユニットを使用し、より実践的な介護技術を習得する。 ②定期テスト前に理解度を確認する目的で実施する。	実施した確認テストを再度、間違った点などを含め復習しておく	レジメに記載した物品等

基本情報

学科目名	摂食機能訓練法	分野	専門分野 [歯科診療補助論]			講師名	我那覇生純		
履修学年・学期	2年 後期	授業方式	講義・演習	単位数	1単位	30時間	授業回数	15	
教員の実務経験	歯科医師。摂食嚥下リハビリテーション学会認定士。日本障害者歯科学会認定医。介護支援専門員。歯科診療所院長。								
授業との関連性	摂食嚥下リハビリテーション学会認定士としての知識や経験を踏まえ、摂食嚥下機能の基礎知識や評価方法、介入の仕方、また多職種との連携について講義・演習する。								

詳細情報

授業目標	歯科衛生士の職業に対して、夢と希望と可能性を感じ、自らがそのミッションを果たして行くという想いを描けるようになる。 口腔機能に対するアプローチ、口腔リハビリテーションについて、知識と技術を学ぶ。 チーム医療の中で多職種との協働を果たす役割を知る。									
成績評価方法	定期試験	100点	小テストレポート	点	実技・発表ワーク(演習)など	点	受講態度	点	合計	100点
教科書名	(学則) 合格点：60点以上とし、不合格の学科目は1回限り再試験を受けることができる。 追試験：学期試験を欠席した場合は1回限り追試験を受けることができる。 欠課：①開始20分以降の遅刻 ②終了20分以前の早退 ③同一学科目で遅刻及び早退を4回した者 受験を認めない要件：各学科目の授業時間数が3分の2に満たない者									
参考文献	必要に応じて参考資料を準備して配布します。									
使用設備・備品・準備物	相互実習の時には学院実習室を使います。									
履修上の注意	初めて聞く言葉、用語に関心を持ち、予習して授業に臨み、集中して授業を聴き、復習を通して理解を深める。解らない事は講師を尋ねて質問をして理解する。									
回	授業計画				到達目標			準備学習		
1	歯科衛生士の働き リハビリテーション医学とは 口腔のリハビリテーションとは 障がいのみかた チーム医療 高齢者の特徴とリハビリテーション上の問題点				在宅歯科医療・訪問歯科医療、病棟、介護施設、障がい者施設において、歯科衛生士に必要とされる口腔機能に対するアプローチに対して、知識、技術を学ぶスタート地点に立つ。			予習して授業に臨み、集中して授業を聴き、復習を通して理解を深める。		
2	口腔機能の評価方法について 観察 診察 スクリーニング				口腔機能の評価方法について学ぶ			//		
3	口腔リハビリテーションに必要な口腔生理学、口腔解剖学の理解 嚥下内視鏡 (VE) 嚥下造影検査 (VF)				摂食嚥下機能を理解する為に、口腔・咽頭・喉頭の解剖学と生理学を学ぶ。 嚥下造影検査 (VF)、嚥下内視鏡検査 (VE) についての理解する。			//		
4	誤嚥と誤嚥性肺炎 誤嚥、窒息への対応				高齢者に多い誤嚥性肺炎についての原因、症状、治療法を理解する。 歯科衛生士が関わり誤嚥性肺炎の予防について理解する。			//		
5	嚥下訓練について 間接訓練				嚥下訓練の間接訓練の方法と手技について相互実習を通して理解する。			//		
6	嚥下訓練について 直接訓練				食べ物を使い行う直接訓練について相互実習を通して理解する。			//		
7	在宅訪問歯科診療における摂食嚥下リハビリテーション				在宅における間接訓練と直接訓練の方法と実際の様子を理解する。			//		
8	小児の摂食嚥下リハビリテーション1				乳幼児の摂食機能についての理解を深める。			//		
9	小児の摂食嚥下リハビリテーション2				乳幼児、小児の口腔機能に対するリハビリテーションについて学び、パンケード法について相互実習を通して理解する。			//		

回	授業計画	到達目標	準備学習
10	介護施設における摂食嚥下リハビリテーション	介護保険施設における間接訓練と直接訓練の方法と実際の様子を理解する。	//
11	介護保険制度について	介護保険制度が出来た事の理解する。 介護保険施設とは、介護サービスの種類の理解する。 歯科医療が関わる介護保険サービスについて理解を深める。	予習して授業に臨み、集中して授業を聴き、復習を通して理解を深める。
12	在宅患者へのリハビリテーションの実際	在宅で療養していく方々に関わる職種と一緒に教室に来て、実際の口腔機能に対するアプローチを見ながら、これからの歯科衛生士に求められる知識と技術を学ぶ。	//
13	認知症の方へのアプローチ	歯科医療が認知症の方々にどのように関わり合えば良いのか、歯科衛生士としての関わり方について理解する。	//
14	多職種との連携について、ケアマネとの連携 管理栄養士との連携 薬剤師との連携 NSTについて	在宅、施設、介護施設において、また、地域の行政や関連機関との連携を通して、一人の患者に対してどのような支援が歯科衛生士として行う事が出来るのかを理解する。 NSTにおける歯科衛生士の役割について理解する。	//
15	まとめ これまでの講義の重要事項の確認 実際の現場における歯科衛生士の働き	実際の摂食嚥下訓練の様子と口腔リハビリ、歯科衛生士の活動の様子を紹介して、これから求められる歯科衛生士像を提示する。	//



基本情報

学科名	隣接医学救急蘇生法 I	分野	専門分野 [歯科診療補助論]			講師名	渡辺 洋	
履修学年・学期	2年 前期	授業方式	講義	単位数	2単位	30時間	授業回数	8
教員の 実務経験	歯科医師。福岡歯科大学歯科麻酔講座医員。歯科診療所院長。							
授業との 関連性	大学病院歯科麻酔講座医員の経験を踏まえ、全身疾患の基礎知識と歯科診療上の注意点について講義する。							

詳細情報

授業目標	歯科衛生士として、全身疾患に関わる幅広い知識を習得する。									
成績評価 方法	定期試験	100点	小テスト レポート	点	実技・発表 ワーク(演習) など	点	受講態度	点	合計	100点
	<b>(学則)</b> 合格点：60点以上とし、不合格の学科目は1回限り <b>再試験</b> を受けることができる。 追試験：学期試験を欠席した場合は1回限り <b>追試験</b> を受けることができる。 欠課：①開始20分以降の遅刻 ②終了20分以前の早退 ③同一学科目で遅刻及び早退を4回した者 <b>受験を認めない要件</b> ：各学科目の授業時間数が3分の2に満たない者									
教科書名	「歯科衛生士版 改訂 全身管理と救急蘇生法」 渋谷 鈺著 学際企画 「イラストでわかる歯科医学の基礎」 淵端 孟著 他 永末書店 「歯科衛生士のための全身疾患ハンドブック」 橋本賢二著 他 医歯薬出版株式会社									
参考文献										
使用設備・備 品・準備物										
履修上の 注意										
回	授業計画			到達目標			準備学習			
1	総論/循環の生理・解剖			①この学科目で学習する内容を理解する。 ②救急処置の重要性について理解する。 ③救急処置について歯科医行為と歯科衛生士法を理解する。 ④歯科診療室での全身疾患偶発症の主な原因を知る。 ⑤心臓の構造と特性について理解する。 ⑥心電図とは何か説明できる。 ⑦体循環と肺循環について説明できる。			該当する部分を読んでおく			
2	呼吸の生理・解剖/循環器系・呼吸器系の疾患			①呼吸とは何か説明できる。 ②呼吸器の構造と呼吸運動、呼吸の調節について理解する。 ③肺気量について説明できる。 ④肺胞のガス交換について理解する。			該当する部分を読んでおく			
3	循環器系・呼吸器系の疾患/自律神経			①循環器疾患並びに呼吸器疾患の主な疾患名とそれぞれの疾患の概要、症状について理解する。 ②歯科治療に際して注意すべきことについて理解する。 ③自律神経とは何か説明できる。 ④自律神経の分類と各々の働きを説明できる。			該当する部分を読んでおく			

回	授業計画	到達目標	準備学習
4	全身の検査と評価	①バイタルサインとは何か説明できる。 ②脈拍とは何か、観察部位、触知方法について説明でき測定できる。 ③脈拍の観察（数、リズム等）を説明できる。 ④呼吸の観察方法を説明できる。 ⑤血圧とは何か、血圧の測定方法、測定時の注意を理解し、測定ができる。 ⑥体温とは何か、測定部位と特徴、体温の正常と異常、影響する因子が説明できる。 ⑦意識レベルの観察方法、モニタリングについて理解する。 ⑧臨床検査値の検査項目・基準値の理解	該当する部分を読んでおく
5	歯科治療と麻酔/全身麻酔と救急蘇生	①麻酔法の種類と特徴について理解する。 ②歯科用局所麻酔薬の種類と特徴、使用方法について理解する。 ③注射針の特徴について理解する。 ④笑気吸入法、静脈内鎮静法の特徴と方法について理解する。 ⑤鎮静法の適用と禁忌について理解する。 ⑥全身麻酔とは何か、歯科における適応症を理解する。 ⑦全身麻酔薬の種類と特徴を理解する。 ⑧救急蘇生の概要について理解する。 （詳細は3年次に履修）	該当する部分を読んでおく
6	代謝系疾患	①糖尿病とは何か、症状等について理解する。 ②糖尿病患者への歯科治療時の注意点と歯周病リスクについて理解する。 ③甲状腺機能障害とは何か、症状等について理解する。 ④甲状腺機能障害患者への歯科治療時の注意点について理解する。	該当する部分を読んでおく
7	アレルギー疾患/血液に係わる疾患/歯科における薬剤	①アレルギーの反応型を理解する。 ②薬物アレルギーについて理解する。 ③血液疾患の種類と各々の症状について理解する。 ④血液疾患患者の歯科治療時の注意点を理解する。 ⑤歯科における薬剤の種類と使用上の注意点を理解する。 ⑥歯科治療における投薬時の注意点と服薬指導について理解する。	該当する部分を読んでおく
8	一般臨床と全身疾患の係わりについて/口腔領域の解剖/総括	①一般臨床と全身疾患の関わりについて理解する。 ②口腔領域の解剖について理解する。 ③これまで学習した内容を再度確認し、解らない所を質問し理解する。	該当する部分を読んでおく

基本情報

学科目名	隣接医学救急蘇生法Ⅱ	分野	専門分野 [歯科診療補助論]			講師名	吉武 博美	
履修学年・学期	3年 前期	授業方式	講義/演習	単位数	1単位	15時間	授業回数	8
教員の 実務経験	歯科医師。歯科口腔病院勤務。日本歯科麻酔専門医。日本障害者歯科学会専門医。有病者歯科医療学会指導医。AHA-BLSインストラクター歯科医師。							
授業との 関連性	日本歯科麻酔学会認定医・臨床歯科医の経験を踏まえ、救急蘇生の基礎知識、歯科診療時における全身的偶発症や注意が必要な患者の歯科治療について講義を行う。							

詳細情報

授業目標	1. 歯科診療において、患者様に起こり得る合併症とその対処法について理解できる。 2. 救急蘇生を行うべき状態に早期に気づき、適切に対処できる能力を身につける。									
成績評価 方法	定期試験	60点	小テスト レポート	20点	実技・発表 ワーク(演習) など	10点	受講態度	10点	合計	100点
教科書名	「歯科衛生士版 改訂 全身管理と救急蘇生法」 渋谷 敏著 学際企画									
参考文献										
使用設備・備 品・準備物	PC プロジェクター スピーカー									
履修上の 注意	授業の最初に前回の復習小テストをします									

必要な場合はご利用ください。

回	授業計画	到達目標	準備学習	準備物
1	第1章 序論 第2章 救急処置に必要な基礎知識	1. 救急処置の重要性について理解できる。 2. 呼吸の生理・解剖について理解できる。 3. 循環の生理・解剖について理解できる。 4. 自律神経について理解できる。		
2	第3章 バイタルサイン 第4章 全身状態の評価	1. バイタルサインの要素（脈拍、呼吸、血圧、体温、意識）の評価方法とその意義について理解できる。 2. バイタルサインの測定機器と方法について理解できる。	前回の復習	血圧計 聴診器 SpO2モニター
3	第5章 歯科診療時における全身的偶発症	1. バイタルサインの要素（脈拍、呼吸、血圧、体温、意識）の評価方法とその意義について理解できる。 2. バイタルサインの測定機器と方法について理解できる。	前回の復習	
4	第6章 全身疾患を有する患者の歯科治療 (注意が必要な患者の歯科治療)	1. 歯科診療を行うにあたり特に注意を要する基礎疾患について理解できる。 (1) 循環器系疾患 (2) 呼吸器疾患 (3) 内分泌・代謝系疾患 (4) その他の疾患	前回の復習	
5	第7章 麻酔法 第9章 一般的な救急処置	1. 各種麻酔法について理解できる。(局所麻酔、精神鎮静法、全身麻酔法、はり麻酔など) 2. 外傷、熱傷に対する一般的な救急処置について理解できる。 3. 止血法について理解できる。	前回の復習	
6	第8章 救急蘇生法	1. 救急蘇生法を行うにあたって必要な知識を身につける。(体位、患者搬送、加温・保温、心肺蘇生法、酸素療法、静脈路確保、点滴法、救急処置に必要な器具・器材・薬剤) 2. 救急蘇生の基礎知識について理解できる。	前回の復習	
7	救急蘇生法 演習	1. 救急蘇生法が必要な患者を早期に認知できる。 2. 正しい方法で、胸骨圧迫・AED使用を実施することができる。 3. 実際に救急蘇生法を実施することができる。		
8	救急蘇生法 演習	1. 救急蘇生法が必要な患者を早期に認知できる。 2. 正しい方法で、胸骨圧迫・AED使用を実施することができる。 3. 実際に救急蘇生法を実施することができる。		

# 【 臨床実習 】 令和 6 年度 シラバス

<b>講師名</b>	臨床実習指導担当歯科医師、歯科衛生士	<b>実務経験</b>	各病院歯科口腔外科、各歯科診療所の歯科医師・歯科衛生士
<b>授業との関連性</b>	①臨床歯科医師並びに臨床歯科衛生士としての豊富な経験を踏まえ、医療人の基本姿勢や歯科衛生士として必要な知識、技術について指導を行う。		

臨床実習の目的		臨床実習の評価	
1 年次、見学を通し、歯科医療サービスの特徴や歯科衛生士の業務を理解し、将来の歯科衛生士像を明確にする。 その後、2 年次において、1 年次に学んだ基礎実習及び 2 年次での臨床歯科医学を座学と平行して臨床現場で学びながら、歯科治療全体の流れを理解する。 また 3 年次においては、これまでに修得した臨床歯科医学の知識及び技術の各論を確実なものとするを目的とする。		1. 出席状況を評価し欠席の場合は補充実習を実施する。 2. 各臨床実習施設にて評価表に基づき評価、今後の課題を明記していただき個々の学生に指導を行う。	
<b>名 称</b>	<b>臨床実習Ⅰ</b>	<b>臨床実習Ⅱ</b>	<b>臨床実習Ⅲ</b>
該当学年	1 年生（第 6 1 期生）	2 年生（第 6 0 期生）	3 年生（第 5 9 期生）
日 程	令和 6 年 5 月 2 0 日（月）～令和 6 年 5 月 2 5 日（土）	令和 6 年 1 1 月 1 1 日（月）～令和 6 年 1 2 月 1 9 日（木）	令和 6 年 4 月 2 2 日（月）～令和 6 年 7 月 2 6 日（金） / 令和 6 年 9 月 2 4 日（火）～令和 6 年 1 0 月 3 1 日（木）
総日数	6 日間	2 8 日間	6 0 日間
単位数 (総時間)	1 単位（4 5 時間）	5 単位（2 2 5 時間）	1 2 単位（5 4 0 時間）
実習時間	8：30～16：30（1日 8時間×5） 8：30～13：30（1日 5時間×1） * 昼食時間を含む	8：30～16：30（1日 8時間×28） 事前OR 1時間 * 昼食時間を含む	8：00～17：00 又は 8：30～17：30（1日 9時間×57） * 昼食時間を含む 事前OR 3時間
実習機関 及び 学生割り振り	<一般歯科> 1 診療所 1～2 名 * 但し、学生数により 人数の変更や実習施設のお休みもあります。	<一般歯科> 1 診療所 2 名 * 但し、学生数により 人数の変更や実習施設のお休みもあります。	各病院 1～2 名ずつ <一般歯科> 1 診療所 2 名ずつ <矯正歯科> 1 診療所 2 名ずつ * 但し、学生数により人数の変更や実習施設のお休みもあります。  口腔保健センター 2～3 名ずつ
目的	見学を通し、歯科医療サービスの特徴や歯科衛生士の業務を理解し、将来の歯科衛生士像を明確にする。	1 年次に学んだ基礎実習及び臨床歯科医学を座学と平行して臨床現場で学びながら、歯科治療全体の流れを理解する。	・これまでに履修した臨床歯科医学の知識及び技術の各論を確実なものとする。 ・外来・入院患者に応じた対応を学び、対象者を包括的に評価、理解する能力を身につける。 ・歯科衛生士の担う役割を理解し、歯科診療、専門的口腔ケアを通じ、全身の健康維持増進、生活の質の向上に貢献できる能力を身につける。
一般目標	(1) 見学するに見合う態度と心構えを身につける。 (2) 受付から処置、退出までの歯科医療の概要を学ぶ。 (3) 歯科衛生士としての専門職を見学し、歯科医療における役割を理解する。	(1) 診療の介助及び補助を学ぶ。 (2) 環境、器材、材料等の整備ができる習慣を身につける。 (3) 目標を達成するために、学習習慣を身につける。	<b>一般歯科医院/矯正歯科医院</b> (1) 医療職としての基本姿勢を身につける。 (2) 学院内で修得した知識、技術を実践できる能力を身につける。 (3) 予防処置・保健指導を実施するために必要な知識と技術を学ぶ。 (4) 患者教育に必要な知識と技術を学ぶ。  <b>病院（歯科外来・病棟）/歯科口腔病院</b> (1) 医療職としての基本姿勢を身につける。 (2) 対象者の状態を包括的に把握し、健康段階に応じた生体機能の変化を理解する。 (3) 予防処置・保健指導を実施するために必要な知識と技術を学ぶ。 (4) 患者教育に必要な知識と技術を学ぶ。 (5) 口腔保健の専門職としての役割と多職種との連携を学ぶ。
行動目標	(1) 見学するに見合う態度と心構えを身につける。 ①医療人として身だしなみは清潔・機能的である。 ②患者さんやスタッフに対して、挨拶ができる。 ③相手に応じた正しい言葉遣いができる。 ④謙虚な姿勢で実習に取り組むことができる。 ⑤わからないことを積極的に質問できる。 ⑥自己の健康管理ができる。 ⑦担当者に報告・連絡・相談ができる。 (2) 受付から処置、退出までの歯科医療の概要を学ぶ。 ①見学内容の理解を深めるために、実習手帳に記録することができる。 ②わからないことは自分で調べ記録することができる。 (3) 歯科衛生士としての専門職を見学し、歯科医療における役割を理解する。 ①歯科衛生士の歯科診療における役割を説明することができる。	(1) 診療の介助及び補助を学ぶ。 ①対象者の心理を理解し、配慮ができる。 ②適切な診療器材を選択し、準備ができる。 ③対象者と望ましいコミュニケーションをとることができる。 (2) 環境、器材、材料等の整備ができる習慣を身につける。 ①患者が快適な診療を受けられるように環境を整備することができる。 ②滅菌・消毒の意義を考えながら適切な方法で滅菌、消毒を行うことができる。 ③器械、器具、材料、薬品の用途を理解することができる。 ④医療廃棄物の取り扱いについて担当者の指導のもとに適切に処理することができる。 (3) 目標を達成するために、学習習慣を身につける。 ①意欲的に取り組むことができる。 ②疑問点について列挙し、積極的に調べることができる。 ③疑問点についてわからないことは質問することができる。 ④必要な文献や資料を収集し、適切にまとめることができる。	<b>口腔保健センター（障害者歯科診療）</b> (1) 障害の種類と特徴を学ぶ。 (2) 障害者歯科における患者対応の困難性を理解し、それに対する歯科衛生士の行動調整法を学ぶ。 (3) 障害者への対応に必要な歯科衛生士としての態度、姿勢を学ぶ。 (4) 口腔保健センターの特徴を学ぶ。



# 【 臨地実習 】令和6年度 シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	臨地実習指導担当者	実務経験	①各障害者施設、高齢者施設における社会福祉士、介護福祉士、保育士、作業療法士、歯科衛生士。
授業との関連性	①各障害者施設、高齢者施設において各専門職の経験を活かし、さまざまな人の生き方、対象者の立場を尊重したコミュニケーションのあり方、口腔保健の支援ができる態度と技能を教育する。		

項 目	障がい者(児)施設実習	高齢者施設実習
実施期間	3年次 令和6年5月7日(月)～5月29日(水) 施設によっては日程が変更の場合もあります。	
実習曜日	1人当り3日間(月～水曜日) 祭日を含む時は木曜日実習	1人当り3日間(月～水曜日) 祭日を含む時は木曜日実習
実習時間	8:30～17:00(8.5時間) ※施設によっては開始時間の 変更もあります。	8:30～17:00(8.5時間) ※施設によっては開始時間の 変更もあります。
時間数	25.5	25.5
施設数	4施設	3施設
単位数	1単位	
評価	出席状況を評価し欠席の場合は補充実習を実施する。また各臨床実習施設にて評価表に基づき評価、今後の課題を明記していただき個々の学生に指導を行う。	
準備学習	障害者の定義と概要、原因、特性や高齢者の身体的特徴や対応、障害別の歯科的特徴など要点をまとめ提出期限までに点検を受ける。	
目的	心身障がい者施設において、障がいの特徴を理解し、対象者に応じたコミュニケーションのあり方を学ぶ。また専門的立場から心身の機能に合った口腔保健の支援をすることができる能力を養うことを目的とする。	高齢者施設の現場において、さまざまな人の生き方、対象者の立場を尊重したコミュニケーションのあり方を学ぶ。また、専門的立場から本人又は介助者へ口腔保健の支援が実践できる能力を養い、生活の質の向上に寄与する能力を身につけることを目的とする。
一般目標	(1) 社会福祉に関して正しく理解し、幅広い社会観や人生観を養う。	(1) 社会福祉に関して正しく理解し、幅広い社会観や人生観を養う。
	(2) 対象者に応じたコミュニケーションのあり方を学ぶ。	(2) 対象者の立場を尊重したコミュニケーションのあり方を学ぶ。
	(3) 障がいの種類と特徴を学ぶ。	(3) 高齢者の身体及び生理の特徴を学ぶ。
	(4) 日常生活介助の方法を修得する。	(4) 日常生活介助の方法を修得する。
	(5) 専門的立場から口腔保健支援の態度と技能を学ぶ。	(5) 専門的立場から口腔保健支援の態度と技能を学ぶ。
行動目標	(1) 社会福祉に関して正しく理解し、幅広い社会観や人生観を養う。 ①ノーマライゼーションの理念を的確に説明できる。 ②障がい者施設の種類と特徴を説明することができる。 ③施設で働く職種と業務(役割)を簡単に説明できる。 ④歯科に関わる福祉サービスについて簡単に説明できる。 ⑤他職種と連携のあり方を理解することができる。	(1) 社会福祉に関して正しく理解し、幅広い社会観や人生観を養う。 ①ノーマライゼーションの理念を的確に説明できる。 ②高齢者施設の種類と特徴を説明することができる。 ③施設で働く職種と業務(役割)を簡単に説明できる。 ④他職種と連携のあり方を理解することができる。
	(2) 対象者に応じたコミュニケーションのあり方を学ぶ。 ①対象者の立場を尊重した適切な対応、傾聴、受容ができる。 ②障がい者の対応に必要な声掛けやコミュニケーションがとれる。	(2) 対象者の立場を尊重したコミュニケーションのあり方を学ぶ。 ①対象者の立場を尊重した適切な対応、傾聴、受容ができる。 ②対象者に応じたスピードで話すことができる。
	(3) 障がいの種類と特徴を学ぶ。 ①障がいの種類について説明することができる。 ②各種障がいについて身体的・精神的特徴について説明できる。	(3) 高齢者の身体及び生理の特徴を学ぶ。 ①加齢に伴う身体の特徴を説明できる。 ②対象者の抱える疾病と特徴を簡単に説明できる。
	(4) 日常生活介助の方法を修得する。 ①車椅子など生活支援用具の的確な操作ができる。 ②対象者の心身状態に合わせて食事介助ができる。	(4) 日常生活介助の方法を修得する。 ①車椅子など生活支援用具の的確な操作ができる。 ②対象者の心身状態に合わせて食事介助ができる。
	(5) 専門的立場から口腔保健支援の態度と技能を学ぶ。 ①障がい者についての口腔保健管理に必要な情報が収集できる。 ②適切な環境と安全の確保ができる。 ③口腔内細部まで観察することができる。 ④障がい者に対する口腔ケアが実践できる。 ⑤口腔保健管理の必要性を述べることができる。 ⑥歯磨きの自立を援助することができる。	(5) 専門的立場から口腔保健支援の態度と技能を学ぶ。 ①高齢者についての口腔保健管理に必要な情報が収集できる。 ②口腔衛生時に適切な環境と安全の確保ができる。 ③口腔内細部まで観察することができる。 ④高齢者や介助者に対する口腔ケアが実施できる。 ⑤口腔保健管理の必要性を述べることができる。



## 【 臨地実習 】令和6年度 シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	臨地実習指導担当者	実務経験	各区役所における歯科医師、歯科衛生士。
授業との関連性	各区役所での歯科医師、歯科衛生士などの経験を活かし、区役所保健こども課の概要を理解し、多職種との連携における歯科保健サービスの展開を教育する。		
項目	区役所実習		
実施期間	3年次 令和6年5月20日(月)～6月13日(木)		
実習曜日	1人当り4日間 (月～木曜日)		
実習時間	8:30～17:00 (8.5時間)		
時間数	34		
施設数	5施設		
単位数	1単位		
評価	出席状況进行评估し欠席の場合は補充実習を実施する。また各臨床実習施設にて評価表に基づき評価、今後の課題を明記していただき個々の学生に指導を行う。		
準備学習	<p>1. 配布資料及び熊本市のホームページ等から、市の組織や業務内容について各自で十分に調査を行いレポートを作成していただきます。また、事前に実習先（区役所保健こども課）や保健所の機能を十分理解し、実習生自身の課題・質問事項を明確にして実習に臨むようお願いします。特に、レポート等について、各区役所から下記のような意見が出ています。</p> <p>①「実習生が保健所と区役所の違い、業務分担について理解しないまま実習に来ている」                  ②「区役所で学びたいことのレポートに、保健所の業務を記載している」</p> <p>このことから、配布資料の「熊本市における保健所機能の特徴」をご覧ください実習先である区役所の業務分担をきちんと理解して実習に臨んでいただくよう重ねてお願いします。</p> <p>2. ①1歳6か月児健康診査②3歳児健康診査③フッ化物応用など要点をまとめ提出期限までに点検を受ける。</p>		
目的	<p>1. 地域における保健福祉サービスの拠点である区役所保健こども課の概要を理解する。</p> <p>2. 多職種との連携における歯科保健サービスの展開を理解する。</p> <p>3. 将来歯科衛生士として、地域保健医療に従事するため、保健医療専門職としての自覚と責任のもとに地域保健組織活動について理解し、実践力を修得する。</p> <p>4. 各種健診・住民健康教室・相談事業等を通して、対象者が全身と口腔の健康を自ら管理できるための支援の方法を修得する。</p>		
一般目標 行動目標	<p>(抜粋)</p> <p>(1) 区役所保健こども課の概要を理解する。</p> <p>(2) 歯科口腔保健の推進に関する法律、地域保健法及び健康増進法に基づく保健福祉活動を理解する。</p> <p>(3) 全身の健康と口腔の健康の関連を理解し、総合的に対象者の状態を把握する能力を身につける。</p> <p>(4) 対象者に応じた話し方や言葉遣いを修得する。</p> <p>(5) 集団に対する健康教育の方法と技術を実践を通して身につける。</p> <p>(6) フッ化物についての有効性、安全性及び注意点を正しく理解する。</p> <p>(7) フッ化物塗布及び洗口法の各種実施方法を修得する。</p>		

基本情報

学科目名	総合歯科学	分野	専門分野[総合歯科学]			講師名	各分野担当講師	
履修学年・学期	3年 後期	授業方式	講義	単位数	5単位	150時間	授業回数	75
教員の 実務経験	各歯科診療所歯科医師、歯科衛生士。大学教授。管理栄養士。本学院専任教員(歯科衛生士)。							
授業との 関連性	夫々の経験を活かし、これまで学んだ歯科衛生士としての必要な知識をさらに確認することで歯科衛生士国家試験に合格できるよう講義を行う。							

詳細情報

授業目標	広範囲にわたる歯科医療に関する知識を再確認し、歯科衛生士国家試験に合格するための知識を習得することを目的とする。									
成績評価 方法	定期試験	220点	小テスト レポート	点	実技・発表 ワーク(演習) など	点	受講態度	点	合計	220点
	<b>合格点</b> ；歯科衛生士国家試験に合わせた出題とし <b>132点以上</b> を合格とする。不合格の学科目は1回限り <b>再試験</b> を受けることができる。 <b>追試験</b> ；学期試験を欠席した場合は1回限り <b>追試験</b> を受けることができる。 <b>欠課</b> ；①開始20分以降の遅刻 ②終了20分以前の早退 ③同一学科目で遅刻及び早退を4回した者 <b>受験を認めない要件</b> ；各科目の授業時間数が3分の2に満たない者									
教科書名	各科目の教本 国家試験のための問題集									
参考文献										
使用設備・備 品・準備物										
履修上の 注意	1. 講義の前には、わからないことなどを確認し、講義は質問などをし積極的に受講すること。 2. 事前に配布された問題等は、必ず解答し受講すること。 3. 教本、ノート、問題集など指示されたものは忘れず持参すること。 4. 歯科衛生士国家試験合格を目指し、講義で行われる小テスト等は合格点がとれるよう努力すること。									

回	授業計画	到達目標	準備学習	準備物
1	(歯科衛生学分野) 1 歯科衛生士法と業務、歯科衛生士義務等について	歯科衛生士法について重要な項目を再度確認し理解する。	わからないことなどを確認し、質問できるようにしておく。配布された問題は解答しておく。	教本、ノート、問題集など
2	(歯科診療補助法分野) 1 主要材料の種類、取り扱いと管理	主要材料の種類と取り扱いについて理解する。 国家試験に出題される大切なポイントを確認する。		
3	(歯科衛生学分野) 2 国家試験問題の解説 質疑応答	国家試験に出題される大切なポイントを確認する。		
4	(歯科予防処置法分野) 1 歯科予防処置の概要、口腔の汚れ、歯・口腔の状態把握	口腔の汚れ、歯・口腔の状態把握の重要ポイントを再確認する。 国家試験に出題された大切なポイントを理解する。		
5	(歯牙解剖学分野) 歯科解剖学の再確認 国家試験問題解説	歯牙解剖に関する出題基準を理解し、関連項目の理解を深める。 過去の国家試験問題を解き、大切なポイントを再確認する。		
6	(歯科予防処置法分野) 2 ブローピング、スケーラーの種類と用途、スケーリング 国家試験問題解説	ブローピング、スケーラーの種類、スケーリングの重要ポイントを再確認する。 国家試験に出題される大切なポイントを理解する。		
7	(歯科矯正学分野) 1 歯科矯正の総論 不正咬合の種類と原因	不正咬合の種類や原因について過去問題を解きながら理解を深める。		
8	(障害者歯科学分野) 1 国家試験問題の疑問点確認、復習①	国家試験に関わる疑問点について理解する。		

回	授業計画	到達目標	準備学習	準備物
9	(衛生公衆衛生学分野) 1 新しく変わった部分の解説 プリント解説 小テスト	衛生公衆衛生学分野において、新しく変更になったり、追加された項目について理解する。 国家試験によく出題される大切なポイントを確認する。	わからないことなどを確認し、質問できるようにしておく。配布された問題は解答しておく。	教本、ノート、問題集など
10	(介護技術法分野) 国家試験問題解説①	重要なポイントを過去の問題を解きながら確認する。		
11	(歯科保健指導法分野) 1 対象把握 歯科衛生過程の進め方、生活自立度、BDR指標 全身状態の把握	国家試験の出題基準である対象把握と全身状態把握のポイントを理解することができる。		
12	(生化学口腔生化学分野) 1 糖質、脂質、タンパク質の代謝 歯・口の生化学	糖質、脂質、タンパク質の代謝について再確認する。また、歯、口の生化学についても理解する。 国家試験問題を解き大切なポイントを認識する。		
13	(解剖生理学分野) 1 人体解剖学の総論 国家試験問題解説	人体解剖学の総論について再度確認する。 国家試験問題を解き、理解を深め、国家試験に出題された大切なポイントを理解する。		
14	(保存修復歯内療法学分野) 1 保存修復各論 国家試験問題の解説	保存修復の各論について理解する。 国家試験に多く出題される大切なポイントを確認する。		
15	(歯科診療補助法分野) 2 保存治療時の診療補助	保存治療時の歯科診療補助分野の重要なポイントを再確認する。 国家試験に出題された大切なポイントを理解する。		
16	(微生物学分野) 国家試験問題解説①	これまでに出版された国家試験の問題を解き理解力を身につける。		
17	(微生物学分野) 国家試験問題解説②	微生物学分野について重要なポイントを過去の問題を解きながら確認する。		
18	(歯科口腔放射線学分野) 1 過去の国家試験問題、予想問題の解説	過去の国家試験問題を解いて、国家試験に合格できる理解力を身につける。		
19	(歯科矯正学分野) 2 歯科矯正の各論 各不正咬合の処置法と使用器材 など	矯正歯科学についての国家試験問題を認識し、重要なポイントを確認する。		
20	(障害者歯科学分野) 国家試験問題の疑問点確認、復習②	国家試験に関わる疑問点について理解する。		
21	(衛生公衆衛生学分野) 2 小テスト解説 プリント解説(残り) ポイントチェック	小テストを解説することで重要なポイントを再確認する。 国家試験に出題された大切なポイントを理解する。		
22	(口腔外科学分野) 口腔外科疾患① 国家試験問題解答と解説	口腔外科疾患について理解する。 国家試験に多く出題される大切なポイントを確認する。		

回	授業計画	到達目標	準備学習	準備物
23	(保健指導法分野) 2 保健指導概要 保健教育 ヘルスプロモーション 国家試験のための練習問題と解説	保健指導の概要、ヘルスプロモーション、保健教育等言葉の意味を理解する。国家試験に出題される大切なポイントを確認する。	わからないことなどを確認し、質問できるようにしておく。配布された問題は解答しておく。	教本、ノート、問題集など
24	(生化学口腔生化学分野) 2 歯の構成成分 唾液 歯の堆積物 国家試験問題解説	歯の構成成分、唾液、歯の堆積物について再確認する。過去の国家試験問題を解き、重要なポイントを理解する。		
25	(解剖生理学分野) 2 生理学分野国家試験直前対策	生理学に関する国家試験問題を解きながら大切なポイントを理解する。		
26	(歯科予防処置法分野) 3 歯面研磨、PMTC	歯面研磨、PMTCについて再確認する。国家試験に関する出題を解き大切なポイントを理解する。		
27	(隣接医学救急蘇生法分野) 国家試験問題の解説 質疑応答	国家試験に出題される大切なポイントを確認する。		
28	(隣接医学救急蘇生法分野) 国家試験問題の解説 質疑応答	国家試験に出題される大切なポイントを確認する。		
29	(高齢者歯科学分野) 高齢者の現状、健康と疾病、高齢者の口腔の特徴、高齢者と薬剤について、高齢者の歯科疾患と歯科衛生士の関わりについて	高齢者、高齢者歯科に関わる基礎知識を理解する。国家試験に出題されている関連事項を理解する。		
30	(歯科補綴学分野) 1 歯科補綴学の概論	歯科補綴の概要について理解する。国家試験に出題される大切なポイントを確認する。		
31	(歯科口腔放射線学分野) 2 過去の国家試験問題、予想問題の解説	過去の国家試験問題を解き、予想問題を理解する。		
32	(口腔衛生学分野) 1 口腔衛生学テキスト 国家試験問題の解説 質疑応答	口腔衛生学の領域において、国家試験に出題される大切なポイントを確認する。		
33	(口腔外科学分野) 口腔外科疾患② 国家試験問題解答と解説	口腔外科疾患について理解する。国家試験に多く出題される大切なポイントを確認する。		
34	(組織発生学分野) 組織発生学に関する補習講義 国家試験問題解説	組織発生学分野について概要を理解する。国家試験に出題される大切なポイントを確認する。		
35	(歯科材料学分野) 1 印象材、歯冠修復材	印象材、歯冠修復剤について理解する。国家試験に出題される大切なポイントを確認する。		
36	(小児歯科学分野) 1 小児の発育 小児歯科疾患 国家試験練習問題	小児の発育、小児歯科疾患の重要ポイントを再確認する。国家試験に出題された大切なポイントを確認する。		

回	授業計画	到達目標	準備学習	準備物
37	(保健情報統計学分野) 2年次講義の復習① 国家試験問題演習	歯科衛生統計分野の重要ポイントを再確認する。 国家試験に出題された大切なポイントを理解する。	わからないことなどを確認し、質問できるようにしておく。配布された問題は解答しておく。	教本、ノート、問題集など
38	(保健情報統計学分野) 2年次講義の復習② 国家試験問題演習	歯科衛生統計分野の重要ポイントを再確認する。 国家試験に出題された大切なポイントを理解する。		
39	(歯周療法学分野) 1 歯周療法の概要	歯周療法の概要がわかる。 国家試験に出題される大切なポイントを確認する。		
40	(歯科補綴学分野) 1 歯科補綴各論 各補綴物の長所、短所など	各補綴物の長所や短所を理解する。 国家試験に出題される大切なポイントを確認する。		
41	(口腔衛生学分野) 2 口腔衛生学テキスト第1～4章 国家試験問題の解説	口腔衛生学分野の重要ポイントを再確認する。 国家試験に出題される大切なポイントを理解する。		
42	(医療倫理学分野) 国家試験問題の解説	国家試験に出題される大切なポイントを確認する。		
43	(病理学分野) 国家試験問題解説	病理学の大切なポイントを理解する。 国家試験に出題される大切なポイントを確認する。		
44	(栄養指導分野) 1 国試の麗人 8-1 生化学の解説 8-2 栄養素の解説	生化学の概要、栄養素について理解を深める。 国家試験に出題される大切なポイントを確認する。		
45	(歯科予防処置法分野) 4 う蝕活動性試験、う蝕予防処置法の基礎知識、フッ化物歯面塗布	う蝕活動性試験、う蝕予防処置の各方法、フッ化物の応用について再確認する。 国家試験に出題された問題を解きポイントを理解する。		
46	(歯科材料学分野) 2 合着材、接着材、仮封材	合着材、接着材、仮封材について理解する。 国家試験に関する大切なポイントを確認する。		
47	(小児歯科学分野) 2 小児期の特徴と歯科疾患 小児歯科における診療補助 国家試験問題解説	小児期の特徴と歯科疾患、小児歯科における診療補助について再確認する。 国家試験を解き解説を理解する。		
48	(歯科診療補助法分野) 3 補綴治療時の診療補助	補綴治療時の歯科診療補分野の重要ポイントを再確認する。 国家試験に出題された大切なポイントを理解する。		
49	(口腔解剖口腔生理学分野) 1 口腔解剖口腔生理学のポイント 解説	口腔解剖口腔生理学の大切なポイントを過去の問題を解きながら再確認する。		
50	(口腔病理学分野) 1 歯の発育異常 う蝕 象牙質・歯髄・複合体の病変 国家試験問題	歯の発育異常、う蝕等の大切なポイントを理解する。 国家試験問題により、出題ポイントを認識する。		
51	(歯周療法学分野) 2 歯周治療 イニシャルプレパレーションの準備と補助 外科的歯周療法用器具の種類と説明	歯周治療、イニシャルプレパレーションの準備と補助、外科的歯周療法用器具と用途について理解する。 国家試験に出題される大切なポイントを確認する。		



回	授業計画	到達目標	準備学習	準備物
52	(保存修復歯内療法学分野) 2 1.歯内療法学の概要と治療に使用する器械、器具の用途、使用目的等の理解と薬剤の理解 2.歯内療法に関する疑問点、不明な所の質疑応答と国家試験問題の解説	歯内療法学の概要と治療に使用する器械、器具の用途、使用目的等の理解と薬剤の理解 国家試験に出題される大切なポイントを確認する。	わからないことなどを確認し、質問できるようにしておく。配布された問題は解答しておく。	教本、ノート、問題集など
53	(摂食機能訓練法分野) 国家試験問題解説①	重要なポイントを過去の問題を解きながら確認する。		
54	(保健指導法分野) 3 国家試験問題解説① (訪問保健指導の分野)	重要なポイントを過去の問題を解きながら確認する。		
55	(薬理学分野) 1 総論 中枢神経系作用薬 末梢神経作用薬 呼吸・循環器作用薬	総論、中枢神経系作用薬、末梢神経作用薬、呼吸・循環器作用薬について大切なポイントを再確認する。 国家試験問題を解き知識を深める。		
56	(歯科診療補助法分野) 4 口腔外科治療時の診療補助 矯正歯科治療時の診療補助	口腔外科、矯正治療時の歯科診療補について重要なポイントを再確認する。 国家試験に出題された大切なポイントを理解する。		
57	(口腔解剖口腔生理学分野) 2 国家試験問題集の質疑応答	口腔解剖口腔生理学に関する国家試験問題を解きながら大切なポイントを理解する。		
58	(歯科臨床総論分野) 1 復習 国家試験問題解説	歯科臨床総論に関する分野の理解を深める。 国家試験に関する問題を解き、重要なポイントを理解する。		
59	(衛生行政社会福祉分野) 1 衛生行政の概要とポイント整理	衛生行政の概要がわかる。 国家試験に出題される大切なポイントを確認する。		
60	(衛生行政社会福祉分野) 2 社会保障・社会福祉の概要とポイント	社会保障と社会福祉について理解する。 国家試験に出題される大切なポイントを確認する。		
61	(歯科器械学分野) 各種診療器材① 国家試験問題の解説	歯科診療に用いる器材について名称と用途を理解する。 国家試験に出題される大切なポイントを確認する。		
62	(摂食機能訓練法分野) 国家試験問題解説②	重要なポイントを過去の問題を解きながら確認する。		
63	(保健指導法分野) 4 歯・口腔の状態把握 歯垢染色剤 口腔汚染度評価 国家試験のための練習問題と解説	口腔の汚染度の確認手段、評価方法について再確認する。 国家試験に出題される大切なポイントを理解する。		
64	(公衆歯科衛生学分野) 歯磨剤について 指数(特にCP1) 国家試験過去問、テキストに沿った解説補足	歯磨剤、統計指数について理解を深める。 過去の国家試験問題を解き関連する重要なポイントを理解する。		
65	(薬理学分野) 2 止血材 抗炎症薬 ビタミン ホルモン 消毒薬 化学療法薬 腐食・収斂薬	薬理学に関する重要なポイントを再確認する。 国家試験に出題された問題の傾向と対策を確認する。		

回	授業計画	到達目標	準備学習	準備物
66	(栄養指導分野) 2 国試の麗人 8-3 食生活 8-4 食生活指導の基礎	食生活、食事摂取指導の基礎について理解する。 国家試験に出題された問題を解き、再確認する。	わからないことなどを確認し、質問できるようにしておく。配布された問題は解答しておく。	教本、ノート、問題集など
67	(歯科予防処置法分野) 5 小窩裂溝填塞、フッ化ジアンミン銀塗布	小窩裂溝填塞、フッ化ジアンミン銀塗布の重要なポイントについて再確認する。 国家試験に出題される大切なポイントを理解する。		
68	(歯科診療補助法分野) 5 小児歯科治療時の診療補助 エックス線写真撮影時の診療補助 救急蘇生法	小児歯科治療時およびエックス線写真撮影時の診療補助について再確認する。 救急蘇生時の診療補助について再確認する。 国家試験に出題された大切なポイントを理解する。		
69	(感染予防学分野) 国家試験問題解答と解説	国家試験に出題された大切なポイントを理解する。		
70	(保健指導法分野) 5 口腔清掃用具の知識 補助清掃用具の知識 ブラッシング法 対象別歯科保健指導 全身疾患と歯科保健指導 国家試験のための練習問題と解説	口腔清掃用具、補助清掃用具、ブラッシングの方法の利点、欠点について再確認する。 対象別歯科保健指導、全身疾患と保健指導の具体的内容について再度確認する。 保健指導法に関する国家試験に出題された大切なポイントを理解する。		
71	(口腔病理学分野) 2 根尖性歯周組織の病変 辺縁部歯周組織の病変 口腔癌 のう胞 顎骨病変 他 国家試験練習問題	根尖性歯周組織の病変、辺縁部歯周組織の病変、口腔癌、のう胞、顎骨病変について再確認する。 国家試験問題を解き、大切なポイントを理解する。		
72	(歯科臨床総論分野) 2 復習 国家試験問題解説	歯科臨床総論に関する分野の理解を深める。 国家試験に関する問題を解き、重要ポイントを理解する。		
73	(歯科器械学分野) 各種診療器材① 国家試験問題の解説	歯科診療に用いる器材について名称と用途を理解する。 国家試験に出題された問題を解き、復習をする。		
74	(歯科器械学分野) 各種診療器材② 国家試験問題の解説残り	歯科診療に用いる器材について名称と用途を理解する。 国家試験に出題された問題を解き、復習をする。		
75	(公衆歯科衛生学分野) 歯科疾患実態調査 健康日本21 国家試験に出やすいグラフの確認読み取り テキストに沿った解説と補足	歯科疾患実態調査、健康日本21、グラフに関する理解を深める。 国家試験に出題された重要なポイントを再確認する。		

基本情報

学科名	接遇 I	分野	選択必修分野 [基礎分野]			講師名	山本直子	
履修学年・学期	1年 前後期	授業方式	講義/演習	単位数	2単位	60時間	授業回数	30
教員の 実務経験	保育士。幼稚園教諭二種免許。企業などで接遇研修の講師を務めている。キャリアコンサルタントとして学生から社会人の就労相談やキャリアプランなどについての研修などを実施。							
授業との 関連性	企業の接遇講師の経験を踏まえ、社会人として必要な身だしなみ、マナー、言葉遣いなどについて講義・演習する。また、社会人としてキャリアを積み重ねていくための基本的な考え方・動き方などを伝える。							

詳細情報

授業目標	ビジネス社会で働く上で必要な社会常識、ビジネスマナー、コミュニケーション能力、社会人としての考え方、動き方などを身につける。「周りを思い遣ること」が自然にでき、行動（表現）できる自分づくり。									
成績評価 方法	定期試験	90点	小テスト レポート	5点	実技・発表 ワーク(演習) など	0点	受講態度	5点	合計	100点
	<b>(学則)</b> <b>合格点</b> ：60点以上とし、不合格の学科目は1回限り <b>再試験</b> を受けることができる。 <b>追試験</b> ：学期試験を欠席した場合は1回限り <b>追試験</b> を受けることができる。 <b>欠課</b> ：①開始20分以降の遅刻 ②終了20分以前の早退 ③同一学科目で遅刻及び早退を4回した者 <b>受験を認めない要件</b> ：各学科目の授業時間数が3分の2に満たない者									
教科書名	①歯科スタッフのためのケア・コミュニケーション (株式会社 ウイネット)									
参考文献	講師資料/①歯科スタッフのためのケア・コミュニケーション (株式会社 ウイネット) ②歯科医療接遇と医療コミュニケーション (医学情報社) ③実社会で求められるビジネスマナー (株式会社 専門教育出版)									
使用設備・備 品・準備物	数回、プロジェクターや歯科医師会館のホールを使用。									
履修上の 注意	①テキスト以外の資料整理のため「接遇専用ファイル」を用意する。 ②制服を着用する。 ③授業中の挨拶や返事、姿勢などの基本動作を常に意識しきちんと行う。 ④はっきり意思表示をし、ロールプレイは積極的に行う。 ⑤理解度確認と伝える力をつけるため、毎回、授業のまとめを書き提出する。									

回	授業計画	到達目標	準備学習	準備物
1	接遇マナーの心構え1 ①講義の目的と進め方 ②自己紹介 ③気持ちの良い挨拶の仕方	①接遇の意味を知り、日々の行動へ落とし込む。 ②自己紹介時のポイントを知り、できるようになる。 ③自己紹介の方法とメリットを知り、お互いをより深く知る。	(P)・接遇講座の目的 ・お辞儀と挨拶は～ ・自己紹介	
2	接遇マナーの心構え2 (身だしなみ) ①接遇5原則 ②第一印象の重要性 ③身だしなみについて ④挨拶を録画	①「接遇」の本質を知り、学院生活で実践する。 ②マナーとエチケットの違い、身だしなみとおしゃれの違いを知り、自らを振り返る。 ③第一印象の重要性を理解する。	(P)・接遇5原則 ・マナーの基本 ・見た目は～創る (T)P22 ※挨拶は班別に録画。	
3	挨拶の録画チェック (振り返り)	①フォーアフターの録画チェックで、より気持ちの良い挨拶を習慣化するための課題を確認する。 ②他者の気持ちの良い挨拶も参考にする。		
4	自分を知る、他人を知る	①自分で思っている自分の印象、他者の印象を知り、自分が知らない自分に気づく。 ②自分を大切に思うことが、他者をも大切に思うことにつながることに気付いてもらう。		
5	接遇マナーの心構え3 (表情・声) ①非言語コミュニケーションを身につける ②言葉以上の影響力「声・表情」	①フォーアフターの録画チェックで、より気持ちの良い挨拶を習慣化するための課題を確認する。 ②非言語的コミュニケーションとは何かを知る。 ③声の重要性、発声の仕方を身につける。	(T)P16-21 (P)基本動作、応用動作 発音練習、滑舌練習	
6	接遇マナーの心構え4 ①立ち居振る舞い ②始業・終業のあいさつ、返事の仕方 ③遅刻・中座のマナー、入退室のマナー	②正しい姿勢で始業、終業のあいさつができる。 ③笑顔と元気な声で返事ができる。 ④遅刻や中座、入退室時のあいさつができる。	(T)P23-27 (P)応用動作	

回	授業計画	到達目標	準備学習	準備物
7	①廊下や階段でのマナー ②ドアのマナー ③エレベーターや乗り物のマナー	①様々な場面で気持ちの良いあいさつができる。 ②基本姿勢(立ち方、座り方、歩き方)ができる。 ③様々なシーンでの立ち居振舞いを知る。 ④1ヶ月挨拶を練習した成果を確認する。	・前回資料	
8	指示・命令の受け方 ①聴き方、受け方	①ビフォーアフターの録画チェックで、より気持ちの良い挨拶を習慣化するための課題を確認する。 ②業務遂行の基本の指示命令の受け方を知る。	(P)TX③命令の受け方	
9	報告・連絡の仕方 ①報告・連絡・相談・確認時のポイント ②事例による報告・連絡ロールプレイ	①報告・連絡・相談のポイントを知る。 ②「指示命令→報告」「確認」のロールプレイを通して実践に繋いでいく。	(P)TX②報告連絡相談 TX③報告の仕方(ロールプレイ) (T)P112-115	
10	言葉遣い1 ①敬語の重要性・種類 ②敬語の分類(尊敬語・謙譲語・丁寧語・丁寧語・美化語)	①敬語の重要性を理解する。 ②尊敬語と謙譲語の違いを理解する。	(T)P28-29 (P)TX③P16-19 尊敬語と謙譲語をマスター	
11	言葉遣い2 ①敬語の使い分け(社内での使い分け、社内外の使い分け)	①内部と外部の呼称の使い分けができる。 ②ワークシートを通して、様々な敬語の使い分けを理解する。	(P)・TX③尊敬語と謙譲語の書き換えワーク	
12	言葉遣い3 ①クッション言葉 ②職場用語、接客用語 ③依頼形	①クッション言葉を使用した言い回しを学ぶ。 ②依頼形や肯定表現を用い、言い方が変われば伝わり方が変わることを知る。	(P)言葉遣いについて(クッション言葉、肯定表現、依頼形)	
13	言葉遣い4 ①肯定表現、否定表現、マイナスプラス法、サンドイッチ法ほか) ②相手に伝わる言い方	①言い回しを変えることで伝わり方が変化することをワークを通して知る。	(P)気をつけたい敬語の誤用、おかしな敬語、	
14	言葉遣い5 ①使ってはいけない言葉遣い ②陳謝の言葉、依頼するときの言葉	①使わない方がいい表現とは何か、最適な言葉遣い、言い回しを考える。 ②陳謝や依頼時の誠意が伝わる言い方を学ぶ。	(T)・謝罪時の言葉遣い ・使ってはいけない言葉遣い	
15	言葉遣い6 ①敬語の総復習(ワーク)	①陳謝や依頼時の誠意が伝わる言い方を学ぶ。 ②これまでの授業内容の理解度ををはかる。 ③不足部分を認識し、意識して使えるようになる。	(P)言葉遣いワークシートで、これまでの言葉遣い、言い回しを見直し、理解度を確認	
16	食事のマナー ①和食のマナー ②箸の使い方、器の上げ下げなど所作 ③洋食のマナー	①ご自宅を訪問する際の立ち居振る舞い、気遣い、心配りなどを知る。	(P)・和食のマナー ・洋食のマナー ・食事の作法	
17	訪問時のマナー ①準備(アポイント、手土産や服装など) ②お宅で ③訪問後のマナー	①ご自宅を訪問する際の立ち居振る舞い、気遣い、心配りなどを知る。	(P)訪問のマナー	
18	冠婚葬祭1 ①冠婚葬祭とは ②結婚式のマナー(招待状の返信、受付、身だしなみ、ご祝儀など)	①冠や祭の意味を知り、日常生活のコミュニケーションに役立てる。 ②忌み言葉など祝い事ならではの気遣いを知る。 ③様々な祝い事を教養として知る。	(P)・招待状の返信 ・袱紗の包み方 ・ご祝儀袋、不祝儀袋の包み方	
19	冠婚葬祭2 ①葬儀の心得 ②通夜や告別式でのマナー ③お香典について	①仏教、神道、キリスト教など宗派による相違やしきたりを学ぶ。 ②個人的のみならず、業務上でのお悔み時にすべきポイントなどを知る。	(P)・宗派によるご焼香の違い ・弔電、訃報	



回	授業計画	到達目標	準備学習	準備物
20	来客対応1 ①名刺の取扱い方、名刺交換の仕方 ②紹介のマナー ③席次	①名刺の役割、取扱いで気を付けることなどを知り、実際に授受を体験する。 ②物の受け渡し、名刺の授受の基本を知る。 ③様々な状況での上座下座を知る。	(P)TX③49-55名刺のエピソード、扱い方、席次、ドアの開閉、紹介の順番	
21	来客対応2 ①受付～名刺の受け渡し～誘導・方向の指示し方～ドアの開閉～見送り ②応対時の様々な言葉かけ	①誘導の仕方、方向指示の仕方、ドアの開閉の仕方、階段の昇降などの立ち居振る舞いを知る。 ②心が伝わる環境設営、声掛けを考える。	(P)・来客対応の基本 ・心構え、ステップ ・取り次ぎ、案内	
22	来客対応3 ①お茶の接待 ②来客対応ビデオ視聴	①美味しいお茶の入れ方、スマートなお茶の出し方、接待時のポイントを知る。 ②ビデオを視聴し、現場での動き方を確認する。	(P)お茶の出し方プリントを見ないでできるように前回の所作を復習。	プロジェクター使用
23	来客対応ロールプレイ<練習> <受付～名刺の授受～誘導～お茶の接待～見送り>	①来客対応の一連の流れを実践する。 ②お客様、受付、上司の役割を経験することにより、より気持ちの良い、スムーズな応対を体感する。	(P)受付から見送りまでの一連の流れを一人で一通りできるよう復習。	
24	来客対応ロールプレイ<実践> <お茶の接待>	①来客対応の一連の流れを一人でロールプレイする。(ロールプレイ評価)	前回の振り返りをし、所作や声掛け、挨拶などを確認し、実際にできるようにしてくる	医師会館ホールをお借りできればと思います。
25	ビジネス文書1 ①文書を受発信 ②宛名の書きかた ③手紙の書きかた	①手紙の組み立て方や書きかたを知る。 ②お礼状を実際に書いてみる。 ③手紙を書くときの様々なポイントを確認する。	(P)・TX③P62-68ビジネス文書の作成、取り扱い、用語など ・宛名書きワーク	
26	ビジネス文書2 ①社外文書の形式 ②間違い探し(ワーク)	①時候の挨拶、頭語-結語など対外文書の形式を知る。 ②文書の間違いを見つけ出す。	(P)TX③P69-71ビジネス文書の見本、間違い探し、文書を受発信	
27	メール・FAXなどの送受信 ①受発信 ②メールの作成(本文の書き方) ③SNSのマナー	①メールやFAX使用時の基本や作成のポイントを知る。 ②実際に報告メールを作成してみる。 ③SNSの注意点、コンプライアンスなどを知る。	(P)・メール送受信時のマナー ・FAX送信の留意点 ・SNS利用について	
28	自らを知る ①タイプ別診断 ②感情と行動の傾向を知り、他者とのコミュニケーションのポイントを考える	①感情と行動の傾向を知り、他者とのコミュニケーションのポイントを考える	(T)P52-53、P126Eプログラム自己チェックシート	
29	目標設定の仕方 ①自分はどんな衛生士になりたいか ②現状認識と具体的な行動計画の立て方 ③1年後、5年後のキャリアを考える	①歯科衛生士としてのキャリアを考える。 ありたい自分の姿を具体的に思い浮かべる。	自分の1年後、5年後、10年後を考えてくる。 (ワークシート記入)	
30	まとめ ①1年次の振り返りおよび目標設定 ②接遇について思うこと(レポート)	①1年次を振り返り、身につけたこと、できなかったこと、今後の課題などを明確にし目標設定する。 ②有言実行していけるよう相互激励する。	1年次を振り返り、課題を見つけ、2年次に向けての目標を考えてくる (P)振り返りと目標シート (P)接遇について	



基本情報

学科目名	待遇Ⅱ	分野	選択必修分野 [基礎分野]			講師名	山本直子		
履修学年・学期	2年 前後期	授業方式	講義/演習	単位数	2単位	60時間	授業回数	30	
教員の実務経験	保育士。幼稚園教諭二種免許。企業などで接客研修の講師を務めている。キャリアコンサルタントとして学生から社会人の就労相談やキャリアプランなどについての研修などを実施。								
授業との関連性	企業の接客講師の経験を踏まえ、社会人として必要な身だしなみ、マナー、言葉遣いなどについて講義・演習する。また、社会人としてキャリアを積み重ねていくための基本的な考え方・動き方などを伝える。								

詳細情報

授業目標	ビジネス社会で働く上で必要な社会常識、ビジネスマナー、コミュニケーション能力、社会人としての考え方、動き方などを身につける。「周りを思い遣る」ことが自然にできる自分づくり。									
成績評価方法	定期試験	90点	小テストレポート	5点	実技・発表ワーク(演習)など	0点	受講態度	5点	合計	100点
	<b>(学則)</b> 合格点；60点以上とし、不合格の学科目は1回限り再試験を受けることができる。 追試験；学期試験を欠席した場合は1回限り追試験を受けることができる。 欠課；①開始20分以降の遅刻 ②終了20分以前の早退 ③同一学科目で遅刻及び早退を4回した者 受験を認めない要件；各学科目の授業時間数が3分の2に満たない者									
教科書名	①歯科スタッフのためのケア・コミュニケーション (株式会社 ウイネット)									
参考文献	講師資料/①歯科スタッフのためのケア・コミュニケーション (株式会社 ウイネット) ②歯科医療接客と医療コミュニケーション (医学情報社)									
使用設備・備品・準備物										
履修上の注意	①資料をファイルするための「接客専用バインダー」を用意する。 ②習ったことを必ず実践する。 ③気持ちの良い返事、美しい姿勢など、基本動作をきちんと行う。 ④はっきり意思表示し、ロールプレイは積極的に行う。 ⑤あいさつや返事は、良い姿勢、良い表情、相手に届く良い声で。									
回	授業計画	到達目標				準備学習			準備物	
1	目標の共有 ①班の中でお互いに目標発表。目標達成を応援しあう。	①達成に向けての意欲と意識をもち、日々の行動を変えていく。 ②他者の目標や考えを聴くことにより、よりよい気づきとヒントを得て、実践に繋いでいく。				(P)TX②P6-7 1年次最後に立てた目標を持参。				
2	歯科医療接客の重要性 ①患者様が求める人材とは ②患者様は何を評価しているのか ③伸びる人材とは	①医療における「接客」の意義や重要性を再認識する。 ②歯科衛生士としてありたい姿を見出す。				(P)TX②P8-11 行動具体系を基本動作 チェックシートに記入し毎回確認する。				
3	様々な場面での安心感を高める立ち居振る舞い ①施設内での立ち居振る舞い ②ご案内で気を付けること	①1年次の基本を振り返りながら、現場での立ち居振る舞いを想像し、自分の動き方を考えてみる。 ②実際にロールプレイで確認する。				(T)P23-27				
4	交換・安心感を高める言語コミュニケーション ①クッション言葉 ②依頼形、肯定表現 ④意向に添えない場合の代案	①敬語が使えるだけでなく、好感を持っていただける言い回し、言い方ができているか確認する。				(T)P28-35				
5	院内での声掛け1 ①声掛けの際の基本 ②よく使用する基本表現 ③受付～待合室での声掛け	①様々な場面での言い回しや、気遣いの②③				(T)P36-42				
6	院内での声掛け2 ①診察室、チェアサイドでの声掛け ②会計、次回予約時の声掛け					(T)P42-48				
7	電話の基本 ①電話の仕組み ②電話対応の心構え・流れ ③電話対応ビデオ視聴	①電話対応の基本を知り、実践できる。 ②電話で話すときの声のトーンや大きさ、スピードなどを知る。 ③実技ビデオを視聴し、実際の場面を想像する。				(P)電話の受け方			プロジェクター使用	

回	授業計画	到達目標	準備学習	準備物
8	電話対応1 ①受け方のポイント ②名乗らないとき、聞き直すとき、聞き取りにくい時、携帯電話のとき など	①受ける際の基本を学び、ロールプレイで実践する。 ②様々な場面での受け応え方を知る。	(P)電話の受け方	
9	電話対応2 ①電話のかけ方 ②かけるときの気遣い	①電話をかけるときのポイントを知る。 ②かけるときの気遣いを考える。	(P)電話の受け方	
10	電話対応3 ①不在時の電話対応(ワーク)	①名指し人に取り次げない場面での様々な対応を知る。 ②基本取次が言えるようになる。 ③表情も態度も必要であることを体験する。	(P)不在時の対応	
11	電話対応4 ①職場での様々な電話対応 ②伝言の受け方・伝え方 ③伝言メモの書きかた(ワーク)	①様々な場面での対応の仕方、言葉遣いを知る。 ②ロールプレイで実際に体験する。 ③自分の声を聞いて、さらに気持ちの良い電話対応を目指す。	(P)・こんなときどうする ・伝言ワークシート	
12	電話対応5 ①自分の声を確認する ②ロールプレイ(2人組)	①2人組で名指し人が不在の場合のロールプレイをする。 ②自分の対応を実際に聴き、言い方・話し方・言葉遣い・口調・スピードなどを確認する。	自分の声、他者の声を聴き、気持ちの良い発声、言い方を考える。	
13	質問のコミュニケーション効果 ①質問の効果 ②うまくいかない質問とは ③こんな時の質問は	①情報収集のみならず、相手の話したいことを引き出し会話を弾ませる質問の仕方を理解する。 ②NG、OKな関わり方を知り、日常に活かす。	(P)・質問の効果 ・こんな場合は?	
14	受容と共感のコミュニケーション1 ①受容と共感のスキル ②傾聴のスキル ③アサーティブなコミュニケーション	①受容的な反応、非受容的な反応を理解し、ロールプレイで体感し、その時の感情を経験する。 ②傾聴の姿勢や行動を知り、ロールプレイで確認する。	(T)P50-52 ロールプレイ時は実習を想定し、言い回しや伝え方を工夫すること。	
15	受容と共感のコミュニケーション2 ①アサーティブなコミュニケーション(対応事例を考える)	①相手のご満足を得、信頼関係を築くためにはどのようなやり取りが必要かを考える。	(T)P54-59 ロールプレイ時は実習を想定し、言い回しや伝え方を工夫すること。	
16	苦情・クレーム対応の基本1 ①クレームのメカニズム ②クレームに対する心構え ③対応のステップと気を付けること	①クレームとは何か、対応の心構えを知る。 ②対応時の言葉遣いや表情、態度を確認する。	(T)P60-62 対応のステップを覚える。	
17	苦情・クレーム対応の基本2 ①要求に答えられない場合の対応 ②様々な「謝罪」の仕方 ③様々な「提案」の仕方	①実際の現場での対応を考える。 ②ロールプレイを通して、その対応が相手にとってどのようなものであるかを確認する。	(T)P63-64 ロールプレイ時は実習を想定し、言い回しや伝え方を工夫すること。	
18	苦情・クレーム対応の基本3 ①ケーススタディ	①実際の現場での対応を考える。 ②ロールプレイを通して、その対応が相手にとってどのようなものであるかを確認する。	(T)P65-72 ロールプレイ時は実習を想定し、言い回しや伝え方を工夫すること。	
19	相手のやる気を引き出すコミュニケーション1 ①コーチングの基本 ②歯科医療でのコーチングの有効性 ③コーチングのコアスキル	①相手のやる気を引き出し、信頼を深める関りであるコーチングの基本を知る。	(T)P89-92 ロールプレイ時は実習を想定し、言い回しや伝え方を工夫すること。	
20	相手のやる気を引き出すコミュニケーション2 ①コーチングの基本 ②歯科医療でのコーチングの有効性 ③コーチングのコアスキル	①相手のやる気を引き出し、信頼を深める関りであるコーチングの基本を知る。	(T)P93-98 ロールプレイ時は実習を想定し、言い回しや伝え方を工夫すること。	

回	授業計画	到達目標	準備学習	準備物
21	相手のやる気を引き出すコミュニケーション ①目標設定や課題認識・分析を支援する ②行動化を支援する	①実際の現場での対応を考える。 ②ロールプレイを通して、その対応が相手にとってどのようなかを確認する。	(T)P99-105 ロールプレイ時は実習を想定し、言い回しや伝え方を工夫すること。	
22	【現場での対応1（受付で）】 ①初診の患者様の受付 ②診察券や保険証をお忘れの場合 ③会計時のやり取り ④予約受け	①まず相手の要求がなんであるかを正しく見極める。 ②その先にある言葉にならない要求を探し出す。 ③相手の感情を想像し、満足を得、信頼関係を築くためにはどのようなやり取りが必要かを考える。	(T)P80-81 より良い対応をディスカスする。 ロールプレイで確認し、完成後は実践に活かせるよう復習。	
23	【現場での対応2（ユニットで）】 ①「時間が合わない」という患者様 ②「多忙で来られない」という患者様	①まず相手の要求がなんであるかを正しく見極める。 ②その先にある言葉にならない要求を探し出す。 ③相手の感情を想像し、満足を得、信頼関係を築くためにはどのようなやり取りが必要かを考える。	より良い対応をディスカスする。 ロールプレイで確認し、完成後は実践に活かせるよう復習。	
24	高齢の患者様、小児の患者様との関わり ①小児の患者様対応のポイント ②高齢の患者様対応のポイント	①小児の患者に対して気を付けるべきポイントとあわせて、保護者に対する関わりも考える。 ②高齢になると身体的・精神的にどうなるのかを理解し、医療の現場でどのような配慮が必要かを考える。	(P)小児・高齢の患者様への対応 ・コミュニケーションのポイントを覚える。	
25	配慮ある支援が必要な患者様との関わり ①視覚障害者 ②聴覚障害者 ③言語障害者	①様々な障害がどのようにについての理解を深め、医療の現場でどのような状況になるのかを知る。 ②障害をお持ちの方に対するそれぞれの配慮のポイントおよび心構えを学ぶ。	(T)P106-109 コミュニケーションのポイントを覚える。	
26	<執務の基本>の復習 ①指示命令の受け方、報告連絡の仕方 ③整理整頓の仕方	①実習時の指示・命令や報告・連絡を想定し、ロールプレイする。 ②整理整頓の基本を確認し、日常生活に活かす。	(T)P112-116 (P)・指示命令の受け方、報告連絡の仕方 ・整理整頓のコツ	
27	より良いチーム作りのために ①職場内での配慮ある表現 ②会議やミーティングの参加・運営 ③読みやすい文章の基本	①失敗や間違いをした時の態度や対応を知り、学院生活や実習で、実践する。 ②会議参加の基本を知る。 ③わかりやすい説明、文章のポイントを確認する。	(T)P116-124 (P)読みやすい文章ワーク	
28	チームビルディング（協働）の実現と相互コミュニケーション	①チームで働くために必要な要素を知る。 ②そのために自分はどう動き、何を身につけねばならないかをワークを通して考える。		
29	自己啓発と目標設定 ①自己啓発とは ②目標設定の重要性とポイント ③マンダラートの作成	①自己啓発とは何かを知り、今後の人生に役立てる。 ②日々の生活、人生においても大変重要な目標設定の仕方やポイントを知り、実際に目標設定してみる。		(P)マンダラートシート
30	まとめ ①「働く」ということ ②学生と社会人の違い ③目標と今後の決意	①「働く」とはどのようなことなのかを改めて考え、3年次の実習に向けての自身の心構えを確認する。 ②目標を発表し、相互激励し有言実行する。 ③他者の価値観や目標を知ることで自分を振り返る。	(P)TX2P6-7 1年次最後に立てた目標を持参。行動具体策を基本動作チェックシートに。	

基本情報

学科名	高齢者医学総論	分野	選択必修分野 [専門分野] 高齢者医学総論			講師名	澤 美穂		
履修学年・学期	2年 前期	授業方式	講義	単位数	1単位	15時間	授業回数	8	
教員の 実務経験	看護師として病院勤務(病棟、手術室、内視鏡室など担当)介護老人保健施設で看護、介護師長、ケアマネージャーとして勤務。現在は介護福祉に関わる養成校にて非常勤講師として勤務。								
授業との 関連性	看護師として病院・診療所や介護老人保健施設で長年培った経験を踏まえ、加齢に伴う身体的・精神的・心理的特徴や高齢者に多い全身疾患について講義する。								

詳細情報

授業目標	①高齢者の身体機能の特徴を知り、生理的な加齢が身体や心理に及ぼす影響や疾病について理解できる ②超高齢社会の現状を把握し、老化に伴って起こる全身状態、生活機能の状況を理解し、専門職としての観察や支援ができる									
成績評価 方法	定期試験	100点	小テスト レポート	点	実技・発表 ワーク(演習) など	点	受講態度	点	合計	100点
	(学則) 合格点：60点以上とし、不合格の学科目は1回限り再試験を受けることができる。 追試験：学期試験を欠席した場合は1回限り追試験を受けることができる。 欠課：①開始20分以降の遅刻 ②終了20分以前の早退 ③同一学科目で遅刻及び早退を4回した者 受験を認めない要件：各学科目の授業時間数が3分の2に満たない者									
教科書名	歯科衛生学シリーズ「高齢者歯科学」 植田耕一郎著 他 医歯薬出版KK									
参考文献	高齢者歯科学テキスト 医歯薬出版株式会社									
使用設備・備 品・準備物	高齢者歯科学テキスト									
履修上の 注意	パワーポイントなどは使用せず、テキスト中心に授業を展開します。必要な内容は板書します。									
回	授業計画				到達目標				準備学習	
1	(Ⅱ編 第1・2章) 加齢に伴う身体機能の変化、精神、心理的な変化について理解できる				1. 加齢に伴う身体的特徴、全身的な変化について理解できる 2. 高齢者の心理的理解と対応方法が理解できる				P46~P63	
2	(Ⅱ編 第3章) 高齢者に多い全身疾患、障害及び口腔疾患について理解できる				1. 生活習慣病の疾病の特徴や歯科治療との関連について理解できる				P64~P72	
3	(Ⅱ編 第3章) 高齢者に多い全身疾患、障害及び口腔疾患について理解できる				1. 生活機能を低下させる全身疾患について理解できる (脳血管疾患、認知症)				P72~80	
4	(Ⅱ編 第3章) 高齢者に多い全身疾患、障害及び口腔疾患について理解できる				1. 神経、筋疾患、フレイル、サルコペニアについて理解できる				P80~P88	
5	(Ⅱ編 第3章) 高齢者に多い全身疾患、障害及び口腔疾患について理解できる				1. 高齢者に特有な口腔疾患、症状について理解できる				P88~P100	
6	(Ⅲ編 第1章) 高齢者の生活機能の評価スケールについて理解できる				1. 生活機能評価項目、評価方法が理解できる				P102~P113	
7	(Ⅲ編 第2章) 高齢者歯科と臨床検査について理解できる				1. バイタルサイン、血液検査について理解できる				P114~P121	
8	(Ⅲ編 第3、4章) 高齢者の栄養状態、栄養評価、栄養方法、薬剤服用の注意点が理解できる				1. 高齢者の栄養状態、方法について理解できる 2. 高齢者の薬剤服用の注意点などの理解が出来る				P122~P138	



基本情報

学科名	医療保険事務	分野	選択必修分野 [専門分野]			講師名	松岡 拓治	
履修学年・学期	3年 前期	授業方式	講義/演習	単位数	1 単位	15時間	授業回数	8
教員の 実務経験	歯科医師。東京医科歯科大学歯学部冠燐義歯学講座入局。熊本県歯科医師会元理事。歯科診療所院長。							
授業との 関連性	臨床歯科医、熊本県歯科医師会前理事としての知識、経験を踏まえ、介護保険制度の概要、居宅や施設への訪問診療・口腔健康管理と介護保険の関りについて講義する。							
学科名	医療保険事務	分野	選択必修分野 [専門分野]			講師名	中川 真樹	
履修学年・学期	3年 前期	授業方式	講義/演習	単位数	1 単位	15時間	授業回数	8
教員の 実務経験	歯科医師。歯科診療所院長。							
授業との 関連性	臨床歯科医としての経験を踏まえ、日常診療に係る医療保険制度の概要やコンピューターを活用した歯科診療について講義する。							

詳細情報

授業目標	<松岡拓治> 1. 介護保険の内容を理解する。 2. 介護保険報酬請求の実務を行える。 3. 居宅や施設での口腔ケアの実施にあたり、他職種との連携を図るための知識を獲得する。 <中川真樹> 1. 医療保険を理解する。 2. 保険医療の実務を理解し、レセコンを使ってレセプトが発行できるようになる。 3. 居宅や施設での口腔ケア等の実施にあたり、他職種との連携を図るために必要な介護保険の知識を獲得する。									
	定期試験	松岡先生40点 中川先生60点	小テスト レポート	点	実技・発表 ワーク(演習) など	点	受講態度	点	合計	100点
成績評価 方法	(学則) 合格点：60点以上とし、不合格の学科目は1回限り再試験を受けることができる。 追試験：学期試験を欠席した場合は1回限り追試験を受けることができる。 欠課：①開始20分以降の遅刻 ②終了20分以前の早退 ③同一学科目で遅刻及び早退を4回した者 受験を認めない要件：各学科目の授業時間数が3分の2に満たない者									
教科書名	「歯科衛生士のための衛生行政社会福祉社会保険 第10版」 末高武彦著 医歯薬出版									
参考文献	厚生省のホームページ 介護支援専門員基本テキスト 新訂 医療事務の手引き 令和2年度版 社会保険研究所 保険診療ハンドブック 熊本県歯科医師会									
使用設備・備 品・準備物	プロジェクター									
履修上の 注意										
回	授業計画				到達目標			準備学習		準備物
1	<松岡拓治> 介護保険の概要と仕組み				基礎知識の獲得 高齢者の医療福祉の流れと介護保険を理解する。					厚生省資料
2	<松岡拓治> 介護保険と歯科の関わり				居宅療養管理指導について理解する					厚生省資料
3	<中川真樹> 医療保険の仕組み				医療保険の種類について説明できる			P9, 10を読む		
4	<中川真樹> 医療保険と歯科衛生士				算定における歯科衛生士の役割を理解する					
5	<中川真樹> 医療保険における歯科衛生士の実務				算定における歯科衛生士の実務を理解する					
6	東和ハイシステム協力 レセコン操作演習①				レセコン操作について学ぶ①					
7	東和ハイシステム協力 レセコン操作演習②				レセコン操作について学ぶ②					
8	東和ハイシステム協力 レセコン操作演習③				レセコン操作について学ぶ③					



基本情報

学科目名	看護概論	分野	選択必修分野 [専門分野]			講師名	成瀬 信裕		
履修学年・学期	1年 後期	授業方式	講義/演習	単位数	1単位	15時間	授業回数	8	
教員の 実務経験	看護師歴42年 病院に勤務しながら看護専門学校にて非常勤講師で経験 (看護概論)								
授業との 関連性	長年看護業務に係った経験や看護専門学校の非常勤講師として培った知識や技術をもって、歯科衛生士に必要な看護技術、コミュニケーションスキルや医療安全構築のための講義・演習を行う。看護概論の基礎はナイチンゲール看護論								

詳細情報

授業目標	1. 歯科衛生士に必要な基本的な看護知識の理解と看護技術のスキルを習得する。 2. 人々の生活行動について、それらは健康とどのようにつながっているかを理解し、看護の視点から対象の健康問題を見出し、その上で対象者の生活行動を健康な状態に整える基本的な援助技術を学習する。 3. 歯科衛生士の専門職業人として、人間関係の成立の基本となるコミュニケーションスキルを高める。									
成績評価 方法	定期試験	90点	小テスト レポート	(2点×5 回) = 10 点	実技・発表 ワーク(演習) など	点	受講態度	点	合計	100点
	(学則) 合格点：60点以上とし、不合格の学科目は1回限り再試験を受けることができる。 追試験：学期試験を欠席した場合は1回限り追試験を受けることができる。 欠課：①開始20分以降の遅刻 ②終了20分以前の早退 ③同一学科目で遅刻及び早退を4回した者 受験を認めない要件：各学科目の授業時間数が3分の2に満たない者									

教科書名 歯科衛生士のための看護学大意 柴原孝彦著 医歯薬出版

参考文献  
 1. 湯横ます 他 ナイチンゲール『看護覚え書』 現代社  
 2. 湯横ます 他 ヘンダーソン『看護の基本となるもの』 日本看護協会出版社  
 3. 金井ひとえ 実践を創る 新看護学原論  
 4. 金井一薫 ナイチンゲール看護論入門  
 5. ビジュアル臨床看護技術

使用設備・備  
品・準備物

履修上の  
注意  
 1. 授業前にMoodleによる事前学習・ 授業後の復習  
 2. 講義を進める中で、学生さんへの問いかけを多く行います。(間違いを恐れずに発言ください)  
 目的：問いかけに対して、思考する時間が重要 他者の意見を聞いたときに、脳への刺激が強くインプットされ  
 学習効果が高まる  
 3. 講義終了毎に、授業の感想・質問など記載を依頼します。期限内に入力ください。  
 講義未受講時は、補講レポートの提出

回	授業計画	到達目標	準備学習	準備物
1 (9/19)	【看護の技術】 教科書P24~42 歯科衛生士が知っておくべき看護技術 ① バイタルサインについて  【看護概念】 看護の定義 看護の対象 看護の目標 看護の役割  授業の進め方 グループ編成 ①~④グループ編成(ローテーション実習) 1. 全体講義 オリエンテーション バイタルサイン導入 2. グループ学習(4グループ) ① バイタルサインの自己学習 (グループワーク研 修) ② バイタルサインの実技指導 (講師:黒川講師) ③ バイタルサインの実技 (グループワーク研 修) ④ バイタルサインの変化の体感 (成瀬講師) 3. 全体講義(実習の振り返り)	バイタルサインの測定方法を理解する 体温：正しく測定出来る 脈拍：正しく測定出来る 呼吸：正しく測定出来る 血圧：正しく測定出来る  バイタルサインの正常値を学ぶ 臨床でのバイタルサインの意味を理解する 患者を守る、臨床スキルを身につけましょ う！	moodle事前学習	実習室使用 昨年と同じ物品 グループ編成
2 (9/19)	【看護の技術】 教科書P62~ 歯科衛生士が知っておくべき看護技術 ①採血について ②吸引および酸素吸入について  【看護概念】 看護の定義 看護の対象 看護の目標 看護の役割  講義の進め方 グループ編成 ①~④グループ編成(ローテーション実 習) ① 採血実習エリア(40分) (松尾講師) ② 吸引・酸素吸入エリア(40分) (講師:黒川) ③・④ 講義 (成瀬講師)	1. 採血に必要な解剖生理が解り、合併症を 予測できる 2. 吸引に関する解剖生理が解り、合併症を 予測できる (歯科衛生士の日常業務における予備知識の 必要性とリスク予測の重要性を看護行為から 学び取る)  3. 歯科衛生士に必要な看護概念を 理解する 看護の5つのものさしについて理解 する 歯科衛生士の実践で、看護の5つの ものさしが活用出来る	moodle事前学習	実習室使用 昨年と同じ物品 グループ編成
3 (10/17)	【看護の技術】 教科書P24~42 歯科衛生士が知っておくべき看護技術 ① バイタルサインについて  【看護概念】 看護の定義 看護の対象 看護の目標 看護の役割  授業の進め方 グループ編成 ①~④グループ編成(ローテーション実 習) ① バイタルサインの自己学習 (グループワーク研 修) ② バイタルサインの実技指導 (講師:黒川講師) ③ バイタルサインの実技 (グループワーク研 修) ④ バイタルサインの変化の体感 (成瀬講師) 3. 全体講義(実習の振り返り)	バイタルサインの測定方法を理解する 体温：正しく測定出来る 脈拍：正しく測定出来る 呼吸：正しく測定出来る 血圧：正しく測定出来る  バイタルサインの正常値を学ぶ 臨床でのバイタルサインの意味を理解する 患者を守る、臨床スキルを身につけましょ う！	moodle事前学習	実習室使用 昨年と同じ物品 グループ編成
4 (10/17)	【看護の技術】 教科書P62~ 歯科衛生士が知っておくべき看護技術 ①採血について ②吸引および酸素吸入について  【看護概念】 看護の定義 看護の対象 看護の目標 看護の役割  講義の進め方 グループ編成 ①~④グループ編成(ローテーション実 習) ① 採血実習エリア(40分) (松尾講師) ② 吸引・酸素吸入エリア(40分) (講師:黒川) ③・④ 講義 (成瀬講師)	1. 採血に必要な解剖生理が解り、合併症を 予測できる 2. 吸引に関する解剖生理が解り、合併症を 予測できる (歯科衛生士の日常業務における予備知識の 必要性とリスク予測の重要性を看護行為から 学び取る)  3. 歯科衛生士に必要な看護概念を 理解する 看護の5つのものさしについて理解 する 歯科衛生士の実践で、看護の5つの ものさしが活用出来る	moodle事前学習	実習室使用 昨年と同じ物品 グループ編成

回	授業計画	到達目標	準備学習	準備物
5 (11/7)	【看護の実務】 教科書P83～ 1 歯科衛生士に必要な看護実務 患者の観察と記録 洗浄・消毒・滅菌 感染対策の基礎	患者の観察方法と記録の仕方が解る 洗浄・消毒・滅菌の基礎知識を学ぶ 模擬による患者の観察と記録が実践できる 滅菌と消毒の違いが説明できる 清潔ゾーンと不潔ゾーンの区別ができる	moodle事前学習	ガウンテクニック用物品
6 (11/7)	【看護の実務】 教科書P00～ 1 歯科衛生士に必要な看護実務 感染対策および医療安全の基礎 感染対策および医療安全の実践 全体のまとめ	ガウンテクニックが実践できる 1人でKYTが実践できる チームリーダーとしてKYTの実践ができる 全体的な振り返りができる	moodle事前学習	
7 (12/5)	【看護実務】 1. 歯科衛生士として、どこでどのように働くのか？ 病院における歯科衛生士 地域における歯科衛生士  学院で3年間学ぶ意義を看護の視点で考える	グループワークでの役割を理解 グループ内での発言グループ間発表 全体発表タイムマネージメント 病院における歯科衛生士について理解する 地域活動における歯科衛生士の役割を理解する 歯科衛生士に必要な患者との関わりを、看護の視点で理解する 本学院で3年間で学ぶカリキュラムの必要性を理解する	moodle事前学習	グループワーク 歯科医師会会館 4階 ホールでの講義
8 (12/5)	全体の振り返り  ◆ バイタルサインの意味 ◆ 必要とする病態生理と解剖（なぜ、学ぶのか） ◆ 医療安全と感染管理の重要性 ◆ 患者とのコミュニケーションスキル ◆ 楽しく仕事をする為に、看護の5つのものさしを活用する		moodle事前学習	